

- (リ) 爐壁面ノ高溫度氣流ノ調整ヲ圖ルタメ左圖ノ如ク爐體ノ上面ニ錐狀ノ整流裝置ヲ設クルコト
- (ヌ) 火造爐ノ上部ニハ二重ノ漏斗型排氣裝置ヲ設置スルコト
コノ場合圓形「ダクト」ハ其ノ直徑ヲナルベク大キクスルコト
- (ル) 爐體ノ幅射熱ヲ防止スル爲作業部署ニ面スル側ニ防熱スクリーンヲ設クルコト
- (ヲ) 高溫度又ハ火氣ノ虞アル作業場内ニ於テハ不燃性ノ遮蔽幕ヲ使用スルコト
- (ワ) 其ノ他必要ナル事項
 - (1) 高熱作業者ノ交替、作業時間、休憩ニハ特別ノ考慮ヲ拂フコト
 - (2) 高熱作業者ニ對シテハ熱中症豫防ノ爲飲料水、食鹽、ビタミンB及ビC等ヲ準備シ適宜飲用セシムルコト
 - (3) 高熱作業場ニ於テハ比較的涼シキ場所ヲ選定シ簡易ナル休憩設備ヲ設クルコト
 - (4) 顔面ヘノ幅射熱ヲ防止スル爲作業ノ種類ニヨリ金網製マスクヲ用ヒルコト
- (D) 有害瓦斯ノ發生スル作業場及粉塵多キ作業場
 - (イ) 有害瓦斯ノ發生又ハ漏洩ノ虞アル作業場及粉塵多キ作業場ニ於テハナルベク局所的ニ瓦斯粉塵ノ機械的排除裝置ヲ完備スルコト、又ハ斯ル作業場ハ一般作業場ト區別スルコト
 - (ロ) 排氣ハ濾過、洗滌等淨化處置ヲ施シテ放出スルヲ原則トスルコト
- 乙、一般作業場（甲以外ノ作業場）

- (一) 遮蔽ノ結果内部ノ溫度ガ一般ニ上昇シ通氣不良トナル作業場ニ對シテハ自然通氣筒ヲ適所ニ設クルコト
 - (二) ナルベク動力ヲ使用スル機械的換氣裝置ヲ設置スルコト
 - (三) 動力ヲ使用スル機械的換氣裝置ヲ設置スル場合ニハ換氣裝置ヨリモ送氣裝置ノ方ガ有效ナル爲送氣裝置ニ重點ヲ置クコト
 - (四) 機械的換氣裝置ナキ場合ハナルベク作業場出入口ヲ二重式又ハ三重式遮光裝置トナスコト
 - (五) 排氣孔ハ一般ニ過少ノ傾向アルヲ以テナルベク之ヲ大キクスルコト
 - (六) 窓ノ敏速ナル開閉ヲ容易ナラシムルコト
 - (七) 燈管板ノ如キ通氣式遮蔽裝置ト雖モ通氣力甚ダシク微弱ナル場合アルヲ以テ充分注意スルコト
 - (八) 既設ノ換氣裝置ニ付キ遮蔽前後ニ於ケル放力ヲ検査シ其ノ結果改善スベキ點ヲ工夫スルコト
- 第十四條** 當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帯スヘシ
- 第十一條** 工場法第十四條ノ規定ニ依ル證票ハ様式第一號ニ依ル

第二章 職工又ハ其ノ遺族ノ扶助

法第十五條 工業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ職工カ業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタル場合ニ於テ本人又ハ其ノ遺族若ハ本人ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ヲ扶助スヘシ

法第十五條ノ二 工業主前條ノ規定ニ基キ扶助ヲ爲シタルトキハ工業主ハ其ノ扶助ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

工業主及職工ノ出捐スル共濟組合勅令ノ定ムル所ニ依リ工業主ヲシテ扶助ヲ爲スヲ要セザラシムル給付ヲ爲シタルトキハ工業主ハ其給付ノ價額ノ限度ニ於テ民法ニ依ル損害賠償ノ責ヲ免ル

法第十五條ノ三 第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クル權利ハ二年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リ消滅ス

法第十五條ノ四 第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

△令第四條 職工業務上負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ本章ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ工業主ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外職工ノ解雇ニ因リテ變更セララルコトナシ

△令第五條 職工負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ工業主ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

△令第六條 職工療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ依リ賃金ヲ受ケサルトキハ工業主ハ職工ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ

職工ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ賃金百分ノ二十トス

△令第七條 職工ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ工業主ハ別表ニ掲クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ賃金百八十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿チサルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓)ヲ下ルコトヲ得ズ

別表ニ掲グル身體障害ニ以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ

左ニ掲クル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰リ上ク但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

- 一 第十三級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 一級
 - 二 第八級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 二級
 - 三 第五級以上ノ身體障害ニ以上存スルトキ 三級
- 別表ニ掲クルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應ジ別表ニ掲クル身體障害ニ準ジ障害扶助料ヲ支給スヘシ
- 既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重シタルトキハ其ノ

加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スヘシ

△第七條ノ二 職工重大ナル過失ニ依リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且工業主其ノ事實ニ付地方長官ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

△令第八條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金四百日分(其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿チサルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓)ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

△令第九條 職工死亡シタルトキハ工業主ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分(其ノ金額三十圓ニ滿チザルトキハ三十圓)ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

△令第十條 遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テハ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル職工ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

△令第十一條 前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
- 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
- 三 直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在

リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス

四 前二號ニ掲クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

△令第十二條 第十條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ掲クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ職工ノ遺言又ハ工業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ掲クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

- 一 職工ノ家督相續人又ハ戸主
- 二 職工ノ兄弟姉妹ニシテ職工死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者
- 三 職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

△令第十三條 第五條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ職工ノ負傷又ハ疾病ノ治療後遲滞ナク之ヲ支給スヘシ但シ工業主カ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間内障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得

遺族扶助料及葬祭料ハ職工ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スヘシ
工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

△令第十三條ノ二 職工健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第五條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキハ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

職工ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス
健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第五條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

△令第十四條 第五條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受ケル職工療養開始後三年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ工業主ハ賃金五百四十日分(其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チサルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓)ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

△令第十四條ノ二 工業主豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ工業主及職工ノ出捐スル共濟組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ之ニ相當スル本令ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セス
地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

△令第十五條 工業主ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

- 一 職工ノ解雇後一年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラズ解雇前ニ又ハ解雇後一年以内ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基

キ請求スルトキ亦同シ

- 二 扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ職工ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

△令第十六條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

- 一 職工健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額
- 二 職工健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ依ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前(賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前)三月間(雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間)ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第三號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

- 一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休養シタル期間
- 二 産前又ハ産後ノ女子内務大臣ノ定ムル所ニ依リ休養シタル期間
- 三 試ノ雇傭期間
- 四 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休養シタル期間

工場法(扶助)

第一項第二號ノ賃金總額ニハ賞與又ハ臨時ニ支給セラルル手當ニシテ厚生大臣ノ定ムルモノヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テ扶助ハ規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ地方長官之ヲ定ム

△令第十七條 前條第一項第二號ノ規定ニ依リ賃金ヲ算出スル場合ニ於テ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ常時支給スルトキハ其ノ價額ハ賃金中ニ之ヲ加算ス但シ休業扶助料ヲ支給スル場合ニ於テハ工業主カ食事其ノ他ノ給與ヲ引續キ支給スルトキハ其ノ價額ハ休業扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金中ニ之ヲ加算セス

△令第十八條 地方長官ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ依リ職工ノ負傷、疾病若ハ死亡ノ原因、別表ニ掲クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

△令第十九條 工業主ハ遲滞ナク扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ扶助規則ヲ變更シタルトキ亦同シ
地方長官必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

△令第二十條 官立工場ニ於ケル職工ノ扶助ニ付テハ別ニ定ムル規程ニ依ル

○對第十三條 工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

○則第十四條 職工就業中又ハ工場及附屬建設物内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルト

キハ工業主ハ遲滞ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

○則第十四條ノ二 工場法施行令第十六條第三項ノ規定ニ依リ同條第一項第二號ノ賃金總額ニ包含セラレサルモノ左ノ如シ

- 一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與
- 二 發明、善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當

○則第十五條 工場法施行令第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分シテ一日ノ賃金又ハ給與ヲ定ム

○則第二十四條 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於ケル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ工業主ハ様式第三號ノ定ムル所ニ依リ毎月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ届出ツヘシ

○則第二十五條 職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物内ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキハ工業主ハ事故發生後遲滞ナク様式第四號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ事故發生當時休業三日以内ノ見込ノ者療養ノ爲休業三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

○則第二十六條 工場又ハ附屬建設物内ニ於テ左ニ掲クル事故發生シタル場合ニ於テハ工業主ハ遲滞ナク様式第五號ニ依リ地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 火災又ハ爆發
- 二 汽罐其ノ他内壓力ヲ有スル容器ノ破裂

工場法(扶助)

三 勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂

四 起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損

五 工場、附屬建設物、煙突又ハ高架槽ノ倒壊

六 其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

○則第二十六條ノ二

工業主扶助ヲ爲シタルトキ又ハ工場法施行令第十三條第二項但書ノ規定ニ

依リ障害疾病ノ支給ヲ延期シタルトキハ様式第六號ニ依リ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

●工場法及鑛業法ニ於ケル業務上ノ疾病ノ取扱方ニ關シテハ、大正五年八月商第五八八七號

及大正五年十二月鑛局第二一號ヲ以テ通牒ノ處今般右通牒ヲ廢止シ爾後工場鑛山ニ於テ業

務ニ因リ左記各號ニ該當スル疾病ニ罹リタルモノハ之ヲ業務上ノ疾病トシテ取扱フコト

一、負傷ニ因リ發シタル疾病

二、高熱物體ノ取扱、刺戟性瓦斯若ハ蒸氣、有害光線又ハ異物ニ因ル結膜炎其ノ他ノ眼疾患

三、重量物體ノ取扱ニ因ル腫鞘炎、關節炎、脫腸、筋肉ノ強直、痙攣若ハ斷裂其ノ他災害ニ

依ル疾病

四、鑛酸、苛性アルカリ「クロール」、「フルオール」、「タール」、フルオール化合物、クロ

ム化合物、クロール化合物其ノ他腐蝕性又ハ刺戟性料品ニ依ル腐蝕又ハ潰瘍

五、鑛物油「タール」、「セメント」シアン化合物其ノ他液體ノ取扱ニ因ル濕疹、水疹又ハ蜂窩

織炎

六、「タール」、「ピッチ」瀝青、鑛物油「パラフィン」又ハ此等ノ料品ノ化合物ニ因ル原發性上

皮膚

七、鉛、其ノ合金又ハ化合物ニ因ル中毒及其ノ續發症

八、水銀、其ノ「アマルガム」及化合物ニ因ル中毒並ニ其ノ續發症

九、砒素又ハ其ノ化合物ニ因ル中毒及其ノ續發症

十、磷又ハ其ノ化合物ニ因ル中毒及其ノ續發症

十一、マンガン化合物ニ因ル中毒及其ノ續發症

十二、青酸及シアン化合物ニ因ル中毒及其ノ續發症

十三、「ベンゾール」又ハ其ノ同族體並ニ其ノ「ニトロ」及「アミノ」誘導體ニ因ル中毒並ニ其ノ

續發症

十四、脂肪族ノ炭化水素ノ「ハロゲン」誘導體ニ因ル中毒及其ノ續發症

十五、二硫化炭素ニ因ル中毒及其ノ續發症

十六、硫化水素ニ因ル中毒及其ノ續發症

十七、一酸化炭素ニ因ル中毒及其ノ續發症

十八、動物若ハ其ノ屍體獸毛、革及其ノ他ノ動物性料品及襪其ノ他ノ古物ノ取扱ニ因ル炭

疽病、丹毒、「ペスト」及痘瘡

十九、柴外線「エックス」線及其ノ他ノ有害ナル線ニ因ル疾患

二十、「ラヂウム」及其ノ他ノ放射能料品ニ因ル疾患

二十一、日射病及高熱作業ニ因ル熱射病

工場法(扶助)

| | | |
|--|--|----------------------------|
| 十一、マンガ化合物ニ因ル中毒及其ノ續發症 | 褐石粉砕工場 | 中樞神經障礙、全身震顫、歩行困難、言語障礙、知能障礙 |
| 十二、青酸及シアン化合物ニ因ル中毒及其ノ續發症 | 青酸及青酸製劑ノ製造、骨灰ヨリ青化物ノ製造、糖粕 | 呼吸中樞ノ麻痺 |
| 十三、「ベンゾール」又ハ其ノ同族體並ニ其ノ「ニトロ」及「アミン」誘導體ニ因ル中毒及其ノ續發症 | 護謨、樹脂、脂肪アルカロイド工業（ベンゾール）又ハ其ノ同族體）アニリン色素、爆薬工場、石鹼工場、香料工場（ニトロ及アミノ誘導體） | 中樞神經障礙、耳鳴、嘔吐眩暈、意識不明、強直性痙攣 |
| 十四、脂肪族ノ炭化水素ノ「ハロゲン」誘導體ニ因ル中毒及其ノ續發症 | 燃性フイルム製造、飛行機工業ニ於ケル「セルロイゼラック」ノ製造（テトラクロールエタン） | 各種神經症狀 |
| 十五、二硫化炭素ニ因ル中毒及其ノ續發症 | 「セロファン」及「ヴィスコ」人造絹絲製造、「ゴム」工業、二硫化炭素ノ製造、四鹽化炭素ノ製造 | 精神病、知覺及運動ノ麻痺、球後視神經炎 |
| 十六、硫化水素ニ因ル中毒及其ノ續發症 | 「ヂアシスコ」人造絹絲製造、硫化水素製造、染料製造工業 | 結膜炎、神經麻痺、呼吸麻痺 |
| 十七、一酸化炭素ニ因ル中毒及其ノ續發症 | 製鐵業、製鋼業、鑄造業、石灰業、「カーバイト」製造、木材乾留工業 | 血液毒、頭痛、嘔氣、眩暈、卒倒 |

| | | |
|---|-------------------|--|
| 十八、動物若ハ其ノ屍體、獸毛、皮革、其ノ他ノ動物性材料及襪其ノ他ノ動物ノ取扱ニ因ル炭疽、丹毒、「ペスト」及痘瘡 | 刷毛製造、毛筆製造、骨粉、皮革製造 | 高熱、關節痛、膿疱（炭疽病）高熱、嘔吐、（ペスト）発疹、劇甚ナル頭痛（痘瘡） |
| 十九、紫外線「エックス線」及其ノ他ノ有害ナル線ニ因ル疾患 | レントゲン管球工 | 皮膚炎、皮膚潰瘍、視神經炎、白内障、電眼症 |
| 二十、「ラヂウム」及其ノ他ノ放射能料品ニ因ル疾患 | 夜光時計製造、放射能料品製造 | 白血病、悪性貧血、皮膚嚙眠頭痛、骨壞疽、倦怠 |
| 二十一、日射病及高熱作業ニ因ル熱射病 | 鋼鐵製造業、紡績、製絲 | 體溫上昇、四肢痙攣、神經過敏、疲勞感、神 |
| 二十二、寒冷地ニ於ケル作業又ハ寒冷作業ニ因ル凍傷 | 東北又ハ北海道ニ於ケル冬期屋外作業 | 皮膚炎、皮膚糜爛 |
| 二十三、硅酸ヲ含ム粉塵ヲ發散スル作業ニ因ル肺結核ヲ伴フ又ハ伴ハザル硅肺 | 砂石ヲ用フル金屬ノ研磨磁器ノ製造 | 肺結核、氣管支炎、咽喉炎 |
| 二十四、地下作業ニ因ル眼球震盪症 | | 頭痛、眩暈、眼球震盪 |
| 二十五、濕潤地ニ於ケル作業ニ因ル「ワイル」氏病 | | 高熱、全身倦怠、出血性黄疸 |
| 二十六、前各號列記以外ノ工場法（扶助） | | |

疾病ニシテ業務上ノ疾病ト認メラルモノ

問 潜伏結核ニ罹レル女工業務上ノ理由ニ依リ打撲ヲ受ケ之カ誘因トナリ肺結核ヲ誘發セリ此ノ如キ場合ニ於テ之カ疾病ヲ業務上ノ疾病ト認ムルヤ

答 潜伏結核アリシト雖モ業務上ノ事故ニ依リ誘發セラレタル結核ニ對シテハ業務上ノ疾病トシテ扶助ノ責任アリ(昭和三年一月三十一日 社會局労働部長通牒)

問 製絲工場ノ職工カ「セルブレ」ニ試験材料蒐集ノ爲再操作業場ニ至リ「セルブレ」ニボビン」捲取中該作業ノ餘暇ニ乘シ長サ一尺七寸位突出セル再線器ノ「シヤフト」ニ羽織ノ裾ヲ當テ或ハ下ケ髪ヲ當テ以テ之ヲ捲カシメント惡戯ヲ爲シ同僚ノ注意ヲモ顧ミス悦ニ入り居タル際遂ニ頭髮ヲ捲込マレ頸椎骨折シテ即死シタリ

右ハ全然故意ニ出テタルモノニシテ業務上ノ死傷ニアラスト思料セラルルモ無用ナル「シヤフト」ノ突出部ヲ存シ而モ格別之ニ危害豫防ノ裝置ナキ等工場主ノ施設ニ缺陷アリト認メラレ候爲業務上ノ死傷ナリヤ否ヤニ付疑義相生候條爲念御意見相伺候也

追テ「シヤフト」ハ床下ヨリ高サ一尺八寸五分位ニシテ其ノ徑七分ナリ

答 業務上ノ死傷ニ非サル儀ト御了知相成度尙是等ノ事故ニ鑑ミ從業者ノ訓育方並危險箇所ノ豫防裝置ニ關シ一層御留意相成様被致度(昭和六年四月十五日 社會局労働部長通牒)

問 甲工場ニ於テ管轄外ノ某地ノ乙工場ヨリ汽罐ヲ注文ヲ受ケ之ヲ製作シタリ依テ工業主ハ職工ヲ引卒シテ乙工場ニ赴キ右汽罐ノ組立中ナリシカ其ノ職工ノ一人鐵板ノ「カエリ」ヲ

伸フル爲「ハンマ」ヲ使用中之ヲ打損シタル爲ハンマノ破損ニテ左眼ヲ負傷シタリ斯ノ如キ出張就業ノ場合ニ於テモ甲工業主ハ尙扶助義務ヲ負フヘキモノナリヤ

答 職工ノ扶助ニ關スル工場法第十五條ノ規定中「業務上」トハ「職工カ工業主ノ指揮監督ノ下ニ勞務ヲ遂行スル爲」ノ義ト解スヘク而シテ其ノ字義ニ就キ法第一條トノ關係上或ハ工場内ノ事故ニノミ適用アルカ如キ疑ナキニ非サル法第一條ノ規定ハ工場法ノ施行ノ範圍ヲ場所的ニ制限スル趣旨ニ非スシテ工場法ニ依リ制限ヲ受クル工場換言スレハ工場法ノ制限ヲ受クル工業主及之ニ依リ利益ヲ受クル職工ノ範圍ヲ定メタル者ニ過キサルモノナルヲ以テ工場法第十五條ノ所謂「業務上」ハ敢テ當該工場區劃内ニ生シタルコトヲ必要トセサルヲ以テ苟モ工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ職工ノ爲ス仕事カ工業主ノ指揮監督ノ下ニ爲スヘキ義務ニ關スル限り工場ノ内タルト外タルト問ハサルナリ本件ニ於テ職工カ汽罐ノ取附作業ニ從事セルハ其ノ工業主ノ指揮命令ニ基クモノナルヲ以テ之ニ因リ生ジタル負傷ハ法第十五條ニ謂フ「業務上負傷シ」ニ該當シ從ツテ甲工業主ハ其ノ扶助義務ヲ負フベキモノトス(大正十三年十二月四日 社長局第一部長通牒)

問 現實ニ發生セル扶助債權ハ一種ノ私權ナルヲ以テ權利者ニ於テ之ヲ拋棄スルハ其ノ自由ニシテ何等差支ナキモ災害發生後ニ於テ將來ニ對スル扶助(負傷未治解雇ノ際其ノ後ノ扶助)ヲ拋棄スルノ契約ヲナスハ扶助請求ノ權利ヲ豫メ拋棄スヘキ契約ニ屬シ當然其ノ効力ヲ有セサルモノトシテ取扱ヒ差支ナキヤ

答 見解ノ通り(大正十一年七月十四日 農商務省工務局長通牒)

工場法(扶助)

問 請負業者カ工場擴張工事ヲ請負ヒタルタメ其ノ使用スル職工及人夫カ當該作業場ニテ其ノ作業ニ從事中負傷シタル場合ノ扶助義務ハ請負業者カ工場ニ於テ規定セル扶助規則ニ依リ扶助スヘキモノナリヤ

又當該工業主ガ自己ノ使役スル職工トシテ扶助スヘキモノナリヤ

答 工業主ニ於テ扶助スル義務ナク又請負業者ハ何等當該工場ニ規定スル扶助規則ニ羈束セラルルコトナシ(大正十一年十月十三日 農商務省工務局長通牒)

問 工場主カ自ラ保險契約者トナリテ保險料ヲ支拂ヒ職工ヲ被保險者トシテ傷害保險契約ヲ爲シタル場合ニ於テ職工カ負傷シ之ニ對シ保險會社カ保險金額ヲ支拂ヒタルトキハ工業主ハ工場法ニ依リ職工又ハ遺族ニ支拂フ療養費又ハ扶助金額ヨリ右傷害保險金ヲ控除スルコトヲ得ルヤ

答 保險會社ヨリ職工ニ支拂フ保險金ハ工場法第十五條ニ依ル扶助金ニ非ス又民法上ノ損害賠償ニモ非サルヲ以テ扶助金額ヨリ右金額ヲ控除スルコトヲ得サルモノト認ム(大正五年九月十五日 農務省工務局長通牒)

問 甲工業主事業經營中扶助ヲ要スベキ事故發生シ扶助ヲ爲シツツアル途中其ノ事業ヲ乙ニ讓渡セリ其ノ場合扶助ヲ乙ニ於テ繼續履行スヘキコトヲ甲ト特約シタル時ハ勿論特約ナカリシ場合ト雖モ如斯公法上命セラレタル義務ハ當然繼承工業主ニ於テ之ヲ履行スヘキモノト思料セラル、モ聊カ疑義有之候至急何分ノ御回示相煩度

答 會社ノ合併、相續等事業ノ包括繼承ノ場合ニ於テハ扶助義務モ當然繼承スヘキモノ其ノ他

ノ事業讓渡ノ場合ニ於テハ繼承者ニ於テ明示又ハ默示ノ意思表示ヲ以テ扶助ノ支拂ヲ引受ケルトキハ引受者ニ對シ扶助ヲ請求シ得ルモ舊事業主ハ之ヲ以テ扶助ノ債務ヲ免ルヘキモノニ無之扶助義務ハ工場法上移轉スルモノニ非サル儀ト御了知相成度(昭和五年十二月十八日 社會局監督課長通牒)

問 工場法施行令第六條ノ休業扶助料ハ工場ニ於テ休日ニハ賃金ヲ支給セザル定アル場合ニ於テハ療養中其ノ休日ニ相當スル分ニ限り之ヲ支給セザルモノ可ナリヤ

答 休日ト雖モ支給スベキモノトス(大正六年一月三十一日 農務省工務局長通牒)

問 管下某工場ニ於テ職工扶助規則中ニ「職工業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲メ勞務ニ服スルコト能ハサルニ依リ賃金ヲ受ケサルトキハ職工ノ療養中日給額ト傷病手當金ノ差額ヲ休業扶助料トシテ支給ス」ト規定シ居ル事業主アリ斯カル場合從來ノ規定ニ依ル百分ノ六十以上ノ休業扶助料ハ月給、休業手當、食事ノ給與等ト相違シ健康保險法施行令第八十五條ノ勞務ニ對スル報酬ト見做サス標準賃金ノ百分ノ六十ノ傷病手當金ヲ支給シ來レルカ改正ノ結果百分ノ六十ト限定サレタルニ付百分ノ六十ヲ超ユル休業扶助料ハ假令日給額標準賃金共ニ一圓ノ職工有リトセハ一圓ノ百分ノ六十ナル六十錢ノ休業扶助料即チ傷病手當金(健康保險ノ被保險者ト假定)ノ差額四十錢ハ休業扶助料ニ非スシテ休業手當ト同一ニ解釋シ差支無キヤ或ハ「百分ノ六十」ト改正サレタルモ該百分ノ六十ハ休業扶助料ノ最低限度ヲ規定サレタルモノト解釋シ扶助規則ニ何等變更ヲ加エス從來通り日給額ト傷病手當金ノ差額ヲ休業扶助料ト解釋シ差支無キヤ

答 貴見後段ノ通り(昭和十二年四月二十一日 社會局勞働部長通牒)

工場法(扶助)

問 遺族法助料ハ工業主ト遺族ト妥協シ法定ノ最低限度三百六十日(四百日)分以下ニ減額シ得ルヤ

答 減額スルコトヲ得ス(昭和四年八月十五日 社會局労働部長通牒)
遺族法助料法定ノ(又ハ就業規則所定)ノ受取人ナキトキノ處理方法ハ如何親族トシテハ姪一人アリ

問 工場法令所定ノ遺族及ヒ職工死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者(令第十二條ニ

参照)ナキニ於テハ遺族法助料支給ノ義務ヲ生セス尤モ本人ノ姪カ民法第九百八十二條ニ依リ家督相続人ニ決定シタルトキハ姪ニ支給スルコトヲ要ス(昭和三年一月三十一日 社會局労働部長通牒)

問 工場法施行令第十二條ノ遺言ハ法定ノ形式ヲ具備スルヲ要スルヤ

答 然リ(大正六年二月十三日 農商務省商工局長通牒)
遺族法助料ヲ受クヘキ者ノ中ニ内縁ノ妻ハ含まレサルヤ含マル、トセハ其ノ順位如何

問 令第十二條第三號ハ内縁ノ妻ヲ含ムモノトス其ノ順位ハ令第十二條各號ニ列舉セルモノノ中ヨリ工業主ニ於テ選定シ得ルモノナリ但シ職工ノ豫告又ハ遺言ニ依リ遺族法助料ヲ受

取ルヘキ者ノ指定アリタルトキハ之ニ從フ(同條各號規定ノ順序ハ遺族法助料ヲ受取ルヘキ者ノ順位ヲ定メタルモノニ非ス)(大正十五年七月二十八日 社會局労働部長通牒)

問 職工A業務上右手ヲ負傷シ休業セリAハ會社ノ勸メニモ拘ラス保險醫ニカ、ラス非保險醫ノ治療ヲ受ケタリ
本件ノ如キ場合ニ於テ工場法施行令第十三條ノ二第一項ニ該當スルモノトシテ工業主ハ令

第五條及第六條ノ義務ヲ免ルヘキヤ
又被保險者ナルコトカ既ニ施行令第十三條ノ二ノ「療養費ノ支給ヲ受クヘキ……傷病手當

金ノ支給ヲ受クヘキ」トキニ該當スルモノト解スルヲ得サルヤ
又本件ノ如キ場合ニモ工業主カ第五條第六條等ノ義務ヲ免レサルモノトスレハ健康保險法

ノ意義ハ甚々薄弱ニハナラサルヤ
答 工場法施行令第十三條ノ二第一項ニ該當スルモノトシテ令第五條及第六條ノ義務ヲ免セ

ラルルモノニ有之(昭和九年十二月十四日 社會局労働部長ヨリ基製作所宛通牒)
問 工場法施行令第十六條ノ規定中

一、負傷ノ場合負傷ノ前日ヨリ遡及シテソノ前三ヶ月ノ期間中ニ於テ就業日數六十日、憂ケタル貸金總計五十四圓ノ男アリトスレハ同條法文中ノ「其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額」トハ、5460ヲ指スモノナリヤ將又 5490ヲ云フヤ前者ハ日給九十錢トナリ後者

トスレハ六十錢トナル然レトモ常識的ニ考ヘテ此ノ男ノ日給九十錢ト見ルノカ普通ナルヘシ如何ニヤ

二、同條第一項第二號但書「但シ其ノ金額ハ上記貸金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス」トアルハ前示例示ノ三ヶ月

間中ノ出役六十日賃金五十四圓ナル男ノ場合ニ如何ナル算出方法ヲ採ルヤ算式ヲ御教示乞フ

三、同條第二項第四號「工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間」トアルハ例之人

工場法(扶助)

夫ハ出役セシモ始業時頃ニ至リテ降雨ノ爲事務所ヨリ當日休業ヲ命シタル場合等ノ日ハ之ニ含メテ差支無之哉

答

- 一、工場法施行令第十六條中「其ノ期間ノ日數」トハ三ヶ月間ノ日數即チ九十日ナリ故ニ標準賃金ハ間ノ場合ニ於テハ六十錢トナル蓋シ扶助料ハ生活ノ扶助ヲ目的トスル故ニ其ノ者ノ收入ヲ標準トスヘク單ニ労働日ノミノ收入ヲ標準トスルハ不合理トスル故ナリ
- 二、三ヶ月間中ノ稼働日數六十日賃金總額五十四圓ナル場合ニ於テハ標準賃金ハ(一)ニ依リ六十錢トナル而シテ但書ノ規定ニ依ル計算ハ $(54 \div 60) \times 100 = 90$ トナリ六十錢ヨリ少額ニシテ但書ノ適用ナシ但書ヲ適用スヘキ事例ヲ示セハ右事例ニ於テ稼働日數五十日トスル場合ニ於テハ $(54 \div 50) \times 100 = 108$ トナリ六十錢ヨリ高額ナルヲ以テ但書ノ規定ニ依リ標準賃金ハ六十四錢八厘トナルヘシ
- 三、降雨ニ際シテ同種事業カ一般的ニ繼續シテ行ハレ得サルモノト認メラル、ニ於テハ當日ノ休業ハ工業主ノ都合ニ依ルモノト云フコトヲ得サルモ然ラスシテ事業カ繼續シテ行フコトヲ得ルニモ拘ラス休業シタルモノト認メラル、ニ於テハ工業主ノ都合ニ依ル休業ニシテ第十六條第二項第四號ニ該當スルモノト解スヘシ(昭和九年七月十七日社局答)

問

令第十六條第二項第四號ニ工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業シタル期間トアルモ本號ノ休業ハ全休ハ勿論、全休ニモ非ス全就業ニモ非サル場合ヲモ含ムモノナルヤ例之二時間就業セシメ賃金半日分ヲ支給スルコトアリ此ノ場合職工ノ利益ノ爲之ヲ本號ニ包含セシメ賃金算定ノ期間及賃金ノ總額ヨリ之ヲ控除シ差支ナキヤ

答

本條ノ休業トハ全休ヲ謂フ(大正十五年九月二十三日社局労働部長通牒)

問

令第十六條第二項第四號ノ「工業主ノ都合ニ依リ」トハ如何ナル意義ナリヤ

答

「工業主ノ都合ニ依リ」トハ例ヘハ工業主カ市場ノ景氣、設備ノ關係其ノ他業務上又ハ經營上等ノ事由ニ依リ自ラ休業スル場合ヲ指スモノニシテ大體ニ於テ天災、不可抗力又ハ職工ノ都合ニ依リ休業スル場合ニ非ザルノ意ナリ(大正十五年七月二十八日社局労働部長通牒)

問

施行規則第二十五條ノ負傷トハ業務上ノ負傷ハ勿論業務外ノ負傷ヲモ包含スルヤ

答

業務外ノ負傷ヲ包含ス(大正十五年九月六日社局労働部長通牒)

第三章 職工ノ雇入及解雇

法第十七條

職工ノ雇入、解雇、周旋ノ取締及徒弟ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

△令第二十一條

工業主ハ遲滞ナク職工名簿ヲ調製シ工場毎ニ之ヲ備付クヘシ

職工名簿ニ記載スヘキ事項ニ關シテハ厚生大臣ノ定ムル所ニ依ル

△令第二十二條

職工ニ給與スル賃金ハ通貨ヲ以テ毎月一回以上之ヲ支拂フヘシ

△令第二十三條

工業主ハ職工ノ死亡若ハ解雇ノ場合又ハ厚生大臣ノ定ムル場合ニ於テ權利者ノ請求アリタルトキハ遲滞ナク賃金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ積立金、信託金其ノ他何等ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ノ貯蓄金ハ遲滞ナク之ヲ返還スヘシ

△令第二十四條

工業主ハ職工ノ雇入ニ關シ前二條ノ規定ニ違反スル契約又ハ工業主ノ受クヘキ

工場法(雇入、解雇)

違約金ヲ定メ若ハ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ス但シ左ノ事項ニ付豫メ方法ヲ定メ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 一 職工ニ貯蓄ヲ爲サシメ又ハ職工ノ利益ノ爲賃金ノ一部ニ代ヘ他ノ給付ヲ爲スコト
- 二 職工カ雇入契約ニ違反シ其ノ他職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ因リ解雇セララルル場合ニ於テ職工ノ貯蓄金中工業主ノ給與ニ係ル部分ヲ交付セサルコト

△令第二十五條 職工ノ貯蓄金ヲ管理スル場合ニ於テハ工業主ハ豫メ確實ナル方法ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

△令第二十六條 削除

△令第二十七條 未成年者若ハ女子カ工業主ノ都合ニ依リ解雇セラレ又ハ第五條若ハ第六條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル職工、業務上負傷シ若ハ疾病ニ罹リ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル職工若ハ別表第八級以上ニ該當スル職工解雇セラレ解雇ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ必要ナル旅費ヲ負擔スヘシ第十四條ノ規定ニ依リ扶助ヲ廢止セラレタル者廢止ノ日ヨリ十五日内ニ歸郷スル場合亦同シ

第十八條ノ規定ハ前項ノ旅費ニ關シ之ヲ準用ス
△令第二十七條ノ二 工業主職工ニ對シ雇傭契約ヲ解除セムトスルトキハ少クトモ十四日前ニ其ノ豫告ヲ爲スカ又ハ賃金十四日分以上ノ手當ヲ支給スルコトヲ要ス但シ天災事變ニ基キ事業ノ繼續不可能ト爲リタルニ因リ又ハ職工ノ責ニ歸スヘキ事由ニ依リ己ムコトヲ得サル場合ニ於テ雇傭契約ヲ解除スルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル豫告期間ノ計算ニ付テハ左ニ掲クル期間ハ之ヲ算入セス

- 一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業スル期間但シ其ノ期間引續キ二月ヲ超ユルトキハ其ノ後ノ期間ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 産前又ハ産後ノ女子厚生大臣ノ定ムル所ニ依リ休業スル期間
- 三 工業主ノ都合ニ依リ職工臨時ニ休業スル期間但シ休業中賃金ヲ受クルトキハ此ノ限ニ在ラス

前二項ノ規定ハ試ノ雇傭期間中ノ職工ニ付之ヲ適用セス但シ雇入後十四日(工業主地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ二十一日)ヲ超ユル職工ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條及第十七條ノ規定ハ第一項ノ賃金ニ、第十八條ノ規定ハ前三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

△令第二十七條ノ三 職工解雇ノ場合ニ於テ雇傭期間業務ノ種類及賃金ニ付證明書ヲ請求シタルトキハ工業主ハ遲滞ナク之ヲ交付スヘシ

△令第二十七條ノ四 常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ遲滞ナク就業規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ就業規則ヲ變更シタルトキ亦同シ
就業規則ニ定ムヘキ事項左ノ如シ

- 一 始業終業ノ時刻、休憩時間、休日及職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムトキハ就業時轉換ニ關スル事項
- 二 賃金支拂ノ方法及時期ニ關スル事項
- 三 職工ニ食費其ノ他ノ負擔ヲ爲サシムルトキハ之ニ關スル事項

工場法(雇入、解雇)

四 制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

五 解雇ニ關スル事項

地方長官必要ト認ムルトキハ就業規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

○則第八條 工業主職工ヲ雇入レタルトキハ雇入後三十日以内ニ醫師ヲシテ其ノ職工ノ健康診斷ヲ爲サシムヘシ但シ厚生大臣ノ指定スル健康診斷ヲ受ケ三月ヲ經過セサル者ヲ雇入レタルトキハ此ノ限ニ在ラス

○則第八條ノ二 工業主ハ醫師ヲシテ毎年少クトモ一回職工ノ健康診斷ヲ爲サシムヘシ瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ其ノ他衛生上有害ナル業務ニ從事スル職工ニ付テハ前項ノ健康診斷ハ毎年少クトモ二回之ヲ爲サシムヘシ

其ノ年ニ於テ前條ノ規定ニ依ル健康診斷又ハ厚生大臣ノ指定スル健康診斷ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ受ケタル回数ニ應ジ第二項ノ規定ニ依ル健康診斷ハ之ヲ爲サシメサルコトヲ得

○則第八條ノ三 前二條ノ健康診斷ニ於テハ左ノ項目ニ付計測、検査又ハ検査ヲ行フヘシ但シ其ノ年二回以上ノ健康診斷ヲ行フ場合ニ於テハ身長、體重及胸圍ノ測定並ニ視力、色神及聽力ノ検査ハ之ヲ一回行フヲ以テ足ル

- 一 身長、體重、胸圍
- 二 視力、色神、聽力
- 三 感覺器、呼吸器、循環器、消化器、神經系其ノ他ノ臨床醫學的検査
- 四 「ツベルクリン」皮内反應検査

前項第四號ノ検査ハ其ノ反應陽性ナルコト明カナル者ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

「ツベルクリン」皮内反應カ陽性若ハ疑陽性ノ者又ハ醫師ニ於テ必要ト認ムル者ニ付テハ「エツクス」線間接撮影又ハ「エツクス」線透視ヲ行フヘシ

前項ノ検査ニ依リ結核性病變又ハ其ノ疑ヲ認ムル者ニ付テハ「エツクス」線直接撮影、赤血球沈降速度検査及喀痰検査ヲ行フヘシ

地方長官ハ前二項ノ検査ノ實施ヲ困難トスル工場ニ付テハ之ヲ免除スルコトヲ得

業務ノ種類又ハ作業ノ状態ニ依リ厚生大臣必要アリト認ムルトキハ第一項、第三項及第四項以外ノ項目ニ付テモ検査ヲ行ハシムルコトヲ得

●改正工場法施行規則第八條ノ三第五項ノ規定ニ依リ同條第三項及第四項ノ検査ヲ免除シ得ベキモノハ左記ニヨリ御取扱相成度

記

一、附近ニ利用シ得ル施設ナキ爲検査ノ實施困難ト認メラル工場ニ對シテハ原則トシテ之ヲ免除スルコト

二、右ニ該當スル場合ニ在リテモ工場醫ノ選任アル工場ニ對シテハ特別ノ事情ナキ限り之ヲ行ハシムル様指導スルコト(昭和十七年二月二十四日 厚生省労働局長通牒)

●今般改正セラレタル工場法施行規則ノ施行標準ニ關シテハ本月二十四日附厚生省發勞第二一號ヲ以テ厚生次官ヨリ別途通牒相成候處同規則第八條ノ三第六項ノ規定ニ依リ同條第一項、第三項及第四項以外ノ項目ニ付検査ヲ行フベキ業務又ハ作業ノ種類及検査項目ハ概ネ左記ニ

工場法(雇入、解雇)

| 業務又ハ作業ノ種類 | 検査項目 |
|--|----------------|
| (一) 鉛又ハ其ノ化合物、水銀又ハ其ノ化合物、砒化水素、二硫化炭素、ベンゾール又ハ其ノ誘導體及四鹽化エタン其ノ他之ニ準ズベキ衛生上有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル場所ニ於ケル業務又ハ上記料品及放射能物質ヲ取扱フ作業ニシテ中毒ノ虞アル場合 | 血色素量ノ測定及血液像ノ検査 |
| (二) 鉛又ハ其ノ化合物、水銀又ハ其ノ化合物、二硫化炭素其ノ他之ニ準ズベキ有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル場所ニ於ケル業務又ハ上記料品ヲ取扱フ作業ニシテ中毒ノ虞アル場合 | 尿ノ検査 |
| (三) 鉛又ハ其ノ化合物ノ瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル場所ニ於ケル業務又ハ上記ノ料品ヲ取扱フ作業ニシテ中毒ノ虞アル場合 | 握力ノ検査 |

(昭和十七年二月二十四日 厚生省労働局長通牒)

○則第八條ノ四 工業主第八條又ハ第八條ノ二ノ規定ニ依リ職工ノ健康診断ヲ爲サシメタルトキ

ハ健康診断ノ結果ニ關スル記録ヲ作成スヘシ
第八條ノ二第三項ノ規定ニ依リ健康診断ヲ爲サシメサリシ場合ニ於テハ工業主ハ國民體力法ノ體力検査ノ體力検査票若ハ精密検査票又ハ厚生大臣ノ指定スル健康診断ノ結果ニ關スル記録ノ寫ヲ作成スヘシ

前二項ノ規定ニ依ル健康診断ノ結果ニ關スル記録、體力検査票若ハ精密検査票ノ寫又ハ厚生大臣ノ指定スル健康診断ノ結果ニ關スル記録ノ寫ハ各三年間之ヲ保存スヘシ

○則第八條ノ五 工業主ハ職工ノ健康診断ノ結果注意ヲ要スト認メラレタル者ニ付テハ醫師ノ意見ヲ徴シ療養ノ指示、就業ノ場所又ハ業務ノ轉換、就業時間ノ短縮、休憩時間ノ増加、健康状態ノ監視其ノ他健康保護上必要ナル處置ヲ執ルヘシ

○則第八條ノ六 工業主ハ毎年一回第八條又ハ第八條ノ二第一項若ハ第二項ノ規定ニ依ル健康診断ノ結果(第八條ノ二第三項ノ規定ニ依リ健康診断ヲ爲サシメサリシ者ニ付テハ體力検査又ハ厚生大臣ノ指定スル健康診断ノ結果)ヲ様式第七號ニ依リ地方長官ニ報告スヘシ

●工場法施行規則第八條但書第八條ノ二第三項第八條ノ四第二項及第三項
(昭和十七年二月二十五日 厚生省告示第八〇號)

- 一、國民體力法ニ依ル體力検査ニシテ工場法施行規則第八條ノ三ノ規定ニ依ル健康診断項目ト同一項目ニ付實施セルモノ
- 一、健康保險法ニ依ル健康診断ニシテ工場法施行規則第八條ノ三ノ規定ニ依ル健康診断項目ト同一項目ニ付實施セルモノニ付テハ其ノ項目

工場法(雇入、解雇)

一、結核豫防法ニ依ル健康診断ニシテ工場法施行規則第八條ノ三ノ規定ニ依ル健康診断項目ト同一項目ニ付實施セルモノニ付テハ其ノ項目

一、國民學校修了者ニ對シ國民職業指導所ニ於テ職業指導ノ爲行フ健康診断ニシテ工場法施行規則第八條ノ三ノ規定ニ依ル健康診断項目ト同一項目ニ付實施セルモノ

一、職工雇入前ニ他ノ工業主カ工場法施行規則第八條又ハ第八條ノ二ノ規定ニ依リ行ヒタル健康診断

○則第八條ノ七 工業主其ノ他健康診断ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者ハ其ノ職務上知り得タル職工ノ秘密ヲ故ナク漏洩スヘカラス

○則第八條ノ八 工業主ハ左ニ掲クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ掲クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 精神病
 - 二 癩、病毒傳播ノ虞アル結核
 - 三 丹毒、再歸熱、麻疹、流行性脊髓炎其ノ他之ニ準スヘキ急性熱性病
 - 四 梅毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病
 - 五 膿漏性結膜炎、トラホーム（著シク傳染ノ虞アルモノ）其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病
- 工業主ハ肋膜炎、前項第二號以外ノ結核、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症増悪ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス工業主ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹レル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セザ

ル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ意見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

○則第十二條 工業主ハ就業規則ヲ適宜ノ方法ヲ以テ職工ニ周知セシムヘシ

工業主ハ始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ各作業場ノ見易キ場所ニ揭示スヘシ

○則第十二條ノ二 工業主ハ職工ニ就業前豫メ其ノ賃金ノ率及計算方法ヲ明示スヘシ

○則第十六條 職工名簿ノ記載ハ様式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

○則第十七條 職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

○則第十八條 工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

○則第十九條 職工ノ雇入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場毎ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ雇入及解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

○則第二十條 工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

- 一 職工カ一月以上ニ涉リテ歸郷スルトキ
- 二 職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ
- 三 其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

●近時一部工業界ノ事業擴張ニ際シ事業ノ伸縮ヲ容易ナラシムルタメ職工ノ使用ニ付或ハ請負

工場法(雇入、解雇)

人ノ使用人トシ或ハ勞力供給請負業者ヨリ供給スル人夫ト爲ス等ノ方法ヲ講スル者抄カラサルヤニ及聞候處工場法規ハ斯クノ如キ形式ノ變更ニ依リテ其ノ適用ヲ左右セラルヘキニ在ラズ賃銀ヲ受ケテ工場内部ニ於テ工場ノ本體タル作業又ハ其ノ補助作業ニ就業シツ、アル勞働者ハ雇傭形式ノ如何ヲ問ハス凡テ工場法上職工トシ就業制限及扶助等ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノナルコトハ從來當局ノ執リ來レル方針ニ有之候工場法施行令第二十七條ノ二ノ適用ニ就テモ同様ニ解スヘキモノニシテ同條ノ雇傭契約ナル語ハ形式上ノ契約書等ニ關スルコトナク事實上ノ使用關係ヲ謂ヒ雇傭契約ノ解除トハ工業主ノ一方的意思ニ依リ雇傭關係ヲ終了セシムルモノヲ謂フモノニシテ日々ニ雇入ノ形式ヲ採ルモノ又ハ請負人ノ供給スルモノト雖モ事實上特定セラレ且ツ相當繼續シテ使用セラル、場合ニハ事實上期間ノ定ナキ雇傭關係成立シタルモノト見ルヘク其ノ雇入ノ停止ハ事實上契約解除ト見ルコトヲ要スル義ニ有之而シテ如何ナル期間ノ繼續ヲ以テカ、ル關係ノ成立セリト見ルヘキカハ法文上直接ノ規定ナキモ健康保險(施行令第九條)ニ於テ供給人夫及日雇勞働者ハ三十日ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ被保險者トナルニ鑑ミ工場法モ同一ノ取扱ヲ爲シ三十日ヲ超エテ繼續使用セラレタル職工ハ日々雇入又ハ勞務供給ノ形式ニ依ル場合ト雖モ施行令第二十七條ノ二ノ適用アルモノト解スルコトト致度

追而雇傭豫告ノ手續及手當ノ支給ハ請負人又ハ人夫供給人之ヲ行フモ之レ工業主對請負人ノ内部關係ニ留リ工場法上差支ナク又工業主ニ於テ福利施設トシテ給與スル退職手當等ハ職工ノ種類ニ依リ待遇ヲ異ニスルモ工場法ト直接關係ナキモノニ有之爲念

(昭和八年十一月一日)
社會局勞働部長通牒

●今次事變ニ伴フ物資調整ニ因リ事業ノ經營困難トナリ事業ヲ廢止、縮小又ハ休止スル工場ニ於テ職工ヲ解雇又ハ休業セシムル場合ノ工場法上ノ取扱方ニ關シテハ左記ニ依リ御處理相成度爲念

記

今次事變ニ伴フ物資調整ニ因リ事業ノ廢止、縮小又ハ休止ノ爲職工ヲ解雇スル場合ト雖モ事業主ノ都合ニ依ル解雇トシ令第二十七條ノ二ニ依ル解雇手當ヲ支給セシムルカ豫告手當ノ支給ニ代ヘ十四日前ニ解雇ノ豫告ヲ爲サシムルコトトシ又職工ヲ休業セシムル場合ハ昭和五年二月十三日附勞發第三九號通牒ノ趣旨ニ依リ處理スルコト

追テ右ハ退職積立金及退職手當法上ノ取扱方ニ付テモ當然事業主ノ都合ニ依ル解雇トシテ取扱フモノニ有之

問 寄宿職工ガ歸郷シテ其ノマ、歸場セス他人ヲ介シテ入場當時ノ所持品ノ返還ヲ求メタル場合ニ工業主ハ本人ノ直接取りニ來ルヘキ旨ヲ以テ引渡ヲ拒絶シ得ルヤ

答 所持品ノ返還ヲ求ムル者カ本人ノ法定代理人又ハ本人ヨリ正當ニ授權セラレタルモノナルトキハ本人ノ直接ニ受取ニ來ルヘキ旨ヲ以テ引渡ヲ拒絶スルコトヲ得ス

(大正十五年七月二十八日)
社會局勞働部長通牒

問 職工ノ死亡解雇等ノ場合ハ權利者ノ請求アラハ職工ノ賃金又ハ貯蓄金ハ遲滞ナク支拂フヘシトノ趣旨ニテ反之權利者ノ請求ナキ場合ハ遲滞ナク支拂フヲ必要トセサルモ相當ノ時

工場法(雇入、解雇)

期(例へハ權利者ノ所在ヲ調査シ手續ヲ履行セシムル等相當期間ノ猶豫ヲ見込ミテ)迄ニハ支拂フヘキ義務アルモノニテ苟モ權利者ノ請求ナキヲ奇貨トシ遲滞ナク支拂ハサルハ勿論消滅時効ノ到來スル迄支拂義務ノ懈怠ヲ續行スルカ如キハ規定ノ趣旨ヲ曲解セルコト甚シキモノト認メラレ候モ聊カ疑義有之候條何分ノ御指示相仰度

答 權利者ヨリ請求ナキ場合ニ於ケル工業主ノ職工ニ對スル賃金貯蓄金等ノ支拂義務ニ關シ伺出有之候工場法上職工ノ賃金及貯蓄金ニ付テハ特別ノ保護ヲ與ヘラレ其ノ支拂ニ付テ工業主カ常ニ積極的措置ヲ採ルヘキ義務ヲ有スルコトハ工場法規ノ全般ヨリ推論シ得ル處ナルヲ以テ職工ノ解雇死亡等ノ場合ニ於テモ權利者ヲシテ賃金貯蓄金ノ請求ヲ爲サシムヘキ措置(例之賃金ノ支拂又ハ貯蓄金返還ノ方法ニ對スル告知注意等)ヲ採ルヘキコトハ工場法カ工業主ノ義務トシテ要求スル所ト解スヘク、從ツテ貴問ノ件ニ付テハ職工ノ死亡解雇等ノ場合ニハ其ノ所在ヲ知ルコト能ハサル場合ノ外工業主ハ權利者ニ對シ賃金又ハ貯蓄金ノ金額請求等ニ付通知スル等適當ノ措置ヲ講スヘキ義務ト御了承相成度
追而權利者カ工場所在地ヨリ遠隔ノ地ニ在ル等ノ事情ニ因リ送金ヲ必要トスル場合ニ於テハ民法ノ委任事務管理等ノ規定ノ趣旨ニ準シ之ニ要スル費用ハ賃金又ハ貯蓄金中ヨリ控除スルモ差支無之爲念(昭和七年三月二十二日 社會局労働部長通牒)

問 工場法施行令第二十四條中工業主ノ損害賠償額ヲ豫定スル契約ヲ爲スコトヲ得ストアルハ單ニ職工ヲ相手方トスル契約ノミヲ謂フモノナリヤ又ハ身元保證人ヲ相手方トスル場合ヲモ包含スルヤ

答 身元保證人ヲ相手方トスル場合ヲモ包含ス(大正五年九月二十六日 農商務省商工局長通牒)
問 損害賠償ノ豫定ヲ爲スコトヲ得ストアルモ單ニ損害アルトキハ之ヲ賠償スヘキ旨ノ契約ハ差支ナキヤ

答 本條ニ依リ禁止セラル、ハ損害賠償ノ金額ヲ豫メ確定スル契約ニシテ現實ノ損害ヲ賠償スヘキ旨ノ契約ヲ禁止スル趣旨ニ非ス(右同)

問 歸郷旅費ハ應募地ノ如何ヲ問ハズ本人ノ必要トスル到着地迄ノ實費ヲ支給スル意義ナルヤ

答 歸郷旅費トハ應募地ノ如何ヲ問ハズ本人ノ到着地、父母、後見人、戸主其ノ他親族等ノ保護ヲ受クル場合ニ於テハ其ノ者ノ居住所迄ノ實費額ヲ謂フ(大正六年一月十二日 農商務省商工局長通牒)

問 職工無斷缺勤シ其ノ行方不明ナル場合工業主ハ之ヲ解雇セントス此ノ場合ニ於ケル解雇ノ豫告ハ如何ニ爲スヘキヤ

答 揭示其ノ他本人ニ對スル意思表示トシテ適當ナル方法ヲ採ルヲ以テ足ル

問 職工就業規則中ニ工場作業ノ秩序維持ノ爲メ往々無届缺勤者ニ對スル一種ノ制裁規程ヲ設クルモノアリ(大正十五年七月二十八日 社會局労働部長通牒)

例(ハ)「無届缺勤何日ニ及フモノハ就業ノ意思ナキ者ト認メ除籍ス」ト云フカ如シ
斯カル場合ニモ工場法施行令第二十七條ノ二ニヨリ二週間ノ豫告期間ヲ設クル必要アリト解スヘキモノナリヤ否ヤ

工場法(雇入、解雇)

答 例示ノ場合ニ於テ無届缺勤者ヲ當然除籍スル場合ニハ改メテ施行令第二十七條ノニ依

リ二週間ノ豫告期間ヲ設クルヲ要セス(昭和三年一月三十一日 社會局労働部長通牒)

問 前貸金アル職工ヲ解雇スル際其ノ解雇手當ヲ前貸金ト相殺シタル場合ハ工場法違反トナ

ルヤ

答 民法上ノ問題ハ別トシ直接工場法違反トナラス(昭和三年一月三十一日 社會局労働部長通牒)

問 解雇豫告後二週間經過前ニ負傷休業シタル場合工場法施行令第二十七條ノニ依リ二ヶ

月間ハ解雇スルコトヲ得サルモ二ヶ月後更ニ二十四日ノ豫告ヲ爲スヲ要スルヤ又ハ負傷日迄

ノ豫告期間ヲ通算シ差支ナキヤ

答 後段見解ノ通り通算シ差支ナシ(大正十五年十一月二十六日 社會局労働部長通牒)

問 工場法施行令第二十七條ノ二豫告解雇ノ都合ニ初メヨリ五日ノ豫告ヲ爲シ且九日分ノ手

當ヲ支給シテ解雇シ得ルヤ又始メ十四日ノ豫告ヲ爲シタル後五日經過シテ後九日分ノ手當

ヲ支給シテ即時解雇シ得ルヤ

答 何レニシテモ差支ナシ(昭和二年一月二十二日 社會局労働部長通牒)

第四章 徒 弟

法第十六條

職工徒弟、職工徒弟タラムトスル者若ハ工業主又ハ其ノ法定代理人若ハ工場管理人
ハ職工徒弟又ハ職工徒弟タラムトスル者ノ戸籍ニ關シ戸籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ
對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

令第二十八條

工場ニ收容スル徒弟ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 一定ノ職業ニ必要ナル知識技能ヲ習得スルノ目的ヲ以テ業務ニ就クコト
- 二 一定ノ指導者ノ指揮監督ノ下ニ教習ヲ受クルコト
- 三 品性ノ修養ニ關シ常時一定ノ監督ヲ受クルコト
- 四 地方長官ノ認可ヲ受ケタル規程ニ依リ收容セラルルコト

令第二十九條

工業主前條第四號ノ認可ヲ申請スルニハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

- 一 徒弟ノ員數
- 二 徒弟ノ年齢
- 三 指導者ノ資格
- 四 教習ノ事項及期間
- 五 就業ノ方法及一日ニ於ケル就業ノ時間
- 六 休日及休憩ニ關スル事項
- 七 品性修養ニ關スル監督ノ方法
- 八 給與ノ方法
- 九 第三十條ノ規定ニ依リ設クル規程
- 十 徒弟契約ノ條項

令第三十條 徒弟未成年者又ハ女子ナル場合ニ於テハ其ノ就業ニ付十六歳未滿ノ者又ハ女子ニ
關スル工場法ノ規定ニ準據シテ危険ヲ避け及衛生上ノ害ヲ防クノ方法ヲ定ムヘシ

工場法(徒弟)

▲令第三十一條 地方長官ハ工業主ニ於テ第二十八條第四號ノ規程ニ遵ハス又ハ徒弟教習ノ目的ヲ完クスルコト能ハスト認ムルトキハ之ヲ矯正スル爲必要ナル事項ヲ命シ又ハ第二十八條第四號ノ認可ヲ取消スコトヲ得

▲令第三十二條 第二十八條ノ條件ヲ具備セサル者ニ對シテハ工業主ニ於テ徒弟ノ名義ヲ用キルニ拘ラス職工ニ關スル工場法及本令ノ規定ヲ適用ス第二十八條第四號ノ認可ヲ取消サレタルキ從來ノ徒弟ニ付亦同シ

問 徒弟八十歳未満ノ者ト雖差支ナキヤ
答 工場法上徒弟ノ年齢ニ關シテハ職工ノ年齢ト同様ニ取扱フヘキモノナリ

(大正六年二月十日農商務省商工局長通牒)

第五章 雜 則

法第十八條 工業主ハ工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ選任スルコトヲ得
工業主本法施行區域内ニ居住セサルトキハ工場管理人ヲ選任スルコトヲ要ス

工場管理人ノ選任ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ但シ法人ノ理事、會社ノ業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者及支配人ノ中ヨリ選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

法第十九條 前條ノ工場管理人ハ本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ適用ニ付テハ工業主ニ代ルモノトス但シ第十五條ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
工業主營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者又ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル

場合ニ於テ工場管理人ナキトキハ其ノ法定代理人又ハ理事、業務ヲ執行スル社員、會社ヲ代表スル社員、取締役、業務擔當社員其ノ他法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ付亦前項ニ同シ
法第二十條 工業主又ハ前條ニ依リ工業主ニ代ル者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ置ス

○則第二十一條 工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

○則第二十二條 工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

- 一 工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ
- 二 工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ
- 三 第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘキ書類ヲ滅失シ又ハ毀損シタルトキ

○則第二十三條 削 除

問 工場管理人ハ工場法施行地域内ニ居住スル場合ニハ外國人ニテ差支ナキヤ
答 差支ナシ(大正十五年十一月二十六日社會局勞動部長通牒)

問 工場管理人ニ代理人ヲ認ムルヤ
答 然リ(右同)

法第二十一條 正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ詢問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

法第二十二條

工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス但シ工場ノ管理ニ付相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者ハ職工ノ年齢ヲ知ラサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免カルコトヲ得ス但シ工業主又ハ第十九條ニ依リ工業主ニ代ル者及取扱者ニ過失ナカリシ場合ハ此ノ限ニ在ラス

法第二十三條

本法ニ依ル行政官廳ノ處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

法第二十四條

主務大臣ハ第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用フルモノニ付テハ第三條、第四條、第七條乃至第九條、第十一條、第十三條、第十四條、第十六條及第十八條乃至第二十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得但シ第三條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ其ノ適用後二年以内同條ノ就業時間ヲ一時間以内延長スルコトヲ得

法第二十五條

本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ハ工場管理人ニ關スル規定及罰則ヲ除クノ立又ハ公立ノ工場ニ之ヲ適用ス

官立工場ニ關シテハ所轄官廳ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ行政官廳ニ屬スル職務ヲ行フ

△令第三十三條

工業主ヲシテ不正ニ扶助義務、賃金支拂ノ義務、職工ノ貯蓄金返還ノ義務若ハ

第二十七條第一項ノ規定ニ依ル義務ノ全部若ハ一部ヲ免レシメタル者又ハ第二十七條ノ二ノ規定ニ違反シテ雇傭契約ヲ解除セシメタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ其ノ所爲ニ付工場法第二十二條ノ規定ニ依リ工業主又ハ之ニ代ル者ヲ罰スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

△令第三十四條

削除

△令第三十五條

削除

△令第三十六條

削除

○則第二十七條

工場法第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用ヒ織物又ハ撚絲ノ事業ヲ營ムモノニハ工場法第三條、第四條、第七條、第八條、第十四條及第十八條乃至第二十三條並本則第二條、第四條、第十一條、第十二條第二項、第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ工場ノ工業主ハ十六歳以上ノ職工ニ付其ノ住所、氏名、生年月日ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ工場ニ備付クルコトヲ要ス本名簿ハ工業労働者最低年齢法第三條ニ依ル名簿ト合併スルコトヲ妨ケス

○則第二十七條ノ二

第八條ノ七ノ規定ニ違反シタル者(工業主ヲ除ク)ハ百圓以下ノ罰金又ハ

科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待チ之ヲ論ス

法律附則(昭和十年二月法律第十九號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和十一年十二月勅令第四百四十六號)

工場法第十五條ノ規定ニ基キ扶助ヲ受クルノ權利ノ時効ニシテ其ノ進行ガ本法施行前ニ始リタル

モノニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル但シ本法施行ノ日ヨリ起算シ其ノ殘期ガ二年ヨリ長キトキハ其ノ日ヨリ起算シテ第十五條ノ三ノ規定ヲ適用ス

施行令附則(昭和十一年十二月勅令第四百四十七號)

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前支給事由ヲ生シタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受クル者本令施行後引續キ休業扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

施行規則附則(昭和十七年二月厚生省令第七號)

本令ハ昭和十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表(施行令第七條)

| 等級 | 身體障害 | 障害扶助料 |
|-----|---|--------------------------|
| 第一級 | 兩眼ヲ失明シタルモノ 二咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ | 賃金六百日 分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四 |
| 第二級 | 七兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ 八兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ 九兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ | 賃金五百日 分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三 |
| 第三級 | 二咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ 三精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 四胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルモノ 五半身不隨ト爲リタルモノ 六兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ | 賃金四百日 分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二 |
| 第四級 | 一兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 三鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ 四一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 五一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ | 賃金三百日 分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ一 |

工場法(告示)

| 等級 | 身體障害 | 障害扶助料 |
|-----|---|--------------------------|
| 第一級 | 一兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ 二兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 三兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ | 賃金五百日 分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三 |
| 第二級 | 一兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 三鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ 四一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 五一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ | 賃金四百日 分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二 |
| 第三級 | 一兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ 二兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ 三兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ | 賃金三百日 分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ一 |
| 第四級 | 一兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ 二咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ 三鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ 四一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ 五一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ | 賃金二百日 分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ一 |

| | | |
|-----|-----------------------------|-----------|
| 第九級 | 九 一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ | 日賃金分額但百五十 |
| | 十 二下肢ニ假關節ヲ殘スモノ | ノ金分額但百五十 |
| | 十一 一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| 一級 | 一 兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ | 日賃金分額但百五十 |
| 二級 | 二 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| 三級 | 三 兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變状ヲ殘スモノ | ノ金分額但百五十 |
| 四級 | 四 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ | ノ金分額但百五十 |
| 五級 | 五 鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ | ノ金分額但百五十 |
| 六級 | 六 咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ | ノ金分額但百五十 |
| 七級 | 七 鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ | ノ金分額但百五十 |

| | | |
|-----|---------------------------------|-----------|
| 第十級 | 八 一手指ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ | 日賃金分額但百五十 |
| | 九 一手指ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| | 十 一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| | 十一 一足ノ五趾ノ用ヲ變シタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| 一級 | 一 一眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ | 日賃金分額但百五十 |
| 二級 | 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ | ノ金分額但百五十 |
| 三級 | 三 十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| 四級 | 四 鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聴力耳蝸ニ接シタルモノ | ノ金分額但百五十 |

| | | |
|------|------------------------|-----------|
| 第十一級 | 七 一手指ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ | 日賃金分額但百五十 |
| | 八 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| | 九 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| | 十 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| | 十一 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| 一級 | 一 一眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ | 日賃金分額但百五十 |
| 二級 | 二 一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| 三級 | 三 兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ | ノ金分額但百五十 |

| | | |
|------|------------------------|-----------|
| 第十二級 | 七 一手指ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ | 日賃金分額但百五十 |
| | 八 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| | 九 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| | 十 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| | 十一 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ | ノ金分額但百五十 |
| 一級 | 一 一眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ | 日賃金分額但百五十 |
| 二級 | 二 咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ | ノ金分額但百五十 |
| 三級 | 三 七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ | ノ金分額但百五十 |

工場法(告示)

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----------------------|---|--|---|------------------------|---|------------------------|---|--|---|-----------------------|---|----------------------------|---|-------------------|--------|
| 十一 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 十 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 九 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 八 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 七 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 六 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 五 | 鎖骨、肋骨、肩胛骨、又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ | 四 | 一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ | 加ヘタルモノ |
| ハ夫々五十三トス | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----------------------|---|---------------|---|------------------------|---|------------------------|---|--|---|-----------------------|----|-----------------------|---|--|---|------------------------|---|------------------------|---|--|---|-----------------------|---|----------------------------|---|-------------------|--------|
| 七 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 六 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ | 五 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 四 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 三 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 二 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 十一 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 十 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 九 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 八 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 七 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 六 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 五 | 鎖骨、肋骨、肩胛骨、又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ | 四 | 一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ | 加ヘタルモノ |
| ハ夫々五十三トス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

七〇

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----------------------|---|--|---|------------------------|---|------------------------|---|--|---|-----------------------|---|----------------------------|---|-------------------|--------|
| 十一 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 十 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 九 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 八 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 七 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 六 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 五 | 鎖骨、肋骨、肩胛骨、又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ | 四 | 一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ | 加ヘタルモノ |
| ハ夫々五十三トス | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------|-----------------------|---|---------------|---|------------------------|---|------------------------|---|--|---|-----------------------|----|-----------------------|---|--|---|------------------------|---|------------------------|---|--|---|-----------------------|---|----------------------------|---|-------------------|--------|
| 七 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 六 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ | 五 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 四 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 三 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 二 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 十一 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 十 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 九 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 八 | 一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ | 七 | 一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ ノ第二趾又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ | 六 | 一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ | 五 | 鎖骨、肋骨、肩胛骨、又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ | 四 | 一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ | 加ヘタルモノ |
| ハ夫々五十三トス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

工場法(告示)

七一

備考
一 視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ付測定ス
二 指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指ハ第一指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

- 三 指ノ用ヲ緩シタルモノトハ指ノ末節ノ半 五 趾ノ用ヲ緩シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末節以上ヲ失
 (拇指ニ在リテハ指關節)ニ著シキ運動 趾タルモノ又ハ蹠趾關節若ハ第一趾關節
 障害ヲ殘スモノヲ謂フ (第一趾ニ在リテハ趾關節)ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ
- 四 趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

●工場法施行規則中改正省令施行ニ關スル件依命通達(昭和十七年二月二十四日) 厚生次官 通達(第...)

本月十日厚生省令第七號ヲ以テ工場法施行規則ハ一部改正セラレ三月一日ヨリ施行可相成候處今
 同ノ改正ハ工場勞務者ノ保健對策ヲ改善強化セントスルモノニシテ其ノ要旨ハ

- 一 健康診斷ノ實施範圍ヲ擴張シタルコト
- 二 採用後一定期間内ニ於ケル健康診斷ノ實施ヲ新タニ規定シタルコト
- 三 結核ノ早期發見ヲ期スル爲健康診斷ノ検査項目ヲ擴充シタルコト
- 四 右健康診斷ノ結果ニ對スル措置ニ關シ新タニ規定ヲ設ケタルコト

以上四點ニ有之候モ尙之ガ施行ニ當リテハ別添「勞務者健康診斷施行標準」ニ準據セシメラルル
 様致度此段及依命通達候

勞務者健康診斷施行標準

一、工場法施行規則第八條ノ二第二項ニ依リ毎年少クトモ二回健康診斷ヲ爲サシムベキ衛生上有
 害ナル業務ノ主ナルモノハ左ノモノヲ取扱フ場所又ハ發生スル場所ニ於ケル業務トスルコト

- 水銀又ハ其ノ化合物(朱ノ如キ無害ナルモノヲ除ク)
- 鉛又ハ其ノ化合物
- 酸化亜鉛(亜鉛又ハ其ノ合金ヲ熔融スル場合ノ煙氣ヲ含ム)
- 黃磷又ハ磷化水素
- 砒素化合物
- チアン化合物
- クロール化合物
- マンガン化合物
- クロール、臭素
- 弗化水素、鹽酸蒸氣
- 硫酸蒸氣、亞硫酸瓦斯、硫化水素
- 硝氣(酸化窒素類)
- アンモニア
- 一酸化炭素
- 二硫化炭素
- フォルムアルデヒド
- アクロレイン
- エーテル蒸氣

工場法(健康診斷)

醋酸エチル、醋酸アミル
 四鹽化エタン
 テレピン油
 タール蒸氣、ベンゾール、アニリン其ノ他ノ芳香族及其ノ誘導體
 石油瓦斯及蒸氣
 多量ノ炭酸瓦斯
 多量ノ珪酸塵又ハ之ニ類スルモノ
 ラヂウム其ノ他ノ放射能物質

紫外線

「エックス」線

白熱光線

眩光

二、工場法施行規則第八條ノ三第一項及第四項ニ依リ勞務者ニ對シテ行フベキ健康診斷ノ方法ハ

概ネ左記ニ依ルコト

1、身長計測

被檢者ノ靴、足袋等ヲ脱セシメタル後、身長計ノ臺上ニ兩爪先ヲ少シ開キ背部、臀部及兩肢ヲ尺柱ニ接シ、兩上肢ヲ自然ニ體側ニ垂シ、頭部ハ耳眼水平面ヲ保チ得ル姿勢ヲトラシメ身長ヲ計測スルコト

身長ノ記錄ハ單位ヲ經トシ單位以下一位ニ止ムルコト

2、體重計測

被檢者ヲシテ衣類ヲ脱セシメタル後、體重計ノ秤臺ノ中央ニ兩足ヲ揃ヘ直立靜止ノ姿勢ヲトラシメ體重ヲ計測スルコト
 體重ノ記錄ハ單位ヲ經トシ單位以下一位ニ止ムルコト

3、胸圍計測

被檢者ヲシテ自然ノ起立姿勢ヲトラシメタル後被檢者ノ背面ニ於テハ兩肩胛骨ノ直下部ニ、其ノ前面ニ於テハ兩乳頭ノ直上部(女子ニシテ乳房大ナル場合ハソノ直下部)ニ卷尺ヲ當テ、肩、頸及上肢ヲ緊張セシメザル様、簡單ナル會話ヲ試ミツツ呼吸ノ安靜ナル場合ニ於テ呼吸ノ終リタル時ニ胸圍ヲ計測スルコト
 胸圍ノ記錄ハ身長ノ場合ト同様トスルコト

4、視力検査

明ルキ室内ノ壁面ニ萬國式試視力表ヲ掲ゲ被檢者ヲシテ其ノ前方五米ノ所ニ起立セシメ先ヅ左眼ヲ被ヒ右眼ニテ試視力表ヲ注視セシメ、其ノ視得ル最小視標ヲ求メ之ニ該當セル數字ヲ以テ右眼ノ視力トスルコト、左眼ヲ之ニ準ジテ行フコト
 眼鏡ヲ常用スル者ニ就テハ先ヅ裸眼視力ヲ決定シ然ル後眼鏡ヲ裝用シタル場合ノ視力ヲ決定スルコト

五米ノ距離ニ於テ○・一ノ視標ヲ判別シ得ザル場合ハ視力○・一未滿ト記錄スルコト
 5、色神検査

工場法(健康診斷)

明ルキ室内ニ於テ直射日光ヲ避ケ石原式學校用色盲検査表ヲ用ヒ其ノ第一表、次ニ第二、第三、第四表ノ中一表、第五、第六、第七表ノ中一表ト順次ニ讀マシメ三表トモ正讀スレバ正常、第一表ヲ正讀シ他ノ二表ヲ正讀シ得ザルモノヲ異常ト判定スルコト

6、聽力検査

被検査者ヲ検査者ヨリ約一米ノ距離ニ於テ右耳ヲ検査者ノ方ニ向ケ着席セシメタル後水ニテ濕ラセタル指頭ヲ以テ左耳ノ外聽道ヲ強ク壓迫セシメ、低話聲ヲ以テ談話シ其ノ應答ニ依リ、對話ニ妨ゲナキモノヲ正常、障碍アルモノヲ難聽、甚シク障害アルモノ又ハ聽取シ得ザルモノヲ聾ト判定スルコト

7、「ツベルクリン」皮内反應検査

日本藥局方「ツベルクリン」(舊ツベルクリン)二千倍溶液ノ〇・一坵ヲ左前膊内側ノ皮内ニ「ツベルクリン」用注射筒ニ太サハ注射針ヲ附シタルモノヲ用ヒテ注射シ、反應ノ検査ハ注射後四十八時間後ニ於テ、注射部位ノ發赤ノ有無及大キサニ付之ヲ行フコト
發赤ノアル場合ハ發赤ノ徑(圓形ニ近キ場合ハ其ノ直徑、橢圓形其ノ他不整形ノ場合ハ其ノ短徑)ヲ測定シ左記ニ依リ陰性、疑陽性、陽性ノ別ヲ判定シ之ヲ發赤徑ト併セ記載スルコト
單位ハ耗トシ單位以下ハ切捨テルコト

發赤徑 判定
陰性

〇耗以上
四耗以下

五耗以上
九耗以下

疑陽性

十耗以上

陽性

8、赤血球沈降速度検査

ウエスターグレン氏法ニヨリ温室ニ於テ一時間値ヲ測定スルコト

9、喀痰検査

喀痰検査ハ原則トシテ直接塗抹染色法ニ依ルコト

早朝喀出セル喀痰又ハ咽喉粘液ノ塗抹標本ヲ作製シ、チール、ネルセン氏法又ハチール、カベツト氏法ニ依リ染色シ鏡檢ノ結果結核菌陽性或ハ陰性ト記載スルコト

三、工場法施行規則第八條ノ四ニ依リ健康診断ノ結果ニ關スル記録ヲ作成スル場合ハナルベク別記様式ニ依リ職工別ニ之ヲ記載シ置クコト

四、工場法施行規則第八條ノ五ニ依リ職工ノ健康保護上必要ナル處置ヲ執ル場合ニハ概ネ左記ニ依ルコト

1、健康診断ノ結果職工ノ健康状態ヲ左ノ如ク區分スルコト

A、健康者

B、微症罹患者

C、赤沈値促進者

D、要注意罹患者

E、陽性轉化者

F、疑活動性結核罹患者

G、活動性結核罹患者

H、要療養罹患者

工場法(健康診断)

健康状態判定ノ標準ハ施行標準第三號健康診断個人票記載注意事項五ニ依ルコト
 2、健康状態ノ区分ニ從ヒ就業ノ場所又ハ業務ノ轉換、作業時間ノ短縮、休憩時間ノ増加、健康状態ノ監視ヲ左ノ如ク行フコト

| 健康状態判定級別 | 健康状態ノ監視 | 作業ニ對スル考慮 |
|----------|---|---------------|
| A、健康者 | 次期定期検査迄放仕 | 特別ノ考慮不要 |
| B、微症罹患者 | 臨床醫學的検査……………必要ノ都度 | 特別ノ考慮不要 |
| C、赤沈値促進者 | 體重測定……………一ヶ月一回以上 臨床醫學的検査……………必要ノ都度 赤沈ノ検査……………必要ノ都度 「エックス」線検査……………必要ノ都度 | 特別ノ考慮不要 |
| D、要注意罹患者 | 臨床醫學的検査……………必要ノ都度 | 作業轉換 |
| E、陽性轉化者 | 體重測定……………一ヶ月一回以上 臨床醫學的検査……………一ヶ月一回 赤沈検査……………一ヶ月一回 | 作業轉換 深夜業禁止 |

| | | |
|-----------|--|-------------------------------|
| F、疑活動性結核者 | 「エックス」線検査……………必要ノ都度 體重測定……………一日二回 臨床醫學的検査……………一ヶ月一回 赤沈検査……………一ヶ月一回 「エックス」線検査……………必要ノ都度 | 作業轉換 深夜業禁止 午前時間 午後時間 |
| G、活動性結核者 | | 休業療養 |
| H、要療養罹患者 | | |

3、前項ニ依リ就業ノ場所又ハ業務ノ轉換ヲ行ハシムベキ者ハ概ネ左ノ業務ニ就業セル者トスルコト

(1) 製鐵高爐作業
 製鐵用高爐ニ於ケル爐ノ操作、熔銑ノ取出及運搬ノ作業(鑛滓除去ノ作業ヲ含ム)

(2) 鋼爐作業
 製鋼用轉爐又ハ製鋼用若ハ鑄鋼用ノ平爐、坩堝爐ニ於ケル原料ノ裝入及爐ノ操作並ニ熔鋼ノ取出及運搬ノ作業(鋼滓除去ノ作業ヲ含ム)

工場法(健康診断)

- (3) 鋼造塊作業
鋼塊ト爲ス爲熔鋼ヲ鑄型ニ鑄入スル作業
- (4) 鋼壓延作業
鋼ノ壓延ノ作業、其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐又ハ均熱爐ノ操作及加熱材料ノ運搬作業
赤熱中ノ壓延鋼製品ノ剪斷、矯正及成形ノ作業（壓延鋼材ノ酸洗及「アセチレンガス」焰ニ依ル表面整理ノ作業ヲ含ム）
- (5) 金屬鍛造作業
一應未滿ノ機械鍾又ハ五百應未滿ノ機械プレス若クハ一應以上ノ鍾又ハ五百應以上ノプレスニ依ル金屬ノ鍛鍊、鍛造及其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作並ニ加熱材料ノ運搬ノ作業
- (6) 瓦斯爐作業
石炭瓦斯爐、骸炭爐及發生爐、瓦斯爐ニ於ケル石炭ノ裝入、爐ノ操作及骸炭又ハ殘滓ノ取出ノ作業
- (7) 燒結爐、焙燒爐作業
燒結爐、焙燒爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及生成物ノ取出又ハ運搬ノ作業（殘滓ノ取出ノ作業ヲ含ム）
- (8) 金屬爐作業
混成瓦斯爐又ハ水性瓦斯爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及殘滓ノ取出ノ作業（石炭瓦斯高壓壓送機ノ操作ノ作業ヲ含ム）

- 混銑爐、製鋼用若ハ鑄鋼用電氣爐、金屬鑄物用若ハ合金用坩堝爐又ハ金屬電解爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作並ニ熔融金屬ノ取出及運搬ノ作業
- (9) 鋼厚板作業
厚六耗以上ノ鋼板又ハ型鋼類ノ銑打並ニ火造ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作及加熱材料ノ運搬ノ作業
厚六耗以上ノ鋼板又ハ型鋼類ノ加工、組立及填隙ノ作業
- (10) 金屬熱處理作業
金屬ノ燒入、燒鈍、燒戻及燒準ノ作業並ニ金屬ノ滲炭ノ作業
- (11) 金屬鑄造作業
金屬鑄物製造ニ於ケルハツリ及砂落ノ作業、金屬鑄物用鑄型ノ製作、熔融物ノ運搬及鑄込ノ作業
- 鑄型用砂ノ混合ノ作業
- (12) 金屬噴砂作業
「サンドブラスト」ニ依ル金屬品ノ仕上ノ作業
- (13) 金屬熔接作業
電弧又ハガスニ依ル金屬ノ熔接及燒切ノ作業
- (14) 非鐵金屬壓延作業
非鐵金屬ノ壓延、押出及其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作並ニ加熱材料ノ運搬ノ作業

工場法（健康診斷）

- (15) 金屬濕式電解作業
金屬電解槽ニ於ケル電極又ハ電解液ノ裝入、電解槽ノ操作及生成物ノ取出ノ作業（殘滓ノ取出ノ作業ヲ含ム）
- (16) 金屬電爐作業
電氣爐ニ於ケル原料ノ裝入、爐ノ操作及熔融金屬ノ取出及運搬ノ作業
- (17) 金屬熔融作業
鑄物用又ハ合金用ノ金屬ノ熔融及熔融金屬ノ運搬ノ作業
- (18) 鍛冶作業
鏈ニ依ル金屬ノ鍛鍊及鍛冶作業
- (19) 金屬酸洗作業
金屬品ノ酸洗作業
- (20) 高起重機運轉作業
三十米以上ノ高所ニ於ケル起重機ノ運轉ノ作業
- (21) 造船作業
造船ニ於ケル船體用鋼板又ハ鋼材ノ銑打ノ作業
船體用鋼板又ハ鋼材ノ填隙及取付ノ作業、船臺、船渠若ハ船舶ニ於テ行フ船體用鋼板又ハ鋼材ノ孔明、船體又ハ船舶ニ於ケル電弧又ハガスニ依ル金屬ノ熔接及燒切並ニ船舶用鋼材ノ撓曲、成形及其ノ準備ノ爲ニスル加熱爐ノ操作又ハ加熱材料ノ運搬ノ作業

船體又ハ船舶ニ於ケル「ペイント」塗裝ノ作業

(22) 船舶出入渠作業

船渠ニ於ケル支柱、足場ノ取附、取外シ其ノ他船舶出入渠ノ準備ノ作業

(23) 硝子熔解爐作業

原料ノ裝入、爐ノ操作及硝子生地ノ取出ノ作業

(24) 「セメント」製造作業

「セメント」製造用廻轉窯ニ於ケル原料ノ裝入、窯ノ操作及燒成物ノ取出ノ作業

(25) 跳降轉轍作業

進行中ノ機關車ヨリ跳降り轉轍ヲ爲ス作業

(26) 著シキ粉塵又ハ有害ガスヲ發散スル場所ニ於ケル作業

○健康診斷個人票（八六頁參照）記載注意事項

- 一 用紙ノ大サハ成ルベク日本標準規格B列5號トスルコト
- 二 身長欄乃至聽力欄、ツベルクリン皮内反應欄、赤沈速度欄及喀痰中結核菌欄ニハ各々施行標準第二號ノ1乃至9ニ依リ検査シタル結果ヲ記入スルコト
- 三 其ノ他ノ検査欄ニハ工場法施行規則第八條ノ三第一項、第三項及第四項以外ノ項目ニ付テ検査ヲ行ヒタル場合其ノ項目ト検査結果トヲ記入スルコト
- 四 疾病異常欄ニハ診斷ニ依ル病名ヲ記入スルコト
- 五 概評欄ニハ左記標準ニ依リ可、要注意、要療養ノ別ヲ記入スルコト 左記ノ條件中二以上ノ

工場法（健康診斷）

條件ヲ具有スル場合ハ後ニ掲グル條件ニヨリ決定スルコト

甲、概評「可」ト判定スベキ健康状態

A、健康者

(イ) 臨床醫學的検査ニ依リ全ク疾病異常ヲ認メザルモノ

(ロ) 「エックス」線検査ニ依リ全ク異常ヲ認メザルモノ又ハ石灰化嚢ノミヲ認ムルモノ

B、微症罹患者

左ノ疾病ニ罹レルモノ

(一) 輕症ノ傳染性皮膚病又ハ職業性皮膚病 (二) 疑似症及輕症ノ「トラホーム」 (三) 輕症ノ胃及腸炎 (四) 潜伏性ノ花柳病 (五) 其ノ他之ニ準ズベキ疾病 (六) 作業ニ支障ナキ形態異常

ニ支障ナキ形態異常

乙、概評「要注意」ト判定スベキ健康状態

C、赤沈値促進者

赤血球沈降速度一時間値男子十五耗以上女子二十耗以上ノモノ

D、要注意罹患者

(イ) 「エックス」線検査ニ依リ陳舊性病變ヲ認ムルモノ

(ロ) 左ノ疾病ニ罹レルモノ

(一) 著シク傳染ノ虞ナキ重症ノ「トラホーム」 (二) 輕症ノ職業性眼病 (三) 陳舊性肋膜炎 (四) 代償機能良好ナル心臟病 (五) 慢性ノ胃及腸炎 (六) 輕症ノ脚氣

肋膜炎 (四) 代償機能良好ナル心臟病 (五) 慢性ノ胃及腸炎 (六) 輕症ノ脚氣

(七) 輕症ノ職業性中毒 (八) 其ノ他之ニ準ズベキ疾病 (九) 作業ニ支障アル形態異常

E、陽性轉化者

ツベルクリン反應陽性轉化發見後一年以内ノモノ

F、疑活動性結核罹患者

「エックス」線検査ニ依リ疑活動性結核病變ヲ認ムルモノ

丙、概評「要療養」ト判定スベキ健康状態

G、活動性結核罹患者

打診、聽診「エックス」線検査、赤血球沈降速度検査及喀痰検査等ニ依リ活動性結核ニ罹レルモノト認メラルモノ

H、要療養罹患者

精神病、急性熱性病、傳染性皮膚病、職業性皮膚病、傳染性眼病、肋膜炎、心臟病、胃及腸炎、腎臟病、花柳病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ既ニ休業シテ療養ノ必要アルモノ

六、事業主ニ對スル申告事項欄ニハ工場醫其ノ他検査醫ニ於テ健康診斷ノ結果勞務者ノ健康保護上特ニ事業主ニ申告ヲ要スル事項ヲ記入スルコト

七、本人ニ對スル注意事項欄ニハ工場醫其ノ他検査醫ニ於テ健康診斷ノ結果勞務者ノ健康保護上特ニ本人ニ對シ注意スベキ事項ヲ記入スルコト

八、備考欄ニハ票中記入ノ事實ニ關シ説明ヲ要スル事項其ノ他特ニ必要ト認メタル事項ヲ記載ス

工場法(健康診斷)

八五

健康診断個人票

別紙様式

| 氏名 | 採年月日 | 昭和年月日 | | | | | | | |
|-------------|------|-------|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 年 | 月 | 日 | 年 | 月 | 日 | | |
| 検査年 | 年 | 月 | 日 | 年 | 月 | 日 | 年 | 月 | 日 |
| 年齢(満) | 年 | 月 | 日 | 年 | 月 | 日 | 年 | 月 | 日 |
| 職業 | 別 | 長 | 重 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 |
| 身長 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 |
| 体重 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 |
| 胸圍 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 | 種 |
| 視力 | 裸眼 | 右 | 左 | | | | | | |
| | 眼鏡装用 | 右 | 左 | | | | | | |
| 聴力 | 右 | 左 | | | | | | | |
| 臨床醫學的所見 | 赤 | 赤 | 赤 | 赤 | 赤 | 赤 | 赤 | 赤 | 赤 |
| ツベルクリ | 反応 | 判定 | | | | | | | |
| 皮膚内 | 線 | 所見 | | | | | | | |
| 「エツクス」 | 速度 | | | | | | | | |
| 赤沈 | 結核 | 菌 | | | | | | | |
| 喀痰 | 中 | | | | | | | | |
| 其他 | | | | | | | | | |
| ノ検査 | | | | | | | | | |
| 疾病異常 | | | | | | | | | |
| 概評 | | | | | | | | | |
| 事業主=對スル申告事項 | | | | | | | | | |
| 本人=對スル申告事項 | | | | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | | | |
| 備檢 | | | | | | | | | |
| 査醫印 | | | | | | | | | |

ルコト

工場危害豫防及衛生規則 (昭和四年六月二十日內務省令第二十四號、改正昭和十七年二月十日厚生省令第八號)

第一條 本令ハ工場法第一條ノ工場ニ之ヲ適用ス

第二條 原動機及動力傳導裝置ノ危害ヲ生スル虞アル部分ニハ適當ナル柵圍又ハ被覆ヲ設クベシ

(施行標準)

一、原動機

1 原動機ハ別室又ハ安全ナル場所ニアルモノヲ除キ係員以外ノ者ノ接近ヲ防止スベキ確實ナル柵圍ヲ設クルコト、但シ電動機及臨時ニ使用スル移動式機關ニ付テハ危險部分ニ付被覆又ハ柵圍スルヲ以テ足ルコト

2 勢ハ別室又ハ安全ナル場所ニアルモノ、外柵圍スルコト、危險特ニ甚シキ勢輪ハ別室ニアル場合ト雖モ柵圍スルコト

二、動力傳導裝置タル車軸、調帶、調索及調車

1 動力傳導裝置ノ範圍ハ原動力ノ軸ニ取付ケタル調車及調帶又ハ齒輪ヨリ機械ニ動力ヲ傳フル調帶又ハ齒輪迄ノ機械的裝置及其ノ附屬物ヲ謂フコト

2 床面上六尺以内(屋外、床下、地下室等ト雖モ通行又ハ作業ヲ爲ス場合ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ在ル動力傳導裝置ノ車軸ニハ、柵圍、被覆又ハ圓套等ヲ設クルコト但シ接觸危險ナキモノハ其ノ要ナキコト

衛生規則一條—二條

水平車軸ニシテ通行又ハ作業ノタメ上ヲ跨クモノニ付テハ被覆、踏切橋等ヲ設クルコト

製絲工場ノ外摺輪式摺輪ノ車軸ノ如キモノニシテ表面平滑ナル圓筒形車軸ニ付テハ必スシモ柵圍、圓套等ヲ設クルヲ要セス繼目ノ部分ノミ圓套ヲ設クルヲ以テ足ルコト

4 床上六尺以内ニアル調帶、調索又ハ調車ニシテ作業又ハ通行ノ際上ヲ跨キ又ハ下ヲ潜ルモノ（身體ヲ屈スルニ非サレハ接觸スルモノ）及大サ、速度、力及周圍ノ關係上特ニ危険ナルモノニ付テハ柵圍又ハ被覆ヲ設クルコト

5 調車間ノ距離十尺以上、幅五寸以上、速度毎秒三十尺以上ノ調帶ニシテ其ノ下ヲ通行シ又ハ其ノ下ニテ作業スルコトアルモノニハ不意ノ切斷墜落ニ對シ下方ニ確實ナル柵圍ヲ設クルコト

6 床上六尺以上又ハ床下若ハ地下室ニアリ平素接觸ノ危険ナキモ掃除、注油、検査、修繕等ノ場合ニ運轉中接觸スル危険アルモノニ付テハ成ルヘク被覆又ハ柵圍ヲ設クルコト

三、齒 輪

動力傳導裝置タル齒輪ニシテ通行及作業（掃除、注油、検査、修繕等ヲ含ム）ノ際運轉中不意ニ接觸ノ危険アルモノハ凡テ被覆スルコト但シ柵圍ニ依リ接觸危険ヲ防キ得ル場合ニハ柵圍ニテモ差支ナキコト

四、柵圍、被覆

1 柵圍ノ高サハ左ノ標準ニ依ルコト

イ、危険部分ヨリ四寸未満ノ場合ニハ高サ五尺以上、危険部分ヨリ四寸乃至八寸未満ノ場

合ニハ高サ四尺以上、危険部分ヨリ八寸以上ノ場合ニハ高サ三尺以上トスルコト

ロ、危険部分カ右高サニ達セサルトキハ危険部分ヨリ五寸以上高キヲ以テ足ルコト但シ高サ三尺ヲ下ルコトヲ得サルコト

ハ、實際ノ事情ニ依リ（特ニ既設ノモノニ付テハ）危害豫防ノ目的ヲ達スルモノト認メラレル場合ハ右標準以下ナルモ差支ナキコト

2 柵圍及被覆ハ故意ニ非サレハ手足又ハ指ノ危険部分ニ觸ルル處ナキモノトスルコト

3 柵圍及被覆ハ凡テ堅牢ナルコトヲ要スルコト

4 柵圍及被覆ハ掃除、注油、検査、修繕等ノ爲メ必要アル場合ニハ適當ナル窓又ハ戸扉ヲ設クルコト（昭和四年七月十八日 社會局労働部長通牒）

第三條 動力傳導裝置ノ調帶ノ繼目ニハ突出セル金具ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ露出面ガ弧面ヲ爲シ危険ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ適當ナル柵圍若ハ被覆ニ依リ又ハ据附位置ノ關係上接觸ノ虞ナク且運轉中ニテ取扱フコトナキ調帶又ハ動力弱小若ハ速度緩ニシテ危険ナキ調帶ニ付テハ之ヲ適用セス

（施方標準） 本條ハ床上六尺以内ニアルモノハ勿論高所ニアルモノト雖モ掃除、注油、検査、修繕等ノ爲メ通行又ハ作業中接觸スル危険アルモノニ之ヲ適用スルコト（右同）

第四條 動力傳導裝置ノ車軸接手、車軸留輪、聯軸器、調車其ノ他廻轉部分ニ附屬セル「セツト スクリュー」、「ボルト」、「ナット」及楔類ノ頭部ハ突出セザルモノヲ用フルコトヲ要ス但シ露

出面ガ孤面ヲ爲シ危險ナキトキ、適當ナル被覆ノ設ケアルトキ又ハ作業（掃除、注油、検査、修繕等ヲ含ム）若ハ通行ニ際シ運轉中接觸ノ處ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

（施行標準）

- 一、本條モ前條同様床六尺以内ニアルモノハ勿論高所ニアルモノト雖モ掃除、注油、検査、修繕等ノ際運轉中接觸ノ危險アルモノニハ凡テ之ヲ適用スルコト
 - 二、車軸接手、車軸留輪、聯軸器、調車其ノ他廻轉部分ニ附屬セル「セツトスクリユー」「ボルト」「ナット」ハナルベク埋頭式ヲ用ヒ現ニ在ルモノニシテ埋頭式ニ取替ヘ難キモノニ付テハ突出部ヲ覆包スヘキコト
 - 楔類ノ部分ハ突出セサルモノヲ用フルカ又ハ突出部ヲ確實ニ覆包スヘキコト
 - 三、高所ニアル車軸ニシテ注油ハ停止中ニ行ヒ又ハ安全ナル注油裝置アルモノニ付テハ調車附近ニアル突出物ヲ除クノ外本條但書末段ニ該當スルモノト認ムヘキコト
 - 四、調車ノ縁端ヨリ内方ニ深ク取附アル突出物ハ接觸ノ處ナキモノト推定マルコト（右同）
- 第五條** 遊車ヲ使用スルモノニ在リテハ選帶裝置ヲ設クヘシ但シ作業上已ムヲ得サルモノ又ハ危險ノ處ナキモノハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ選帶裝置ニハ調帶カ不意ニ固定車ニ移ルコトヲ防止スル裝置ヲ爲スヘシ
- （施行標準） 紡績ノ「カード」ノ調帶ノ如キハ第一項ノ但書ニ該當スルモノト認ムルコト
- 第六條** 調車ト隣接車輪、軸承、車軸接手トノ間隔狭小ニシテ其ノ間ニ調帶カ脱落シ危害ヲ生スル虞アル場合又ハ車軸ノ運轉中調帶ヲ調車ヨリ時々取外シ置ク場合ニハ適當ナル調帶受ヲ設ク

（シ）

（施行標準） 調車ト隣接調車又ハ軸承トノ間隔（最狭部分ニ依ル）カ調帶ノ幅ヨリ廣キコト一寸以内又ハ「ベルト」ノ幅ノ四分ノ一以内ナル場合ニハ前段ニ該當スルモノト認ムルコト（右同）

第七條

注油ノ爲接近スルコト危險ナル動力傳導裝置ニハ安全ナル給油裝置ヲ設クヘシ

（施行標準） 動力傳導裝置ノ軸承ニハ「オイルカップ」「リング」式、球軸承其ノ他長期ニ亘リテ給油ノ要ナキモノ又ハ「バイブ」若ハ其ノ他ノ遠隔給油具ヲ用ヒ危險部分ニ接近シテ給油ノ要ナキ裝置ヲ設クルコト、運轉中注油ヲ禁止シ又ハ注油ノ際接觸危險アル調帶、調車及車軸ニ柵圍被覆等ヲ爲ス場合ニハ該裝置ヲ設ケサルコトヲ得ルコト（右同）

（注意） 注油トハ人カ油ヲ注クコトヲ意味シ給油トハ機械タルト人タルトヲ問ハス廣ク油ヲ給スルコトヲ意味スルモノトス

第八條

作業場所ニハ事故發生ノ場合ニ於テ速ニ原動機又ハ動力傳導裝置ノ運轉ヲ停止シ得ヘキ裝置ヲ設クヘシ但シ作業場所ヨリ原動機据附場所ニ直ニ到達シ得ル場合又ハ係員ヲ常置セル原動機室ニ通スル應急停止ノ信號ヲ定メアル場合ハ此ノ限ニ在ラス

（施行標準） 運轉停止裝置トハ「クラッチ」ノ如キ動力遮斷裝置又ハ「スキッチ」其ノ他原動機ヲ遮斷スル裝置ヲ謂フコト（右同）

第九條

原動機及動力傳導裝置ノ運轉ヲ開始スル際ニハ之ヲ關係職工（徒弟ヲ含ム以下之ニ同シ）ニ周知セシムル爲豫メ一定ノ合圖ヲ爲スヘシ

原動機、動力傳導裝置又ハ機械ノ運轉ヲ停止シテ、掃除、注油、検査、修繕ヲ爲シツ、アル際ニ他人カ之ヲ運轉シ危害ヲ生スル處アルトキハ之ヲ防止スル爲適當ナル裝置又ハ處置ヲ爲スヘシ

(施行標準)

一、原動機及動力傳導裝置ノ運轉ヲ停止シテ修繕、掃除等ヲ爲シツ、アル際他人カ不意ニ運轉ヲ開始スル危険アルモノニ就テハ之ヲ防止スルタメ、起動裝置(部分的停止ヲ爲シ得ル動力傳導裝置ニアリテハ其ノ部分ノ停止裝置)ニ左ノ如キ裝置ノ取附若ハ措置ヲナスコト

イ、錠ヲカケルコト

ロ、「掃除中」「修繕中」等適當ナル標示板ヲ取附クルコト

ハ、其ノ他適當ナル方法(例ヘハ電動機ニアリテハ責任者若ハ當該作業者自ラ「ブラツグ」ヲ取外シ携行スルコト、紐ヲ以テ結エルコト等)ヲ採ルコト

二、動力ニヨリテ運轉スル機械ノ修繕、掃除中ニ於テ他人カ容易ニ認識シ得サル種類ノ機械(裝置ヲ含ム)ニアリテハ、其ノ起動裝置ニ、其ノ移動若ハ使用ヲ不可能ナラシムル「ピン」其ノ他適當ナル裝置ヲ取附クヘキコト(右同)

第十條 動力ニ依リ運轉スル機械ノ危害ヲ生スル處アル部分ニハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外柵圍、被覆其ノ他適當ナル危害豫防裝置ヲ設クヘシ

(施行標準)

一、機械動力輪

機械動力輪ハ作業上已ムヲ得サルモノ、動力弱小若ハ速度緩ニシテ危険ナキモノ又ハ通行者ノ接觸危険ナキモノノ外柵圍被覆ヲ附スヘキコト

二、機械ノ突出物

機械ノ廻轉部分ニシテ接觸危険アル部分ニ附屬セル「セツトスクルユー」、「ボルト」、「ナット」及「キー」類ノ頭部ハ已ムヲ得サル場合ノ外突出セサルモノヲ用フルカ又ハ安全ナル被覆ヲ爲スコト

三、機械ノ齒輪

1 機械ノ齒輪ニシテ作業者又ハ通行者ノ接觸ノ危険アルモノハ凡テ被覆スルコト、例ヘハ紡績機械ニ於テ之ニ適當スルモノヲ例示スレハ左ノ如シ
イ 織機ニアリテハ「タベツトホキール」ト「クランクホキール」トノ外側ニ「バランスホキール」若ハ柵圍ナキモノ

ロ、繰返機(総機ヲ含マス)ノ「ラツク」ト「ビニオン」ニシテ機械端ニ在リテ露出セルモノ
ハ、糊槽ノ攪拌機及糊付機ノ傘齒輪ニシテ安全ナル位置ニ在ラサルモノ

ニ、紡績機械ノ一部ヲ爲ス露出セル齒輪(運轉中掃除スル處アルモノハ第十一條ニ依リ運轉ヲ停止スルニ非サレハ被覆ヲ取除ク能ハサル裝置トナスコト)

2 接觸危険アル部分カ啮合部ヨリ外方ニ向テ廻轉シ啮合部ハ接觸危険ナキモノニ就テハ被覆ヲ要セサルコト

3 齒輪被覆ハ少クトモ齒根迄被フコト但シ既設ノモノニシテ周圍ノ狀況ニ依リ其ノ必要ナシト認メラルルモノニ就テハ齒根ニ及ハサルモ差支ナキコト

四、鋸 機

1 圓鋸機ニハ已ムヲ得サル場合ノ外割及其ノ地ノ反撥豫防裝置ヲ附スルコト
2 中形又ハ小形ノ圓鋸機ニ付テハ成ルヘク適當ナル接觸豫防裝置ヲモ附スルコト
3 帶鋸及振子鋸ニ付テハ切斷ニ必要ナル部分ノ外ハ凡テ覆ヒ且成ルヘク材木ノ大サニ應シ調節シ得ル裝置ト爲スコト

五、「ローラー」及「カレンダー」

1 紙、布等ヲ通ス「ローラー」及「カレンダー」ノ嚙合部ニシテ手ノ捲込マルル虞アル箇所ニハ已ムヲ得サル場合ノ外適當ナル「ガード」(「ドクター」ヲ含ム)ヲ附スルコト
2 練篠機ノ「カレンダーローラー」ハ「クリヤラープレート」ヲ以テ常時「カレンダーローラー」ノ表面ヲ被覆スルコト

3 「リング」精紡機及撚絲機ノ「ダブルチンローラー」ニハ「ローラーガード」ヲ嚙合側ニ取附クル「カスプリングピース」ニ固定棒ヲ水平ニ取附クルコト

六、「パンチ」、「プレス」、「シーヤ」、「カツター」

1、成ルヘク材料送給及取出シニ直接手ヲ用ヒサル裝置ヲ用フルコト
2、材料ヲ手ニテ送給又ハ取出スモノニ付テハ各種機械ニ付實際ノ事情ニヨリナルヘク左

ノ如キ適當ナル裝置ヲ附スルコト

イ 金型及双物間ニ手ヲ入ルコトヲ要セサルモノ

ロ 裁斷部分ノ被ハレタルモノ

ハ 其ノ他適當ナル安全裝置

七、鉋 機

1 双物取附軸ハ成ルヘク角軸ヲ廢シ丸軸ニ改ムルコト

2 成ルヘク自働送給式ヲ用フルコト

八、織機ノ杼

杼ノ脱出ヲ防ク爲「シヤトルガード」(織機ノ兩側ノ網ヲ含ム)ヲ附スルコト但シ「ラツク」ニ依ル杼ノ運轉裝置ヲ有スルモノ、經絲切斷停止裝置ヲ有スルモノ、絹織物、小幅木綿其ノ他ノ織機ニシテ脱出スルモ力弱キモノ又ハ事實上殆ント杼ノ脱出ノ實例ナキモノニ付テハ其ノ要ナキコト

九、研磨機ニハ堅牢ナル保護「ガード」ヲ附スルコト但シ金屬、木質、布皮等ヲ材料トシ危険ノ虞ナキモノ及小形ノモノヲ除ク

十、其ノ他「カム」摩擦聯動機「シリンドラー」等機械ノ危険ナル部分ニハ已ムヲ得サル場合ノ外適當ナル安全裝置ヲ設クルコト

十一、機械ノ柵圍被覆ニ付テハ第二條ノ四ヲ準用スルコト(右同)

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル機械ノ部分ハ廻轉力停止スルニ非サレハ開クコト能ハサル裝

衛生規則十一條

置ト爲スヘシ

- 一 綿絲紡績機械ニ於ケル荒打綿機ノ「ファン、ドア」、打綿機ノ「ビーターカバー」及「ダートドア」、梳綿機ノ「シリシダー」ノ「フロントプレート」(但シ真空掃除器ヲ使用スルモノヲ除ク)、練篠機若ハ粗紡機ノ「ヘッドストック」ノ「ギヤリンジカパー」
- 二 絹絲紡績機械ニ於ケル切綿機ノ「シリシダーカバー」
- 三 其ノ他前二號ニ準スヘキモノ

第十二條 動力ニ依リ運轉スル機械ニハ各機械毎ニ速ニ運轉ヲ停止シ得ル裝置ヲ設クヘシ但シ連續セル一團ノ機械ニシテ共通ノ動力遮斷裝置ヲ有スルモノ又ハ危険ノ虞ナキ機械ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

(施行標準)

- 一、製絲工場ノ摺輪ノ車軸ニ付テハ各窓毎ニ動力遮斷裝置ヲ設クルヲ要セサルコト
- 二、運轉停止裝置トハ遊車「クラッチ」、「スキッチ」等ノ動力遮斷裝置ヲ謂フコト
- 三、連續セル一團ノ機械トハ工程ノ連續セル機械ニシテ各機力一室ニ在リテ近ク集約セルモノヲ謂フコト(右同)

第十三條 粘性物質ヲ煉捏スル「ローラー」ニシテ危害ヲ生スル虞アルモノニ付テハ事故發生ノ場合ニ於テ被害者カ直ニ運轉ヲ停止シ得ヘキ裝置ヲ設クヘシ

(施行標準)

第十四條 運轉中ノ原動機動力傳導裝置若ハ動力ニヨリ運轉スル機械ヲ取扱ヒ又ハ之ニ接近シテ

作業ニ従事スル爲頭髮又ハ被服カ之ニ捲込マレ危害ヲ受クル虞アル者ニハ危害ヲ防止スルニ適當ナル帽子又ハ作業服ヲ着用セシムヘシ

職工ハ作業中前項ノ帽子又ハ作業服ヲ着用スルコトヲ要ス

(施行標準) 紡績ノ粗紡機又ハ組紐工場若ハ電線工場ノ組紐機其ノ他頭髮カ捲込マルル虞アル機械ヲ取扱フ女子ニハ帽子ヲ着用セシムルコト(右同)

第十五條 物品ノ揚卸口、槽、車軸道、階段其ノ他從業者ノ墜落シ危害ヲ生スル虞アル箇所ニハ柵圍、扶欄、蓋等適當ナル危害豫防裝置ヲ設クヘシ但シ作業上已ムヲ得サルトキハ此ノ限ニ在ラス

(施行標準) 柵圍又ハ扶欄ノ高さ二尺七寸以上トスルコト但シ既設ノモノニ就テハ二尺七寸ニ及ハサルモ實際上墜落豫防ノ目的ヲ達スルモノト認メラルル場合ニハ差支ナク又車軸ノ手摺ハ手ヲ支持スヘキモノアルヲ以テ足ルコト(右同)

第十六條 作業用可搬梯子ニハ滑止其ノ他轉倒ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ爲スベシ但シ床面其ノ他ノ關係上危険ノ虞ナキ場合此ノ限ニ在ラス

(施行標準)

- 一、可搬梯子(立脚梯子ヲ除ク)ノ下端ニハ成ル可ク「コンクリート」又ハ鐵板ノ床ニ用フルモノハ「カーボランダム」ヲ、木又ハ土ノ床ニ用フルモノハ金屬尖端ヲ附スルコト但シ便宜布片等ヲ、下端ニ卷キ附ケテ其ノ目的ヲ達スルトキハ臨時ノ處置トシテハ差支ナキコト

二、車軸用梯子ニハ上部ニ鈎ヲ附スルコト

三、床ニ滑止ノアル場合ニハ但書ニ該當スルモノトスルコト(右同)

第十七條 機械間又ハ之ト他ノ設備トノ間ニ設クル通路ハ本令施行前既ニ設ケタルモノヲ除クノ外幅二尺六寸以上ナルコトヲ要ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テハ地方長官(東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ同シ)ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

(施行標準) 通路トハ當該場所ニ於テ作業ヲ爲ス者以外ノ者カ通行スル所ヲ謂フコト(右同)

問 工場危害豫防及衛生規則第十七條ニ所謂本令施行前既ニ設ケタルモノトハ本令施行前設ケタルモ當時ハ工場法ノ適用ナク其ノ後ニ至リテ法ノ適用ヲ受クルニ至リタルモノヲ含ム

ヤ

答 見解ノ通り(右同)

第十八條 危険ナル箇所ニハ適當ナル標示ヲ爲スヘシ

第十九條 職工ハ濫リニ危害豫防装置ヲ取外シ又其ノ效力ヲ失ハシムル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 地方長官ハ爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業場、貯藏倉庫、置場、貯槽類又ハ容器ニ付危害豫防ノ爲必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

(施行標準)

一、爆發性料品トハ左ノ如キモノヲ謂フコト

鹽素酸加里、鹽素酸曹達

過鹽素酸曹達、過鹽素酸アムモニヤ、過鹽素酸加里

硝酸加里、硝酸曹達、硝酸アムモニヤ
硝化棉

ニトロベンゾール、チニトロベンゾール、ピクリン酸其ノ他ノ芳香族ノ硝化物ニシテ爆發性ヲ有スルモノ
セルロイド

(注意) 一、「セルロイド」ハ性質上易燃性ニシテ爆發性ニ非サルモ實際上ハ爆發性料品ト同視スルコト

二、火薬類ニ就テハ銃砲火薬類取締法令ニ依ルコト

過酸化曹達、カリウム、ナトリウム、炭化石灰、生石灰、黃磷、赤磷、硫化磷

三、引火性料品トハ左ノ如キモノヲ謂フコト
エーテル、コロチオン、二硫化炭素、アセトン、メチルアルコール、酒精、醋酸エチル、醋酸アミル、醋酸ブチル、ガソリン(石油エーテル、石油ベンゼン)、燈油、ベンゾール、トルオール、キシロール、ソルベントナフサ、テレピン油

原油、石油製品、タール類、其ノ製品又ハ樹脂若ハ瀝質物ノ乾餾製品其ノ他ニシテ「アール、ベンズスキー」閉塞式發焰試験器ヲ用ヒ氣壓七六〇耗ニ於テ攝氏七十度未滿ノ溫度ニテ發焰スルモノ
四、分量輕少ナル場合ニハ本條ヲ適用セサルコト(右同)

衛生規則十七條—二十條

第二十一條 蒸發性發火性若ハ引火性料品ノ製造取扱若ハ貯藏ヲ爲ス場所、瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ爆發ノ虞アル場所其ノ他火災ノ危險著シキ場所ニ於テハ直接作業ニ必要ナル場合ノ外火氣ヲ使用シ又花火ヲ發セシムルコトヲ得ス但シ安全燈、電燈其ノ他危險ナキモノノ使用ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場所ニハ喫煙其ノ他不必要ナル火氣使用禁止ノ旨ヲ揭示スヘシ

(施行標準)

- 一、爆發性、發火性若ハ引火性料品ハ前條ト同様ナルコト但シ生石灰ヲ除ク
- 二、爆發ノ危險アル粉塵ヲ例示スレハ左ノ如キモノナルコト但シ分量少キ場合ヲ除ク
石炭、木炭、發炭類ノ粉末、アルミニウム粉、青銅粉等ノ金屬性粉末、粉糖、澱粉、穀粉、コルク粉、木粉其ノ他動植物性粉末
- 三、爆發ノ危險アル瓦斯又ハ蒸氣ノ主タルモノヲ例示スレハ左ノ如キモノナルコト
アセチレン瓦斯、水素瓦斯、引火性料品ノ蒸氣
- 四、其ノ他火災危險著シキ場所ノ顯著ナルモノヲ例示スレハ左ノ如キモノナルコト
多量ノ藥ヲ取扱フ工場
製紙工場ニ於ケル多量ノ紙屑、襤褸、藥等ノ散亂セル場所、油浸襤褸ノ置場、紙屑若ハ襤褸ノ置場若ハ倉庫、製綿工場
混打綿、梳綿、起毛、反毛等ノ作業場
- 五、第二項ノ揭示ハ「火氣嚴禁」、「喫煙禁止」等ノ揭示ヲ以テ足ルコト

第二十二條 油又ハ印刷用インキ類ニ依ラ浸染シタル襪、紙屑等ハ不燃性ノ容器ニ收メ其ノ他適當ナル處理ヲ爲スベシ

第二十三條 爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造若ハ取扱ヲ爲ス作業場又ハ常時五十人以上ノ職工ノ就業スル作業場ニハ火災等ノ場合ニ於テ容易ニ安全ナル場所ニ避難シ得ル爲適當ナル二以上ノ出口ヲ設クベシ
常時十人以上ノ職工ガ二階以上ニ於テ就業スル場合ニハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通ズル二以上ノ階段ヲ設クベシ
二階以上ニ於テ就業スル職工ガ常時五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト
 - 二 勾配ヲ平面ニ對シ四十度以内ト爲スコト
 - 三 高サ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高サ十二尺以内毎ニ踏場ヲ設クルコト
 - 四 幅内側三尺五寸以上ト爲スコト
 - 五 廻段ヲ設ケザルコト
 - 六 外側ニハ二尺七寸以上ノ扶欄ヲ設クルコト
 - 七 各段ヨリ高サ五尺七寸以内ニ障碍物ナキコト
- 作業ノ性質、建設物ノ構造設備等ノ關係上其ノ必要ナキ場合又ハ本令施行前既ニ設ケタル建設物ニ付已ムヲ得ザル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前三項ノ規定ニ依ラザルコト

トヲ得

(施行標準)

- 一、踏場ハ長サ三尺五寸以上トスルコト
- 二、扶欄ノ高サハ階段踏面ノ中央ニテ垂直ニ測ルコト(右同)

第二十四條 地方長官ハ火災等ノ場合ニ於ケル避難ノ爲作業場ノ通路、階段及出口ノ設置構造ニ付必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第二十五條 第二十三條ノ規定ニ依ル出口、前條ニ依リ設置ヲ命ゼラレタル出口及之ニ通ズル通路若ハ階段ニシテ常時使用セザルモノニハ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難シ得ル様有効ニ保持スベシ

第二十六條 瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル場所又ハ爆發ノ虞アル場所ニハ之ガ危害ヲ豫防スル爲其ノ排出密閉其ノ他適當ナル設備ヲ爲スベシ

(施行標準)

- 一、左ノ如キ有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル場所(其ノ分量ノ少クシテ衛生上害ナキ場合ヲ除ク)ハ本條ヲ適用スルコト
- 水銀又ハ其ノ化合物(朱ノ如キ無害ナルモノヲ除ク)、鉛又ハ其ノ化合物
- 鉛化亜鉛(亜鉛又ハ其ノ合金ヲ熔融スル場合ノ煙氣)、黃磷又ハ磷化水素、
- 砒素化合物、チアン化合物、クロム化合物、マンガン化合物、クロール、臭素
- 弗化水素、鹽酸蒸氣、硫酸蒸氣、亞硫酸瓦斯、硫化水素、硝氣(酸化窒素類)

アンモニア、一酸化炭素、二硫化炭素、フオルムアルデヒド、アクロレイン、エーテル蒸氣、醋酸エチル、鹽酸アルミ、四鹽化エタン、テレピン油

タール蒸氣、ベンゾール、アニリン其ノ他芳香族及其ノ誘導體

石油瓦斯及蒸氣、多量ノ炭酸瓦斯、多量ノ硅砂塵又ハ之ニ類スルモノ

二、瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ爆發ノ虞アル場所トハ第二十一條ノ二及三ニ掲クルモノヲ發散シ爆發ノ危險アル場所ヲ請フコト

三、羊毛、綿、麻、セメント等ノ粉塵ノ發散甚キ場所ニハ除塵裝置ヲ爲スコト

四、瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ハ先ツ發生ヲ防止スルカ又ハ發生ノ局所ヲ密閉スルニ努メ其ノ不可能ナルトキハ成ルヘク發生ノ局所ニ於テ吸引排出スル裝置ヲ設クルコト

五、右方法ニ依リ充分ニ排出シ難キ場合ニハ作業室全體ヲ大キクシテ天井ヲ高クシ換氣ヲ計ル等適當ナル方法ヲ講スルコト(右同)

第二十七條

左ニ掲クル場所ニハ必要アル者以外ノ者ノ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨揭示スヘシ

一 爆發性、發火性又ハ引火性料品ノ製造、取扱又ハ貯藏ヲ爲ス場所

二 毒劇藥、毒劇物又ハ其ノ他ノ有害料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス場所

三 瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル場所

四 多量ノ高熱物體ヲ取扱フ場所

前項ニ依リ禁止セラレタル場所ニハ職工ハ濫リニ立入ルコトヲ得ス

衛生規則二十四條—二十七條

地方長官ハ第一項ノ場所ニ於ケル作業ニ關シ他種ノ作業ノ禁止其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

(施行標準)

- 一、第一項第一號ハ第二十號ニ付掲ケタル料品ト同様ナルコト
- 二、第一項第二條ノ毒劇藥、毒劇物ハ明治四十五年內務省令第六號ニ依ルコト
- 三、毒劇藥、毒劇物以外ノ有害料品ノ主ナルモノヲ掲クレハ左ノ如キモノナルコト
水銀、鉛又ハ鉛合金ノ粉末、鉛灰、炭酸鉛、過酸化滿俺、過滿俺酸加、ベンゾール、トルオール、キシロール、タール類、石油類、硫化水素、アセトン、染料及中間物(無害ナルモノヲ除ク)
- 四、第一項第四號ハ熔融若ハ灼熱セル金屬、煮沸セル若ハ高温ナル液體又ハ燒鑛等ノ取扱ハルル場所ヲ謂フコト
酒造工場及手吹製鑛工場ノ種取り作業ヲ爲ス場所ノ如キハ之ヲ含マサルコト
- 五、第一項該營業務ハ成ルヘク他ノ作業ト隔離シ又ハ障壁ヲ以テ遮斷スヘキコト
- 六、分量輕少ノ場合ニハ本條ノ適用ナキコト(右同)

第二十八條 研磨機ニ依ル金屬研磨、炭酸含有清涼飲料水ノ鑛詰其ノ他物體ノ飛來ノ虞アル作業高熱物體又ハ毒劇藥、毒劇物ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業、有害光線ニ曝露スル作業、多量ノ粉塵又ハ有害ノ瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散スル場所ニ於ケル作業其ノ他危害ノ虞アリ又ハ衛生上有害ナル作業ニ於テハ之ニ從事スル職工ニ使用セシムル爲適當ナル保護具ヲ備フヘシ

職工ハ作業中前項ノ保護具ヲ使用スルコトヲ要ス

(施行標準)

- 一、物體ノ飛來ニ依ル危險ニ對シテハ物體ノ飛來自體ヲ防クヘキ裝置ヲ設クルコトヲ第一トシ右豫防裝置ヲ設ケ難キ場合又ハ右豫防裝置ヲ設クルモ尙危害ノ虞アル場合ニ保護具ヲ使用セシムルコト、豫防裝置ニ依リ完全ニ物體飛來ノ危險ヲ防キ得ル場合ニハ保護具ヲ要セサルコト
- 二、有害光線トハ紫外線、レントゲン線、白熱光線及眩光等ヲ謂フコト
- 三、多量ノ粉塵トハ植物性(綿絲、襪縷等)タルト動物性(毛、骨粉等)タルト鑛物性(土石金屬等)タルトヲ問ハス中毒危險ナキモ多量ナル爲衛生上有害ナルモノヲ謂フコト
- 四、有害ノ瓦斯、蒸氣又ハ粉塵トハ第二十六號ノ一ニ列擧シタルモノト同様ナルコト
- 五、有害光線ニ對スル保護具トシテハ光線ノ種類ニ應シ其ノ除害ニ適當ナル眼鏡ヲ、瓦斯、蒸氣粉塵ニ對シテハ吸呼用保護具ヲ使用スヘキコト
- 六、有害ノ程度重キトキハ吸呼用保護具ニ中和劑又ハ吸收劑ヲ用フルカ、送氣式ノモノヲ用フルコト、有害ノ程度輕キトキハ手拭ニテモ差支ナキコト
- 七、皮膚ヲ甚シク汚染シ又ハ腐蝕傷害スル虞アル場合ニハ手袋等適當ナル保護具ヲ使用セシムルコト尤モ適當ナル豫防劑ニ依リ危險豫防ノ目的ヲ達スルトキハ保護具ノ要ナキコト
- 八、保護具ハ當該作業ニ從事スルコトアルヘキ職工ノ員數ト同數以上備フルヲ要スルコト

衛生規則二十八條

九、保護具ハ常に有效且清潔ニ維持スヘキコト(右同)

第二十九條 衛生上有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル工場ニ於テハ當該職工ノ爲適當ナル食事ノ場所ヲ設クベシ但シ當該職工ガ工場内ニ於テ食事ヲ爲サザル場合ニハ此ノ限ニ在ラズ毒劇藥、毒劇物其ノ他有害料品ノ取扱ヲ爲ス工場、多量ノ粉塵ヲ發散スル工場其ノ他ノ工場ニシテ作業ノ爲身體ヲ汚染スル工場ニ於テハ適當ナル洗面装置ヲ設ケ必要品ヲ備フベシ前二項ノ工場又ハ高熱物體ヲ取扱フ工場ニ於テ地方長官必要ト認ムルトキハ飲料水ノ供給又ハ食事ノ場所、更衣所、含嗽装置若ハ浴場ノ設置ヲ命ズルコトヲ得

(施行標準)

- 一、第一項ハ第二十六條ノ一ト同様ナルコト
- 二、毒劇藥、毒劇物及有害料品ハ第二十七條ト同様ナルコト
- 三、洗滌ニ石鹼ヲ必要トスル場合ニハ職工各自ニ石鹼ヲ支給シアル場合ノ外石鹼ヲ備フヘキコト
- 四、手ノ汚染カ「ブラッシ」ヲ用フルニ非サレハ清潔ニ洗滌スルコト能ハサル場合ニ「ブラッシ」ヲ備付クルコト
- 五、多量ノ高熱物體ヲ取扱フ工場ニ於テハ清潔ナル飲料水ヲ供給スルコト
- 六、第二十六號前段ニ該當スル工場ニシテ必要アル場合ニハ含嗽装置ノ設備ヲ爲スコト
- 七、第二項ノ工場ニ付テハ附近ニ浴場アリテ職工カ充分ニ之ヲ利用スト認メラルル場合ヲ除キ浴場ヲ設置スルコト

八、浴場ノ湯カ汚濁甚シキトキハ二槽式トシ先ツ一方ニ於テ粉塵ヲ洗ヒ落シタル後更ニ他方ニテ洗ヒ淨ムル装置ト爲スコト

九、毒劇藥、毒劇物其ノ他有害料品ノ取扱ヲ爲ス工場ニハ作業服ト通常服トヲ取替フルタメ更衣室ヲ設クルコト

第三十條 織機ノ杼、杼通ノ爲緒ヲ吸出ス必要アルモノニ在リテハ緒引出具ヲ備フヘシ職工ハ杼通ノ爲緒ヲ吸出スヘカラス

(施行標準)

- 一、緒ヲ口ニテ吸取ル舊來ノ杼ニ在リテハ適當ナル「ブラッシ」、「フック」等ノ緒引出具ヲ使用セシメ口ニテ吸取ルコトヲ禁止スルコト
- 二、成ルヘク「ハンドスレツヂング、シアツトル」、「オートマツチ、ボビン、チュンヂング、シアツドル」等緒ヲ口ニテ吸取ルコト能ハサルモノヲ使用スルコト

第三十一條 地方長官ハ衛生又ハ危險防止上必要ト認ムルトキハ工場及附屬建設物ノ採光、換氣ノ爲窓面ノ増加又ハ照明裝置其ノ他適當ナル處置ヲ命ズルコトヲ得

(施行標準)

- 一、作業場ノ窓面ノ有效採光面積ノ床面積ニ對スル比ハ成ルヘク五分ノ一以上トシ特別ノ事情ナキ限り最低八分ノ一トスルコト
- 二、開放シ得ヘキ窓面積ノ床面積ニ對スル比ハ特別ノ事情ナキ限り十六分ノ一以上トスルコト

三、細目ノ判別ヲ必要トスル精密作業ニ付テハ人工照明ハ五呎燭(五十ルククス)以上トスルコト

四、照明不完全ノ爲災害事故又ハ視力障害ヲ起シタル事例アルトキ又ハ其ノ虞アルトキハ人工照明ノ燭光増加又ハ改善ヲ計ルコト(右同)

第三十二條 工場ニハ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ備フヘシ但シ作業ノ性質上傷害ノ虞ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

救急用具及材料ノ備附場所及使用方法ハ之ヲ従業者ニ周知セシムヘシ

(施行標準)

一、救急用具及材料ハ最少限度左ノ如キ品ヲ備フルコト

繃帶材料(滅菌ガーゼ、巻繃帶)ピンセット、局方沃土丁機(約三%)

二、高熱物體ヲ使用スル工場其ノ他火傷ノ危険アル工場ニハ右ノ外「オリーブ」油又ハ胡麻油(煮沸等ノ方法ニ依リ滅菌シタルモノ)ヲ備フルコト

三、重傷者ヲ惹起スル虞アル工場ニ於テハ右ノ外止血帶、副木、興奮劑及擔架ヲ備フルコト

四、救急用具及材料ハ之ヲ箱ニ入レテ清潔ニ保ツコト

五、救急箱ニハ説明書ヲ附シ赤十字等目ニツキ易キ標示ヲ附シ置クコト

第三十三條

食堂、炊事場及食器ハ常に清潔ニ保ツベシ
食堂及炊事場ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レルモノヲ使用スルコトヲ得ズ

第三十四條 更衣所及浴場ハ之ヲ男女用ニ區別スベシ

第三十四條ノ二 工業主安全管理者ヲ選任シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツベシ
常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ安全管理者ヲ選任スベシ但シ作業ノ狀況ニ依リ危害又ハ衛生上有害ノ虞少キ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ選任セザルコトヲ得
安全管理者ハ工業主ノ指揮ヲ承ケ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル危害豫防及衛生ニ關スル一切ノ事項ヲ管理ス

安全管理者ハ安全日誌ヲ作成シ危害豫防及衛生ニ關シ爲シタル處置ヲ記載シ置クベシ

●製絲業、組物編物業其ノ他危害及衛生上有害ノ虞少キ輕易作業ヲ營ムモノニシテ常時二百人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ニ付テハ安全管理者ヲ選任セサルコトヲ許可スルコトヲ得ルコト
但シ製絲業及組編物業以外ノ事業ヲ營ム工場ニ付テハ安全管理者ヲ選任セサルコトノ許可ヲ爲サントスルトキハ其ノ理由ヲ具シ當省ニ協議スルコト(昭和十三年五月五日 社會局労働部長通牒)

(施行標準)

一、安全管理者選任ノ届出書ニハ履歷書ヲ添附スルコト

二、安全管理者二人以上ヲ選任シタルトキハ其ノ權限ヲ定メ地方長官ニ届出スルコト

三、安全管理者ハ工場長、技師長若ハ安全管理ニ付之ト同等ノ資格アル者ノ中ヨリ選任スルコト

四、常時百人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ニ在リテハ工業主自ラ安全管理者ト爲ルコトヲ妨ケサルコト

五、安全日誌ニハ左記事項ニ付之ヲ記載スルコト

- 1 危害豫防ニ關シ爲シタル事項
- 2 保健衛生ニ關シ爲シタル事項
- 3 災害事故ニ關スル事項
 - イ 災害發生ノ原因、狀況及之ニ對シ執リタル處置
 - ロ 類似災害ノ再發防止ニ付爲シタル處置
- 4 工場醫又ハ安全委員ヨリ申告アリタル重要事項
- 5 當該官吏ヨリ命セラレタル事項
- 6 其ノ他參考トナルヘキ事項(右同)

第三十四條ノ三 工業主工場醫ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

常時百人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ工場醫ヲ選任スベシ

工場醫ハ醫師タルコトヲ要ス

工場醫ハ工業主及安全管理者ノ指揮ヲ承ケ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル衛生ニ關スル事項ヲ掌ル

工場醫ハ毎月少クトモ一回工場及其ノ附屬建設物ヲ巡視シ設備又ハ作業方法ニシテ衛生上有害ノ虞アル場合ハ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處置ヲ爲スベシ

工場醫ノ選任アル工場ノ事業主工場法施行規則第八條又ハ同規則第八條ノ二ノ規定ニ依リ職工ノ健康診斷ヲ行フ場合ニ於テハ工場醫ヲシテ之ヲ爲サシムベシ

●本月十日厚生省令第八號ヲ以テ工場危害豫防及衛生規則中改正省令公布相成候處右ハ健康診斷ニ關スル規定ヲ工場法施行規則中ニ移スト共ニ工場醫ノ選任アル工場ニ於ケル勞務者ノ健康診斷ハ其ノ工場醫ヲシテ行ハシムル旨ノ規定ヲ新タニ設ケタルモノニ有之候條其ノ趣旨ニ鑑ミ之ガ運用ニ付遺憾ナキヲ期セラレ度(昭和十七年二月二十四日 厚生省勞働局長通牒)

(施行標準)

一 常時千人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ在リテハ工場醫ヲ成ルベク專屬トセシムルコト其ノ他ノ場合ニ在リテハ囑託醫タルコトヲ妨ゲザルコト

二 工場醫選任ノ届出書ニハ專屬又ハ囑託ノ區別ヲ明ラカニシ且履歷書ヲ添附セシムルコト(昭和十七年二月二十四日 厚生省勞働局長通牒)

第三十四條ノ四 工業主安全管理者又ハ工場醫ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ安全管理者又ハ工場醫死亡シタルトキ亦同シ

地方長官必要アリト認ムルトキハ工業主ニ對シ安全管理者又ハ工場醫ノ増員又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

(施行標準)

地方長官工業主ニ對シ安全管理者又ハ工場醫ノ増員又ハ改任ヲ命スル必要アリト認ムルトキハ其ノ理由ヲ具シ當省ニ協議スルコト(昭和十三年五月五日 社會局勞働部長通牒)

第三十四條ノ五 工業主ハ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル危害豫防及衛生ニ關スル事項ニ從事セシムル爲安全委員ヲ選任スヘシ但シ常時十人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ之ヲ選任セ

衛生規則三十四條

サルコトヲ得

安全委員ハ工業主、安全管理者及工場醫ノ指揮ヲ承ケ毎日工場及其ノ附屬建設物ヲ巡視シ設備又ハ作業方法ニシテ危害ヲ生シ又ハ衛生上有害ノ虞アル場合ハ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處置ヲ爲スヘシ

(施行標準)

- 一、安全委員ハ職員及職工ヨリ之ヲ選任スルコト
- 二、安全委員ハ概ネ職工數三十人乃至五十人ニ付一人ノ程度ヲ標準トシテ之ヲ選任スルコト
- 三、工場醫ハ安全委員ノ氏名、作業場別、職務別ヲ記載シタル名簿ヲ作成シ置クコト

(右同)

第三十四條ノ六 工業主安全委員會ヲ設ケタルトキハ安全委員會規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ届ツヘシ安全委員會規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

(施行標準)

安全委員會規則ニハ概ネ左記事項ヲ規定スルコト

- 1 委員會ノ名稱
- 2 委員會ノ目的
- 3 委員會ノ事業
- 4 委員ノ選任方法

5 役員ノ選任方法

6 委員及役員ノ任期

7 其ノ他必要ナル事項(右同)

第三十五條 地方長官ハ前各條ニ定ムルモノノ外工場及附屬建設物並ニ設備カ危害ヲ生シ又ハ衛生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命スルコトヲ得

第三十六條 第十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十一條ノ場所ニ於テ喫煙ヲ爲シ其ノ他溢リニ火氣ヲ使用シタル者ハ科料ニ處ス

附 則

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十七年三月一日ヨリ之ヲ施行ス(昭和十七年二月十日厚生省令第八號)

○工場附屬寄宿舍規則(昭和二年四月六日内務省令第二十六號 改正昭和十七年二月十日厚生省令第九號)

第一條 本令ハ工場法第一條ノ工場ニ附屬スル寄宿舍ニ之ヲ適用ス

問 深夜業廢止ニ伴ヒ通勤工中午後十時乃至十一時終業ノ者ニシテ翌朝夜明迄工場寄宿舍ノ一部或ハ其ノ他宿泊セシメ得ヘキ場所ニ臨時又ハ常時宿泊セシムルモノアルトキハ其ノ宿泊ニハ現行工場附屬寄宿舍規則ヲ適用スルモノナリヤ

答 常態トシテ宿泊セシムル場合ハ寄宿舍ト看做スヘキモノトス(昭和四年八月十五日社厚局勞務部部長通牒)

寄宿舍規則一條

第二條

左ノ各號ノ一ニ該當スル作業場アルトキハ保安上又ハ衛生上ノ害ヲ避クル爲メ寄宿舎ノ寢室ハ之ト別建物ト爲スヘシ但シ除害、豫防又ハ避難ノ設備アル場合ニ於テ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ノ許可ヲ受ケタルトキハ別建物ト爲スコトヲ要セス

一 爆發性、發火性若ハ引火性料品又ハ多量ノ易燃性料品ヲ取扱フ作業場

二 窯爐ヲ使用スル作業場

三 瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル作業場

地方長官前項ノ寢室ニシテ保安上危險ノ虞アリ又ハ衛生上有害ナリト認ムルトキハ除害、豫防又ハ避難ノ設備ヲ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三條

寢室ハ建物ノ三階以上ニ之ヲ設クルコトヲ得ス但シ建物ノ外壁、床、屋根、階段及柱ヲ市街地建築物法施行規則第一條ニ規定スル耐火構造ト爲シタル場合又ハ本令施行ノ際現存スル寄宿舎ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條ノ二

常時十五人以上ノ職工カ一階以上ノ寢室ニ居住スル建物ニ在リテハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通スル二階以上ノ階段ヲ設クヘシ但シ二階以上ノ寢室ニ居住スル職工カ常時五十人ニ滿チサル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタル避難斜面其ノ他適當ナル避難設備アルトキハ此ノ限ニ在ラス

二階以上ノ寢室ニ居住スル職工カ五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ建物ノ外壁ニ附セラレタル屋外階段ニ付テハ第五號及第八號ノ規定ヲ適用ス
一 踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト

二 勾配ヲ平面ニ對シ四十度以内ト爲スコト

三 高さ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高さ十二尺以内毎ニ踏場ヲ設クルコト

四 踏場ハ長さ三尺五寸以上ト爲スコト

五 蹴込板ハ裏板ヲ附スルコト

六 廻段ヲ設ケサルコト

七 外側ニハ二尺七寸以上ノ扶欄ヲ設クルコト

八 幅内法三尺五寸以上ト爲スコト

九 各段ヨリ高さ五尺七寸以内ニ障碍物ナキコト

前二項ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタル建物ニシテ地方長官已ムコトヲ得スト認メ許可シタルモノニ付之ヲ適用セス

問 工場附屬寄宿舎規則第三條ノ二ノ二階以上ノ寢室ニ對スル階段ノ規定ハ單純ニ二階以上

ヲ昇降スル階段ナルヤ或ハ非常設備トシテ特設スベキモノナルヤ又ハ兩者兼用スルモ支障ナキモノナルヤ

答 寄宿舎規則第三條ノ二ノ階段ハ常用ナルト非常用ナルトヲ問ハサルモ避難ノ目的上寧ロ

當時使用セラル、コトハ勸奨スベキナリ（昭和四年十一月九日 社會局勞動部長通牒）

問 一棟ノ寄宿舎ヲ中央部ニ於テ防火壁ヲ以テ仕切り平常ハ廊下ニ依リテ聯絡スルコトハ普通間仕切ト何等異ルコトナキモ火災ノ場合防火戸ヲ閉鎖シ双方ノ聯絡ヲ遮斷スヘキ装置ナルトキハ工場附屬寄宿舎規則第三條ノ二第二項ノ適用ニ關シ防火壁ヲ境界トシテ二個ノ建

物ノ如ク看做シ各々居住職工數ヲ計算シテ階段設備ノ規定ヲ適用スベキモノナリヤ

答 二階以上ノ寄宿舎ノ收容人員ニ應ジ階段ノ數又ハ構造ニ付規定シタルハ變災ニ際シ在住者カ容易ニ屋外ニ避難スルコトヲ得シメントスル趣旨ニシテ防火戸ヲ設ケタルモノニ在リテモ變災ノ際一旦閉鎖スルトモ婦女子ノ力ヲ以テ容易ニ開キ得ルモノナルトキハ必スシモ防火壁ヲ境界トシテ別個ノ建物ト看做ス必要ナシ(昭和五年十一月十七日 社會局勞動部長通牒)

第三條ノ三 階段竝之ト連絡スル通路及出口ニシテ常時使用セサルモノニ付テハ之ニ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難ノ用ニ供シ得ル様有效ニ保持スヘシ

第四條 寄宿舎ノ廊下ヨリ屋外ニ通スル出入口ノ戸ハ外開戸又ハ引戸ト爲スヘシ 寄宿舎ハ何時ニテモ容易ニ外部ニ避難シ得ル様ニ爲シ置クコトヲ要ス

第五條 寢室、食堂、病室、其ノ他職工(徒弟ヲ含ム以下之ニ同シ)ノ居住ノ用ニ供スル室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スヘシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舎ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條 寢室及病室ニハ屋根小屋組ヲ露出セサル様天井ヲ設クヘシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舎ニシテ防鼠ノ爲屋根小屋組ヲ露出シタルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條 寢室及病室ノ外窓ニハ少クトモ雨戸及障子ヲ設ケ又ハ硝子戸及窓掛ヲ設クヘシ寢室及病室ト廊下トノ間ニ戸、障子、壁ノ類ノ設ケナキ場合ニ於テ其ノ廊下ノ外窓ニ付亦同シ 寢室及病室ト廊下トノ間ニ紙障子ノミヲ設クル場合ニ於テハ其ノ廊下ノ外窓ニ雨戸又ハ硝子戸ヲ設クヘシ

第八條 食堂及炊事場ノ床ハ土間(石敷又ハ三和土叩ノ類ヲ含マス)ト爲スコトヲ得ス

第九條 寢室ハ收容人員一人ニ付室面積(押入及床ノ間ヲ除ク)〇・七五坪以下ルコトヲ得ス但シ臨時必要アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

問 近時男子ヲ收容スル寄宿舎ニ於テ汽車又ハ汽船ニ於ケルカ如キ寢臺(バス)ヲ設クルモノ有之候處工場附屬寄宿舎規則第九條ニ依ル收容人員ノ算定ニ關シ左記疑義有之

記

- 一、疊床面及寢臺設置場所ヲ含ムトコロノ一室面積ヲ以テ收容人員算定ノ基礎タルベキ室面積トシテ一人當リ〇・七五坪以上ヲ要スルモノトスルトキハ寢臺設置ノ經濟的利點ハ全ク失ハルル
- 二、寢臺ノ簡數ノミニヨリテ收容人員ヲ算定スルトキハ寢臺ノ段數ノ増加スルコトニ依リテ收容人員ヲ増加セシムルコトヲ得ルノミナラズ更ニ疊床面減少ノ傾向ヲ促ス虞レアルヲ以テ室ノ氣積ニ對シ制限ヲ設クル必要アリ此ノ場合ニ於テ一人當リノ氣積ハ何程ヲ適當トスルヤ
- 三、從來ノ寄宿舎ハ居室兼寢室トシテ使用セラレタルモノナリシガ新設計ニ依ルトキハ疊床面ガ狭長トナリ窓面積ガ減少シ押入ヲ狭少ナラシムルノミナラズ室内裝飾ヲ不可能ナラシムル結果ヲ來シ居室トシテノ使用價值ヲ著シク低減ス

答 標記何出ノ件工場附屬寄宿舎規則第九條ニ示ス室面積ハ上段ノ寢臺面積ヲ含マザル平面

寄宿舎規則三條―九條

積一人當り最低〇七五坪ヲ必要トスルモノニシテ本申請ハ別添圖表(省略)ニ見ル如ク所要坪數ヲ有セズ依ツテ許可セザルヲ至當ト被恩料候(昭和十五年九月十四日 厚生省労働局長通牒)

第十條 寢室ノ收容定員ハ一室ニ付十六人ヲ超ユルコトヲ得ス但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ構造上仕切ヲ爲スコトヲ不適當トスルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

寢室ニハ之ニ收容スル者ノ氏名及定員ヲ入口ニ掲ケヘシ

問 工場附屬寄宿舍規則第十條但書ニ所謂「本令施行ノ際」ノ意義ハ一般的ニ本令ノ施行セラレタル本年七月一日ヲ指スヤ或ハ又附則第二項ヲ以テ右第十條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セサル旨規定シアルニヨリ本條ノ適用セラルルニ至リタル際ヲ指スモノナリヤ
答 前段見解ノ通り(昭和三年一月十四日 社會局労働部長通牒)

第十一條 交替就業ノ爲メ就眠時間ヲ異ニスル二組以上ノ寄宿舍職工ヲ同一ノ寢室ニ收容スルコトヲ得ス但シ十六歳未満ノ者及女子ヲ收容セサルモノニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 寄宿舍ニハ職工毎ニ専用セシムル爲必要ナル寢具ヲ備附ケヘシ
寢具ハ少クドモ其ノ襟部ヲ白布ニテ被包シ且敷布ヲ備フヘシ

寢具ハ常ニ清潔ニ保チ時時之ヲ日光ニ曝シ且其ノ白布及敷布ハ時時之ヲ洗濯スヘシ
第十三條 食堂ニハ職工ヲシテ坐食ヲ爲サシムル場合ヲ除クノ外必要ナル腰掛又ハ椅子ヲ備付クヘシ

第十四條 寄宿舍ニ於テ使用スル食器ハ常ニ清潔ニ保チ消毒スヘシ

第十五條 寄宿舍ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レル者ヲ使用スルコトヲ得ス

第十六條 寄宿舍ニ使用スル者ニ對シテハ醫師ヲシテ毎年少クトモ二回健康診斷ヲ爲サシムベシ
●本月十日厚生省令第九號ヲ以テ工場附屬寄宿舍規則中改正省令公布相成候處右改正ノ要點ハ工場法施行規則ノ一部改正ニ伴ヒ工場ノ附屬寄宿舍ニ收容スル職工及寄宿舍ニ使用スル者ニ對スル健康診斷ニ關スル條項ヲ改正整理セルニ有之候條之ガ圓滑ナル運用ニ關シ萬遺憾ナキヲ期セラレ度(昭和十七年二月二十四日 厚生省労働局長通牒)

第十七條 寄宿舍ニハ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ
唾壺内ノ唾痰ハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ投棄スルコトヲ得ス

寄宿舍ニ於テハ唾壺以外ニ唾痰ヲ略出スルコトヲ得ス
第十八條 寄宿舍ニ於テハ共用手拭ヲ備フルコトヲ得ス
「トラホーム」ノ患者ノ使用スル洗面器ハ之ヲ健康者ニ使用セシムルコトヲ得ス

手洗水ハ流出装置トスヘシ
第十九條 工場法施行規則第八條第一項第二號乃至第五號(流行性腦脊髄膜炎ヲ除ク)ノ患者ノ使用シタル寢具其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルニ非サレハ他ノ者ヲシテ使用セシムルコトヲ得ス第二號ノ患者ノ使用シタル寢室ニ付亦同シ

前項及第十七條第二項ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ傳染病豫防法施行規則第五章ノ規定ニ依ルヘシ但シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ鹽酸加石炭酸水(防疫用石炭酸五分鹽酸一分水九十四分)

ヲ使用スヘシ

第二十條 寄宿舎ニハ之ニ收容スル職工ノ數ニ應シ適當且十分ナル便所及洗面裝置ヲ設クヘシ
地方長官前項ノ便所又ハ洗面裝置不適當又ハ不十分ト認メタルトキハ期間ヲ定メ變更又ハ増設
ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 寄宿舎ノ管理ニ關シ規定ヲ設ケタルトキハ遲滞ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十二條 本令並寄宿舎ノ管理ニ關スル規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十三條 本令第二條、第三條、第四條第一項、第五條、第六條、第八條、第十條、第十一條

及第十六條ノ規定ハ常時十人未滿ノ職工ヲ收容スル寄宿舎ニ之ヲ適用セス

附 則

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十七年三月一日ヨリ施行ス

工業労働者最低年齢法

(大正十二年三月二十九日法律第三四號)

工業労働者最低年齢法施行規則

(大正十五年六月七日内務省令第一四號)

(改正昭和十六年四月厚生省令第一三號)

法第一條 本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ掲グル事業ヲ謂フ

- 一 鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業
- 二 物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壊若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業(造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム)
- 三 土木、建築其ノ他工作物ノ建設、改造、保存、修理、變更、解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工

事

四 道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク

五 船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

●工業労働者最低年齢法第一條第一號中「土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業」ノ内ニハ土石ヲ採取スル事業ヲ包含ス(大正十五年七月二十八日 社會局労働部長通牒)

法第二條 十四歳未滿ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ズ但シ十二歳以上ノ者ニシテ命令ヲ以テ定メタル國民學校ノ課程又ハ之ト同等以上ト認ムル課程ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ

最低年齢法一條—二條

ラズ

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ行政官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セズ

○則第一條 工業労働者最低年齢法第二條第一項但書ノ課程ヲ左ノ通定ム

一 國民學校初等科ノ課程

二 國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ノ課程ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル

學校ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程

○則第二條 工業労働者最低年齢法第二條第二項ニ規定スル行政官廳ハ地方長官（東京府ニ在リ

テハ警視總監以下之ニ同ジ）、鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

問 最低年齢法第二條ノ「家庭」ノ意義如何

答 「家庭」トハ法律上ノ家ヨリハヤ、廣ク内縁ノ妻ノ如ク法律上親戚ニ非サル者其ノ他近親

者等ニ依リテ構成セラル、生活團體ヲ云フ（大正十五年七月二十八日 社會局労働部長通牒）

問 朝鮮人ノ年齢計算ニ關シテハ受胎ノ月ヨリ起算シ十二箇月目ニ至リテ一歳トスル慣習アリ

本邦人ノ年齢計算法ト其計算ノ基礎ヲ異ニス若シ朝鮮人ノ申立ガ假リニ二十三歳ナルトキ

ハ之ヲ本邦人ノ所謂十二歳ノ者ト同一ニ取扱差支ナキヤ

答 年齢ノ計算ハ出生ノ日ヨリ起算ス（大正六年二月十三日 農商務省商工局長通牒）

問 朝鮮人労働者ニ對スル工業労働者最低年齢法第二條適用ニ關シ左記ノ點疑義有之

一 朝鮮教育令ニ基ク普通學校ヲ卒業シタル朝鮮人ハ工業労働者最低年齢法第二條第一項

但書ニ所謂尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ該當スルヤ

答 修業年限六年ノ普通學校ヲ卒業シタルモノハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルモノニ包含

スルモノト解シ可然（昭和十五年六月三日 社會局労働部長通牒）

法第三條 十六歳未満ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及

學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備附クルコトヲ要ス但シ工場法施行令、鑛業法又ハ砂

鑛法ニ依ル名簿ノ備附アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

○則第三條 工業労働者最低年齢法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歴ニ付テハ國民學校初等科ノ課

程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ依リ國民學校ト同等以上ト認メラレタル課程ヲ有スル學校

ニ於ケル國民學校初等科ニ相當スル課程ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル學校名及修

了年月ヲ國民學校初等科ノ課程又ハ國民學校令第十一條ノ規定ニ於ケル國民學校初等科ニ相當

スル課程ヲ修了セザル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

法第四條 當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票

ヲ携帯スベシ

○則第四條 工業労働者最低年齢法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

法第五條 工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業シ又ハ就業セムトスル者ノ戶籍

ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

法第六條 第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

法第七條 第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ゲ著

最低年齢法三條一七條

ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

法第八條 使用者營業ニ關シ成年人者ト同一ノ能力ヲ有セザル未成年者若ハ禁治産者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

法第九條 使用者ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル所爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

法第十條 本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

法第十一條 本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準ズベキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十五年六月五日勅令第五百五十二號)
(ヲ以テ大正十五年七月一日ヨリ施行)

工場就業時間制限令(昭和十四年三月三十一日勅令第一二七號)

工場就業時間制限令施行規則(昭和十四年四月十九日厚生省令第七號)

令第一條 國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク工場ニ於ケル就業時間ノ制限ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

令第二條 本令ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニシテ厚生大臣ノ指定スル事業ヲ營ムモノニ之ヲ適用ス

問 工場就業時間制限令第二條ノ指定事業中金屬精鍊業ノ意義如何

答 金屬精鍊業トハ鑛石又ハ之ニ準ズル粗材「既製ノ粗製材料ヲ含ム」ヨリ金屬(合金ヲ含ム)ヲ製造スル事業例ヘバ鉄鐵、合金鐵、鋼、特殊鋼、銅、亜鉛、鉛、「アルミニウム」白金、錫、金屬「タンゲステン」、「アンチモニー」、眞鍮、青銅、「ヂュラルミン」等ノ金屬ヲ製造スルモノヲ謂フ(昭和十四年八月十六日厚生省労働局長通牒)

問 令第二條ニ基ク指定事業(告示)中製造業トアルハ修繕業ハ包含セザルモノト解スベキヤ

答 修繕業ハ製造業中ニ包含セラル(右同)

問 自動車修繕工場ニ於テボデー(自動車車體)ノ製造スルハ告示ノ第二號ニ包含セスト解スベキヤ

答 船舶車輛製造業ニ包含セラル(右同)

時間制限令一條―二條

問 炭酸マグネシウムヲ製造スル工場ニ於テ其ノ製品製造ノ中途ニ於テ加工ヲナシ金屬マグネシウムヲ製造スル工場アリ金屬マグネシウムヲ製造スル部分ノミニ付キ工場就業時間制限令並賃金統制令ノ適用ヲナスベキヤ

答 販賣ノ目的ヲ以テ金屬マグネシウムヲ製造スル工場ニ於テハ其ノ製造ニ關係アル工程作業ニ付適用アリ(昭和十四年十一月十三日厚生省労働局長通牒)

令第三條 工業主ハ十六歳以上ノ男子職工ヲシテ一日ニ付十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ズ

●青年學校令ニ依リ就業セシメラルベキ者ノ就業時間ニ關スル法律(昭和十年四月二十六日法律第八十七號)

工場法、鑛業法ニ基キテ發スル命令又ハ商店法中就業時間數ノ制限ニ關スル規定ヲ青年學校令ニ依リ就業セシメラルベキ者ニシテ十六歳未満ノモノニ付適用スル場合ニ於テハ其ノ者ガ履修スベキ義務課程タル一日ノ教授及訓練時間ハ之ヲ就業時間ト看做ス

問 出張作業ヲ爲ス場合ニ於ケル往復時間ハ就業時間中ニ包含セラルルヤ
答 出張作業ノ際ニ於ケル往復時間ハ原則トシ就業時間中ニ包含セシメズ(昭和十四年八月十六日厚生省労働局長通牒)

問 令第三條ノ所謂一日ノ計算ハ職工ヲ二組以上ニ分チ交替作業ヲ爲ス場合ニ於テ前番ノ始業時ヨリ後番ノ終業時迄ノ繼續二十四時間トスベキヤ又ハ各組毎ニ其ノ始業時ヨリ繼續シ二十四時間トスベキヤ
答 一日ハ原則トシテ曆日ヲ以テスルモ就業ガ二日間ニ亘リテ繼續セラレル場合ニ於テハ各始業時ヨリ起算セル二十四時間ヲ以テセラレタシ(昭和十四年八月十六日厚生省労働局長通牒)

令第四條 工業主ハ十六歳以上ノ男子職工ニ對シ毎月少クトモ二回ノ休日ヲ設ケ一日ノ就業時間ガ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩ヲ就業時間中ニ於テ設クベシ

令第五條 十六歳以上ノ男子職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル爲又ハ業務ノ性質上特に必要アル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ工業主ハ豫メ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ届出テ第三條ノ就業時間ヲ延長スルコトヲ得

○則第一條 工業主左ニ掲グル場合ニ於テハ工場就業時間制限令(以下令ト稱ス)第五條ノ規定ニ依リ必要ナル限度ニ於テ就業時間ヲ延長ヲ爲スコトヲ得

- 一 十六歳以上ノ男子職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テ交替班ノ就業時ヲ轉換スル爲又ハ交替時ニ作業ノ引繼ヲ爲サシムル爲特に必要アルトキ
- 二 爐、汽罐、原動機又ハ起重機等ノ取扱ニ從事セシムル爲特に必要アルトキ
- 三 機械ノ保全、設備ノ修理、工具ノ出納、掃除等補助的業務ニ専ラ從事セシムル爲必要アルトキ
- 四 其ノ他前各號ニ準ズル場合

○則第二條 令第五條ノ届出書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 工場ノ名稱、所在地及事業ノ種類
- 二 工業主ノ氏名及住所(法人タル工業主ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名)

- 三 常時使用スル男女別職工數
 - 四 所定ノ就業時間、休憩時間、休日及十六歳以上ノ男子職工ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ就業時間轉換ニ關スル事項
 - 五 延長セントスル就業時間
 - 六 就業時間ノ延長ヲ必要トスル作業ノ種類及其ノ作業ニ従事スル十六歳以上ノ男子職工數
 - 七 就業時間ノ延長ヲ必要トスル事由
- 工場就業時間制限令施行ニ關スル件依命通牒(昭和十四年四月十九日 厚生次官通牒)
- 今般國家總動員法第六條ニ基キ工場就業時間制限令及同令施行規則公布相成候處右ハ今次事變ニ際シ軍需生産力ノ増加並ニ之ガ持久ヲ圖ル爲工場ニ於ケル十六歳以上ノ男子職工ノ就業時間ヲ適當ニ制限シ以テ勞働力ノ維持培養ヲ圖ラントスルモノニ有之本令施行ニ關シテハ曩ニ工場監督主任官會議ノ際指示シタル所ナルガ左記事項特ニ留意ノ上之ガ實施ニ遺憾ナキヲ期セラレ度依命通牒候也

記

- 一、工場就業時間制限令第五條ニ該當スル場合ハ同令施行規則第一條ニ規定スル場合ニ限ラルベキモ就業時間延長ノ限度ハ別紙標準ニ準據セシムルコト
- 尙同令施行規則第一條第四號ノ運用ニ關シテハ當省ト協議スルコト
- 二、工場就業時間制限令施行規則第四條第一項第二號ニ該當シ就業セシメタル場合ニシテ工場就業時間制限令第六條第三項ノ届出ヲ爲ス際ニハ管理官廳ノ證明書ヲ添附セシムルコト

(右ニ關シテハ軍部ト協議濟)

- 三、本令ノ施行ニ伴ヒ就業時間ヲ短縮スル場合職工ノ賃金其ノ他ノ收入ガ自ラ減少スルコトヲ豫想セラルルモ抑々本令ノ施行ハ勞働力ノ長期持久ヲ圖リ生産力ノ擴充強化ニ資スルモノナルヲ以テ從來ノ生産ヲ減少セシメサル爲ニモ出來得ル限り賃金ヲ減額セシメサル様工業主ヲ指導シ職工ニ對シテモ銳意生産能率ノ向上ニ努メシムル様適當ナル指導ヲ行フコト
- (別紙) 工場就業時間制限令第五條ニ依ル就業時間延長ノ限度ニ關スル標準
- 工場就業時間制限令第五條ニ依リ就業時間ノ延長ヲ爲シ得ル限度ハ概ネ左ノ標準ニ準據セシムルコト
- 一、十二時間ニ交替制ニ依ル連續作業ヲ行フ場合ニ於テ交替時ニ作業ノ引繼ヲ必要トスル者ニ付テハ三十分間以内
- 二、交替制ニ依ル連續作業ヲ行フ場合ニ於テ交替班ノ轉換ヲ爲ストキハ六時間以内、但本令施行ノ際現ニ六時間ヲ超ユル就業時間ノ延長ニ依リ交替班ノ轉換ヲ爲スモノニ付テハ當分ノ内十二時間以内
- 三、炬又ハ汽罐ノ取扱ニ従事スル者ニ付テハ二時間以内
- 四、原動機、起重機等ノ業務ニ従事スル者ニ付テハ一時間以内
- 五、機械ノ保全、設備ノ修理、工具ノ出納、掃除等補助的業務ニ専ラ従事スル者ニ付テハ一時間以内
- 進水ノ準備ノ爲ニスル足場ノ取外シ作業、進水臺ノ取付作業、及船舶又ハ其ノ附屬機關ノ試

運轉作業ニシテ同一労働者ヲ繼續的ニ就業セシムルニアラザレバ試験ノ目的ヲ達シ得ザルガ如キ種類ノ作業ニ付テハ施行規則第一條第四號ノ場合ニ該當スルモノトシテ取扱フモ差支ナキコト(昭和十四年五月十六日厚生省労働局長通牒)

●交替制ヲ採用スル工場ニ對スル工場就業時間制限令第五條ノ運用ニ關シテハ昭和十四年四月十九日發勞第二〇號ヲ以テ通牒致置候處現下ノ非常時局ニ鑑ミ當分ノ間左記ニ依リ御取扱相成度

記

- 一、交替制ニ依ル連續作業ヲ行フ場合ニ於テ六時間ヲ超ユル就業時間ノ延長ニ依リ交替班ノ轉換ヲ爲スヲ便宜トスルモノニ付テハ昭和十四年四月十九日發勞第二〇號通牒ノ趣旨ニ不拘當分ノ間十二時間以内ノ時間延長ヲ認ムルコト
- 二、作業ノ性質上交替制ニ依ル連續作業ヲ行フ場合交替時ニ於テ職工ノ缺勤等アリタル場合餘人ヲ以テ替ヘ難キ職種ニ従事スル者ヲ引續キ就業セシムルニアラザレバ作業ノ繼續不可能ナルトキハ就業時間制限令施行規則第一條第一號ニ該當スルモノトシテ取扱ヒ且十二時間以内ノ時間延長ヲ認ムルコト
- 三、交替制ニ依ル連續作業ヲ行フ場合交通機關ノ關係、降雪期等已ムヲ得ザル事情ニ依リ十二時間ヲ超エ就業セシムルトキハ就業時間制限令施行規則第一條第一號ニ該當スルモノトシテ取扱ヒ且二時間以内ノ時間延長ヲ認ムルコト(昭和十七年一月六日厚生省労働局長通牒)
- 工場就業時間制限令ノ適用ヲ受クル船舶製造業ノ取扱ニ關シテハ昭和十四年五月十六日發勞

第一〇九號ヲ以テ通牒致候處更ニ左記ニ依リ御取扱相成様致度

記

- 一、船舶ノ入出渠、擊留及離岸ノ作業ニシテ潮ノ満干ノ關係等ヲ利用スル爲一定時刻内ニ作業ヲ行フ必要アル場合ニ於テハ施行規則第一條第四號ノ場合ニ該當スルモノトシテ取扱フモ差支ナキコト
 - 二、遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル船舶ノ修理作業ニシテ急ヲ要スルモノニ付テハ時局下船舶ノ重要性ニ鑑ミ本令第六條ノ已ムヲ得ザル事由ノ存スルモノトシテ取扱フモ差支ナキコト(昭和十四年十月二十四日厚生省労働局長通牒)
- 問 軍用自動車ノ試運轉ハ軍監督官立會ノ許ニ急坂路、街角等ヲ有スル一定ノ長距離行程ヲ條件トシテ豫メ時間ヲ定メテ行フモノナルモ十數輛ノ車輛ニ或ル區間交互ニ監督官乗車シ其ノ性能ヲ検査シ坂路ニ於テハ他ノ一輛ヲ故障車ト看做シテ之ニ相當量ノ積荷ヲナシ他ノ車輛ニテ之ヲ索引スル等ノ試験ヲ爲スノ外道路ノ良否災害事故等ノ發生アリ豫定時間内ニ終了セザルヲ常トスル狀況ナリ此ノ場合令第六條第一項ニ依リ豫メ許可ヲ與フルモ其ノ時間内ニ終了セザルトキハ再ビ許可ヲ受ケシムルハ不可能ノ狀況ニシテ取扱方實狀ニ添ハザル嫌アリ如斯場合ハ豫メ届出ヲナサシメ業務ノ性質トシテ工場就業時間制限令施行規則第一條第四號ニ基キ處理相成可然モノト思料セラルモ取扱如何
- 答 試運轉作業ニシテ連續十二時間以上ノ試験ヲ必要トシ且同一労働者ヲ繼續的ニ就業セシムルニアラザレバ其ノ目的ヲ達シ得ザル作業ニ付テハ施行規則第一條第四號ノ場合ニ該當

スルモノトシテ取扱フモ差支ナキコト(昭和十四年十二月十三日厚生省労働局長通牒)

令第六條 已ムヲ得ザル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ地方長官ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限り第三條ノ規定ニ拘ラズ就業時間ヲ延長シ又ハ第四條ノ休日ヲ廢スルコトヲ得但シ命令ヲ以テ定ムル場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ
臨時必要アル場合ニ於テハ工業主ハ其ノ都度豫メ地方長官ニ届出デ一月ニ付七日ヲ超エザル期間就業時間ヲ二時間以内延長スルコトヲ得

第一項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツベシ
○則第三條 令第六條第一項ノ許可ノ申請書ニハ前條第一號乃至第四號ノ事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 就業時間ヲ延長シ又ハ休日ヲ廢セントスル期間
- 二 延長セントスル就業時間又ハ廢セントスル休日
- 三 就業時間ノ延長ヲ必要トシ又ハ休日ノ廢止ヲ必要トスル作業ノ種類及其ノ作業ニ従事スル十六歳以上ノ男子職工數
- 四 就業時間ノ延長ヲ必要トシ又ハ休日ノ廢止ヲ必要トスル事由

○則第四條 令第六條第一項但書ノ規定ニ依リ許可ヲ受クルコトヲ要セザル場合左ノ如シ
一 災害事故等ニ因リ緊急ノ處置ヲ必要トスルトキ
二 工場事業場管理令ニ依リ陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ管理スル工場ニ於テ同令ニ基キ作業時間ノ延長ヲ命ゼラレタルトキ

○則第五條 令第六條第二項ノ届出書ニハ第二條各號ノ事項ノ外就業時間ヲ延長セントスル期間ヲ記載スベシ

○則第六條 令第六條第三項ノ届出書ニハ第二條第一號乃至第四號ノ事項ノ外左ニ掲グル事項ヲ記載スベシ

- 一 就業時間ヲ延長シ又ハ休日ヲ廢シタル期間
- 二 延長ヲ爲シタル就業時間又ハ廢シタル休日
- 三 就業時間ノ延長ヲ爲シ又ハ休日ヲ廢シタル作業ノ種類及其ノ作業ニ従事シタル十六歳以上ノ男子職工數
- 四 就業時間ノ延長ヲ必要トシ又ハ休日ノ廢止ヲ必要トシタル事由

●新造船竣功期日前一ヶ月以内必要ナル限度ノ期間ニ於ケル作業竝ニ急ヲ要スル船舶ノ修理作業ニ付テハ軍需ノ充足ニ關係アル場合ニ限り本令第六條ノ已ムヲ得ザル事由ノ存スルモノトシテ取扱フモ差支ナキコト(昭和十四年五月十六日厚生省労働局長通牒)

問 令第六條第一項ノ已ムヲ得ザル事由ニ因リ臨時必要アル場合トハ如何ナルモノヲ謂フヤ
又コノ場合ニ於ケル期間及就業時間ノ延長ヲ如何ナル程度迄認ムベキヤ
答 「已ムヲ得ザル事由」トハ工場法第八條第二項ニ所謂「避クベカラザル事由」ニ準ジテ解釋スベキモノニシテ例ヘバ豫見シ得ザル不可抗力ニ因ル場合、一定期間内ニ急速ニ軍需品ノ製造ヲ必要トスル場合ヲ謂フ尙此ノ場合ニ於テ延長セラルベキ時間數竝ニ其ノ期間ニ付テハ各場合ニ付各般ノ事情斟酌ノ上決定スベキモノトス

問 令第六條第二項ニ依ル一月ニ付七日ヲ超エサル期間トハ豫メ届出タル就業時間延長ヲ必要トセル日ヨリ連續セル三十日ヲ以テ一月ト解スベキヤ

答 一月トハ曆月ヲ以テ數フルコトトセラレタシ(昭和十四年八月十六日厚生省労働局長通牒)

問 工場就業時間制限令施行規則第四條第一項第一號ノ災害事故等ニ因リ緊急ノ處置ヲ必要トスル場合トハ從來狹義ニ解釋致候處災害事故等ニヨリ破壊セラレタル箇所ヲ急速ニ修理スルニアラザレバ作業ニ影響スル處大ナル場合ヲモ包含スルモノト解シ差支ナキヤ

答 見解ノ通(昭和十六年九月十二日厚生省労働局長通牒)

問 他府縣ニ出張作業ヲ爲ス場合、就業時間延長ニ關スル願、届等ノ書類ハ如何ニ取扱フベキヤ

答 當該職工ノ所屬スル工場ノ工業主ヨリ出張作業ヲ爲ス地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ提出セシムル様致シ度シ(昭和十四年八月十六日厚生省労働局長通牒)

令第七條 厚生大臣又ハ地方長官必要アリト認ムルトキハ就業時間ノ制限ニ關シ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ工業主ヨリ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ工場、事務所其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢檢査セシムル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帯セシムベシ

○則第七條 令第七條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記様式ニ依ル

令第八條 本令ハ國ノ事業ニ之ヲ適用セズ

令第九條 本令中工場法ノ適用ヲ受クル工場トアルハ朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ在リテハ常時十人以上ノ職工ヲ使用スル工場、樺太ニ在リテハ工場取締規則ノ適用ヲ受クル工場トシ十六歳以上ノ男子職工トアルハ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ在リテハ職工トス
本令中厚生大臣トアルハ朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トシ地方長官トアルハ朝鮮ニ在リテハ道知事、臺灣ニ在リテハ州知事又ハ廳長、樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官トス

附 則

本令ハ昭和十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ朝鮮、臺灣、樺太及南洋群島ニ在リテハ昭和十四年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

重要事業場勞務管理令

(昭和十七年二月二十四日
勅令第一〇六號)

一三六

重要事業場勞務管理令施行規則

(昭和十七年二月二十八日
厚生省令第一〇〇號)

令第一條 重要事業場ニ於ケル勞務管理ノ指導監督ノ爲ニスル國家總動員法第六條ノ規定ニ基ク從業者ノ使用、解雇、從業、退職及賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ關スル命令並ニ同法第七條ノ規定ニ基ク勞働爭議ノ豫防及解決ニ關スル命令ハ本令ノ定ムル所ニ依ル

令第二條 本令ニ於テ重要事業場ト稱スルハ總動員物資ノ生産若ハ修理又ハ國家總動員上必要ナル運輸ニ關スル業務ヲ營ム工場、鑛山其ノ他ノ場所ニシテ厚生大臣ノ指定スルモノヲ謂フ

〇則第一條 重要事業場勞務管理令(以下令ト稱ス)第二條ノ規定ニ依リ指定シタル重要事業場(以下重要事業場ト稱ス)ノ事業主(以下事業主ト稱ス)ハ其ノ重要事業場ニ付令第二條ノ指定アリタル日ヨリ二十日以内ニ令第四條第一項及第十條第一項ノ認可ノ申請ヲ爲スベシ

令第三條 前條ノ指定ハ重要事業場ノ事業主(以下事業主ト稱ス)ニ對スル通知ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得
事業主ハ重要事業場ノ指定アリタルトキハ其ノ旨ヲ重要事業場ノ從業者(以下從業者ト稱ス)ニ周知セシムベシ

令第四條 事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ從業規則ヲ作成シ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ從業規則ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

〇則第二條 從業規則ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ但シ鐵道營業法第二十條及第二十三條第二項ノ規定ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ受クベキ事項並ニ地方鐵道係員職制及軌道係員規程ニ定ムル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 從業者ノ身分、職務及指揮監督ニ關スル事項
- 二 始業及終業ノ時刻、休憩時間、休日並ニ交替制ニ於ケル就業轉換ニ關スル事項
- 三 早出、殘業及宿直ニ關スル事項
- 四 入場、退場、遅刻及早退ニ關スル事項
- 五 缺勤及休暇ニ關スル事項
- 六 保健衛生ニ關スル事項
- 七 危害豫防ニ關スル事項
- 八 褒賞及懲戒ニ關スル事項
- 九 解雇及退職ニ關スル事項

前項各號ニ掲グル事項ノ外從業ニ關シ必要ナル事項ハ之ヲ從業規則ニ記載スルコトヲ得

(運用方針)

一、別添從業規則記載例ヲ基準トスルモ現行規程ノ急激ナル變更ニヨリ過渡的ニ著シク支障ヲ來ス虞アルモノニツキテハ一應現行規程通り之ヲ認可シ爾後所管勞務監督官ニ於テ實情ニ即應シテ逐次改善スル様指導スルコト但シ左記事項ハ必ず之ヲ規定セシムルコト

管理令四條

一三七

- (一) 工員ニハ勤務中及出退場ノ際所定ノ徽章ヲ佩用セシムルコト
 - (二) 所定就業時間ハ之ヲ十時間以内トスルコト
 - (三) 交替制ニ依リ深夜就業セシムル場合ニ於テハ二週間ヲ超エザル期間内ニ轉換セシムルコト
 - (四) 二十歳未満ノ者ニシテ就業後三ヶ月ヲ經過セザル未経験工ハ一日十時間ヲ超エテ又ハ深夜ニ於テ就業セシメザルコト但シ所管勞務監理官ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 - (五) 不可抗力ニ因リ遅刻シタル工員ノ入門ヲ拒ムベカラザルコト
 - (六) 病氣、家族ノ危篤又ハ死亡其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ工員缺勤セントスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ徴シ(其ノ暇ナキトキハ事後報告ニ依リ)之ヲ許可スルコト早退ニ付亦同ジ
 - (七) 工員ニ對シ一年ニ付三日以上五日以内ノ有給慰勞休暇ヲ與フコト
- 二、從業規則中早出残業ニ關スル規定ハ左記ニ準據セシムルコト
- (一) 業務ノ繁忙等ヲ理由トシテ早出残業ヲ命ズル場合ハ一日ノ就業時間ハ原則トシテ十二時間以内トスルコト
 - (二) 前號ノ範圍ヲ超エテ早出残業ヲ命ズル場合ハ事業主ノ左右シ得ザル已ムヲ得ザル事由アル場合ニ限ルモノトシ必ズ所管勞務監理官ノ承認ヲ受ケシムルコトトスルコト但シ工場事業場管理令ニ基ク陸海軍大臣ノ命令アリタル場合ニ於テ豫メ所管勞務監理

官ニ報告セルトキハ此ノ限ニ在ラザルコト

三、從業規則ノ變更ハ原則トシテ事業主ノ自發的創意ニ依リ之ヲ爲ス様指導スルコトトシ變更命令ノ發動ハ成可ク之ヲ爲サザルコト(昭和十七年三月十日厚生省勞働局長通牒)

〔勞務管理官事務取扱方針〕

- 一、就業時間、休憩時間及休日
 - 1、就業時間制限ノ不適用ニヨリ事業主ニ於テ無制限ニ時間ノ延長ヲナシ得ルガ如キ觀念ヲ抱カシメザル様特ニ留意スルコト
 - 2、長期持久性アル能率ノ向上ヲ期スル爲計畫的ニ作業ヲ行ハシメ可及的十二時間ヲ超エテ就業セシムルコトナキ様指導スルコト
 - 3 十二時間以内ナル場合ハ所定就業時間ヲ超エ居ルモ特ニ承認ヲ受クルヲ要セザルコト豫メ申出デシメ其ノ實情ヲ查察シ大體左記各號ヲ標準トシテ眞ニ已ムヲ得ザル場合ニ限り承認ヲ與フルコト
 - イ、作業ノ性質上必要アル場合
 - ロ、交替制ニ於テ交替時ニ於テ必要アル場合
 - ハ、一定期間内ニ於ケル急速ナル軍需ノ充足ヲ必要トスル場合
 - ニ、災害事故等ニヨリ緊急ノ措置ヲ必要トスル場合
 - ホ、其ノ他前各號ニ準ズル事由アリタル場合

前項名號ニ該當スル場合ニ於テ勞務監理官ノ承認ヲ得ル暇ナキトキハ事後ニ於テ承認ヲ受ケシムルコト

4、就業時間ノ延長ヲナシタルトキハ其後ノ生産、缺勤、災害等ノ狀況ニ特ニ留意シ必要ナル措置ヲ講ゼシムルコト

5、軍管理工場ノ就業時間ニ付テハ常ニ軍監理官ト密接ナル連絡ヲ保持スルコト

二、未經験工員ノ十時間以上ノ就業又ハ深夜就業ノ承認

1、業務繁忙其ノ他已ムヲ得ザル事由アル場合ハ入職後二ヶ月ヲ經過セル者ニ限り承認シ得ルコト

2、作業ノ性質上晝夜連續作業ヲ必要トスルモノニシテ作業ノ輕易ナルモノニ付テハ入職後一ヶ月ヲ經過セル者ニ限り承認シ得ルコト

3、右承認ヲ爲シタルトキハ其ノ後ノ缺勤、災害、疾病等ノ狀況ニ留意シ必要ナル措置ヲ講ゼシムルコト(右同)

令第五條 事業主ハ從業規則ニ依リ從業者ヲ從業セシムベシ

前項ノ規定ハ事業主ニ對スル第八條又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ其ノ命令ニ牴觸スル場合又ハ從業者ヲ從業セシムルニ付厚生大臣ノ別段ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

○則第三條 令第五條第二項ノ許可ノ申請ニハ從業規則ニ依リ得ザル理由並ニ從業ノ方法及期間ヲ具スベシ

(運用方針) 從業規則ニ對スル例外許可ハ臨時必要アル事項ニ限ルコト(右同)

令第六條 事業主ハ從業規則ヲ揭示其ノ他ノ方法ニ依リ從業者ニ周知セシムベシ但シ從業規則中從業者ノ一部ニ關係アル事項ハ適當ナル方法ニ依リ關係從業者ニ對シテノミ之ヲ知ラシムルヲ以テ足ル

事業主從業規則ヲ變更シタルトキハ前項ノ規定ニ準ジ直ニ之ヲ周知セシムベシ

令第七條 從業者ハ從業規則又ハ從業規則ニ基キ事業主ノ爲ス指示ニ從ヒ重要事業場ノ業務ニ從事スベシ

事業主ニ對スル第八條若ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ第五條第二項ノ規定ニ依リ受ケタル許可ニ基キ事業主ノ指示アリタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ從業者ハ其ノ指示ニ從ヒ重要事業場ノ業務ニ從事スベシ

前二項ノ規定ハ從業者ニ對スル第八條又ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ其ノ命令ニ牴觸スル場合ニハ之ヲ適用セズ

令第八條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主又ハ從業者ニ對シ從業時間ノ延長若ハ短縮、休日、遅刻、早退、缺勤若ハ休暇ノ制限又ハ從業者ノ從事スベキ業務其ノ他ノ從業者ノ使用若ハ從業ニ關スル事項ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

○則第四條 事業主ノ從業者ニ對シ爲ス指示ガ令第八條若ハ第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ令第五條第二項ノ規定ニ依リ受ケタル許可ニ基クモノナルトキハ事業主ハ其ノ旨ヲ從業者ニ明示スベシ

〔運用方針〕

一、本命令ハ事業主ニ對シ爲スヲ原則トシ特ニ必要アル場合ニ限り從業者ニモ併セ命令スルコトトシ單ニ從業者ニ對シテノミ命令スルコトハ之ヲ爲サザルコト

二、本命令ハ概ネ左記ニ依リ爲スコト

(一) 從業時間ノ延長又ハ休日、遅刻、早退、缺勤若ハ休暇ノ制限命令ハ特ニ生産増加ガ緊急ニ必要ナル爲異常ニ勞働強化ヲ必要トスル場合ニ於テ之ヲ爲スコト

(二) 從業時間ノ短縮命令ハ右ノ勞働強化ノ要ナキニ至リタル場合從業者ノ疲勞恢復ヲ圖ル爲必要アル場合ニ於テ之ヲ爲スコト

(三) 従事スベキ業務ニ關スル命令ハ業務繼續命令ト業務配置命令トシ前者ハ空襲等ノ場合ニ於テ特ニ作業繼續ヲ要スルモノニ付テ之ヲ爲スコトトシ、後者ハ重要ナル業務ニ所要員數ノ充當又ハ適正配置ヲ要スル場合ニ於テ之ヲ爲スコト(右同)

令第九條

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主又ハ從業者ニ對シ從業者ノ解雇又ハ退職ヲ命ズルコトヲ得

〔運用方針〕

一、解雇退職命令ハ左ノ者ニ付之ヲ爲スコト

(一) 事業場ノ規律又ハ風紀ヲ著シク紊ス者

(二) 他人ヲ煽動シ勞働紛議等ヲ招キ又ハ其ノ惧アル者

(三) 其ノ他著シク他人ノ能率ヲ阻害スル者

二、本命令ハ原則トシテ事業主ニ對シ爲スコトトシ事業主ニ於テ解雇スルヲ不適當トスル

事情アル場合ニ於テノミ從業者ニ對シ命令ヲ爲スコト(右同)

令第十條

事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金規則、給料規則及昇給内規ヲ作成シ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ賃金規則、給料規則又ハ昇給内規ノ變更ヲ命ズルコトヲ得

○則第五條

賃金規則ニハ勞務者ノ賃金ニ關シ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 賃金締切ノ期間並ニ支拂ノ期日及方法ニ關スル事項

二 賃金計算ノ基礎ト爲ルベキ所定就業時間ニ關スル事項

三 定額給ノ定アルトキハ其ノ初給額及最低額ニ關スル事項

四 請負賃金制ニ於ケル保證給ノ初給額及最低額ニ關スル事項

五 單價請負、時間請負又ハ歩合請負ノ制アルトキハ其ノ請負單價、請負時間又ハ請負歩合及賃金算定方法ニ關スル事項

六 手當ヲ支給スルトキハ其ノ名稱及額又ハ率並ニ給與條件ニ關スル事項

七 實物給與ヲ爲ストキハ其ノ種類、數量、評價額及給與條件ニ關スル事項

八 遅刻又ハ早退ノ場合ニ於ケル賃金ノ計算方法ニ關スル事項

九 賃金ノ一部ヲ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定ノ要旨ニ關スル事項

十 其ノ他賃金ニ關シ必要ナル事項

○則第六條

給料規則ニハ職員ノ給料ニ關シ左ノ事項ヲ記載スベシ

管理令九條—十條

- 一 給料締切ノ期間並ニ支拂ノ期日及方法ニ關スル事項
 - 二 基本給料ノ初給額ニ關スル事項
 - 三 手當ヲ支給セントスルトキハ其ノ手當ノ名稱及額又ハ率並ニ給與條件ニ關スル事項
 - 四 實物給與ヲ爲ストキハ其ノ種類、數量、評價額及給與條件ニ關スル事項
 - 五 給料ノ一部ヲ貯蓄又ハ公債購入ノ爲控除スルトキハ其ノ定ノ要旨ニ關スル事項
 - 六 其ノ他給料ニ關シ必要ナル事項
- 則第七條 事業主ノ從業者ニ對スル賃金又ハ給料ノ支拂ガ令第十三條若ハ令第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ令第十一條第二項ノ規定ニ依リ受ケタル許可ニ基キ賃金規則又ハ給料規則ニ依ラザルモノナルトキハ事業主ハ其ノ旨從業者ニ明示スベシ
- 則第八條 昇給内規ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 昇給期ニ關スル事項
 - 二 昇給條件ニ關スル事項
 - 三 一回ノ昇給ノ最高額、最低額及標準額ニ關スル事項
 - 四 其ノ他昇給ニ關シ必要ナル事項
- (運用方針)
- (一) 別添記載例ニ則リ左記各項ニ基キ重要事業場ノ實情ヲ加味シテ作成セシムルコト
 - 一、工員ノ初給賃金ハ原則トシテ賃金統制令第十條ノ規定ニ依ル最高初給賃金ヲ超エザルコト

- 二、請負賃金制ニ於テハ必ず保證給ヲ設クルコト
- 三、算式ニ依リ算出シタル請負利益金又ハ獎勵加給金ニ對シ資材作業ノ種類等ニ依リ又ハ個人ノ勤務狀況等ニ依リ自由ニ之ヲ加減スル定アル場合ニ就テハ其ノ加減スル限度ハ成ルベク請負利益又ハ獎勵加給金ノ二割以内ト爲スコト算式中ノ一定ノ係數ノ決定ニ付同様ノ加減ヲ爲ス定ナル場合ニ於テ其ノ加減ノ限度ニ於テ又同ジキコト
- 四、休日出勤手當制ヲ設クルコト、但シ週休制ノ場合ニ於テハ一月ニ付二日ヲ超ユル週休日ニ付テハ此ノ限ニアラザルコト其ノ率ハ大體記載例ノ程度ニ依ル
- 五、勞務者ノ都合ニ依ラズシテ臨時ニ休業セシメタル場合ハ標準報酬日額ノ六割ヲ下ラザル手當ヲ支給スルコト
- 六、慰勞休暇、軍時參會ニ對シテハ日給額又ハ標準報酬日額ヲ手當トシテ支給スルコト
- 七、家族手當ハ必ず之ヲ支給シ其ノ額及支給條件ハ昭和十七年二月厚生省告示第七十五號ニ依リ缺勤等ニ依ル減額ハ爲サザルコト但シ一ヶ月間缺勤ノ場合ハ一ヶ月分ヲ限リ支給セザルコトヲ得
- 八、少クトモ扶養家族ヲ有スル應召者ニ對シテハ標準報酬日額ノ五割ヲ下ラザル手當ヲ支給スルコト
- 九、寄宿舎ニ收容スル工員ヨリ代價ヲ徴收スル場合雇入後一ヶ年間ハ食事、住居等ニ對スル一ヶ月ノ徴收金額ハ十五圓ヲ超エザルコト
- 十、遅刻又ハ早退ノ爲就業時間ニ端數ヲ生ジタル場合三十分ヲ單位トシテ端數ヲ切捨ツ

- ル程度ヲ超ユル減額ヲ爲サザルコト
- 十一、徴用ニ依リ新ニ使用セラルルニ至リタル工員ノ收入ガ従前ノ收入ニ比シ懸隔アルトキハ勞働條件、生活事情等ヲ考慮シ必要ニ應ジ相當額ヲ補給スルコト
- 十二、徴用工員ノ父母妻子ノ死亡(危篤ヲ確認シタル場合ヲ含ム)ノ際ニ於ケル工員ノ歸省ニ付テハ往復旅費ヲ支給シ徴用工員ノ危篤又ハ死亡ノ際ニ於ケル家族ノ出頭ニ付テハ家族二人ヲ限り往復旅費及必要ナル滞在期間中ノ滞在費ヲ支給スルコト
- 十三、徴用ニ依リ新ニ使用セラルルニ至リタル工員ニハ當初少クトモ一回ハ所定ノ作業服、作業帽ヲ又必要ニ應ジ作業手袋ヲ貸與又ハ給與スルコト
- 十四、工員徴用満期ニ依リ徴用解除トナリタル際ニハ三十圓又ハ其ノ者ノ標準報酬日額ノ二十日分ヲ下ラザル限度ニ於テ勞務監理官ノ裁定ヲ得タル慰勞金ヲ支給スルコト
- 十五、月收百圓程度迄ノ勞務者ニ付テハ昇給資格トシテノ經過期間ハ一ケ年ヲ超エザルコト
- 十六、缺勤ヲ昇給ノ缺格條件トスル場合ハ一ケ月ニ付三日以上ノ割合ノ場合ニ限ルコト
- 十七、昇給標準額ハ一ケ年間ニ平均シテ平均日給額ノ五%ヲ下ラザルコト
- 十八、一年ニ付平均二十圓又ハ標準報酬日額平均金額ノ十日分ヲ下ラザル定期賞與ヲ支給スルコト
- 十九、工員以外ノ従業者ニ付テハ當該事業場ノ實情ヲ基礎トシ工員トノ均衡ヲ失セザルヤウ留意セシムルコト

(二) 給與關係規則ノ變更ハ原則トシテ事業主ノ自發的創意ニ依リ之ヲ爲ス様指導スルコトトシ變更命令ノ發動ハ成可ク之ヲ爲サザルコト(右同)

令第十一條 事業主ハ賃金規則及給料規則ニ依リ賃金及給料ヲ支給ヒ昇給内規ニ依リ従業者ヲ昇給セシムベシ

前項ノ規定ハ第十三條ノ規定ニ依ル命令又ハ事業主ニ對スル第十六條第一項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキ其ノ命令ニ抵触スル場合又ハ賃金若ハ給料ヲ支拂ヒ若ハ昇給セシムルニ付厚生大臣ノ別段ノ許可ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ

○則第九條 令第十一條第二項ノ規定ニ依ル許可ノ申請ニハ賃金規則、給料規則又ハ昇給内規ニ依リ得ザル理由並ニ賃金、給料又ハ昇給ノ額又ハ率及給與條件ヲ具スベシ
(運用方針) 給與關係規則ノ例外許可ハ臨時必要アル事項ニ限ルコト(右同)

令第十二條 第六條ノ規定ハ賃金規則又ハ給料規則ニ之ヲ準用ス

令第十三條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ従業者ノ賃金、給料、手當、實物給與、賞與又ハ臨時ノ給與ニ關シ事業主ニ對シ命令ヲ爲スコトヲ得従業者ニ對スル物品ノ販賣又ハ其ノ委託ノ方法ニ依リ事實上賃金又ハ給料ノ額ガ増減セラルル處アル場合ニ於テ物品ノ販賣又ハ其ノ委託ニ關シ亦同シ

○則第十條 事業主従業者ニ對シ實物給與、賞與又ハ臨時給與ヲ支給セントスルトキハ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ従業者ニ對シ物品ノ販賣又ハ其ノ委託ヲ爲サントスルトキ亦同ジ
前項ノ規定ハ賃金規則又ハ給料規則ニ依ル支給ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一項ノ許可ノ申請書ハ様式第一號乃至第四號ニ依リ賞與又ハ臨時給與ノ支給ニ關スル申請ニハ個人給與額算出基準ヲ添附スベシ

○則第十一條 事業主ハ令第十條第一項ノ認可アリタルトキヨリ三十日以内ニ賃金臺帳及給料臺帳ヲ作成シ從業者ノ賃金又ハ給料ヲ記載スベシ但シ日日雇入ルル從業者ノ賃金又ハ給料ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

○則第十二條 賃金統制令施行規則第三十六條乃至第三十九條ノ規定ハ賃金臺帳及給料臺帳ニ付テ準用ス但シ同規則第三十六條第六項及第三十八條中地方長官トアルハ厚生大臣トス

(運用方針) 一般的ニハ賃金統制令及會社經理統制令ニ於ケル方針ニ依ルモ特ニ生産能率増進ヲ要スル場合ニハ相當ノ考慮ヲ拂フコト(右同)

令第十四條 事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ賃金臺帳及給料臺帳ヲ作成シ重要事業場ニ備置クベシ

令第十五條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ノ爲ス從業者ノ教養、訓練、體育其ノ他從業者ノ厚生施設ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

○則第十三條 事業主ハ毎年十一月末日迄ニ左ノ事項ニ付翌年中ニ於テ實施スベキ計畫ヲ定メ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

一 職員ノ教養及訓練ニ關スル事項

二 幹部勞務者ノ精神訓練及技能教育ニ關スル事項

三 青少年勞務者ノ教養及訓練ニ關スル事項

四 一般勞務者ノ教養及訓練ニ關スル事項

五 從業者ノ體育ニ關スル事項

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消シ又ハ事業主ニ對シ前項ノ規定ニ依リ認可アリタル計畫ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

當該重要事業場ニ付令第二條ノ指定アリタル年ニ於テハ第一項ノ認可ヲ受クベキ期間ハ其ノ指定ノ日ヨリ二月以内トス

○則第十四條 事業主ハ從業者ニシテ青年學校ニ履就スベキモノニ關シ其ノ履就ノ方法ヲ定メ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ認可アリタル履就方法ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

○則第十五條 事業主從業者ニ食事ヲ給セントスルトキハ其ノ施設ノ概要ニ付厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ認可ヲ取消シ又ハ事業主ニ對シ認可ヲ受ケタル施設ノ概要ニ付變更ヲ命ズルコトアルベシ

○則第十六條 事業主ハ令第二條ノ指定アリタル日ヨリ三十日以内ニ從業者ニ對スル應急診療方法ヲ定メ厚生大臣ノ認可ヲ受クベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

厚生大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル方法ノ變更ヲ命ズルコトアルベシ

○則第十七條 厚生大臣ハ常時二百人以上ノ女子従業者ヲ使用スル重要事業場ニ付必要アリト認

ムルトキハ事業主ニ對シ乳幼児保育ノ施設ヲ爲スコトヲ命ズルコトヲ得

(運用方針) 一、規則第十三條ノ規定ニ依ル訓練計畫ノ認可ニ當リテハ一應別添記載例ヲ基準

トスルモ出來得ル限り當該事業場ノ實情ヲ考慮シ重點主義ヲ加味シ事業主ノ創意ヲ活カ
ス様指導スルコト

二、規則第十四條ノ規定ニ依ル従業者ノ青年學校履修方法ニ付テハ其ノ往復所要時間ハ原
則トシテ一時間以内タル様指導スルコト

三、規則第十五條乃至第十七條ノ規定ニ依ル厚生施設計畫ハ一應別添記載例ヲ基準トスル
モ既存ノモノニ付テハ必要已ムヲ得ザル場合ノ外ハ改變ヲ加ヘシムルコトナク、新設又
ハ改變ヲ命ズル場合ト雖モ資材資金調整ノ關係ヲ考慮シツツ漸次完備ヲ圖ル様指導スル
コト、尙本記載例中診療施設ニ付テハ概ネ常時千人以上ノ従業者ヲ使用スル事業場ヲ標
準トスルモノ以下ノ事業場ニ在リテモ之ニ準ジ診療所ヲ設置スル様指導スルコト

令第十六條 厚生大臣ハ勞働爭議ノ豫防又ハ解決ニ關シ事業主、従業者其ノ他ノ關係人ニ對シ必
要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

厚生大臣ノ指定スル當該官吏ハ勞働爭議ノ豫防又ハ解決ニ關シ事業主、従業者其ノ他ノ關係人
ニ出頭ヲ命ジ、説明ヲ求メ又ハ意見ヲ徵スルコトヲ得

○則第十八條 令第十六條第一項ノ規定ニ依リ事業主ハ従業者ガ作業時間外ニ於テ従業條件其ノ
他ニ關シ勞務監理官其ノ他ノ關係官吏ニ面會ヲ求メ、説明ヲ爲シ又ハ意見ヲ述ブルコトヲ妨グ

ルコトヲ得ズ

○則第十九條 令第十六條第一項ノ規定ニ依リ重要事業場ノ従業者ハ事業主ガ従業條件其ノ他ニ
關シ勞務監理官其ノ他ノ關係官吏ニ面會ヲ求メ、説明ヲ爲シ又ハ意見ヲ述ブルコトヲ妨グルコ
トヲ得ズ

○則第二十條 令第十六條第二項ノ規定ニ依リ左ノ官吏ヲ指定ス

- 一 所管勞務監理官タル官吏
- 二 勞務監督官タル官吏
- 三 鑛山監督局ノ鑛務監督官タル官吏

令第十七條 事業主ハ主任勞務擔當者ヲ選任シ重要事業場ノ勞務管理ニ關スル事項ヲ擔任セシム
ベシ

厚生大臣同一人ガ二以上ノ重要事業場ヲ營ム場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ其ノ事業主ニ
對シ各重要事業場ノ主任勞務擔當者ノ外中央勞務擔當者ヲ選任シ其ノ總テノ重要事業場ノ勞務
管理ニ關スル事項ヲ擔任セシムベキコトヲ命ズルコトヲ得

○則第二十一條 事業主ハ主任勞務擔當者及中央勞務擔當者ニ従業者ニ關スル左ノ事項ヲ擔任セ
シムベシ

- 一 雇入、解雇其ノ他ノ人事ニ關スル事項
- 二 従業規則ノ制定、變更及運用ニ關スル事項
- 三 賃金、給料及昇給ニ關スル事項

管理令十六條—十七條

四 教養、訓練、體育其ノ他厚生ニ關スル事項
五 其ノ他勞務管理上必要ナル事項

令第十八條 事業主前條ノ規定ニ依リ主任勞務擔當者又ハ中央勞務擔當者ヲ選任シタルトキハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ其ノ者ノ履歷書ヲ具シ其ノ旨ヲ遲滯ナク厚生大臣ニ報告スベシ

(運用方針) 主任勞務擔當者及中央勞務擔當者ニハ人物、識見、閱歷並ニ地位ガ其ノ任務ニ付相當ナル者ヲ選任スル様指導スルコト(右同)

令第十九條 厚生大臣必要アリト認ムルトキハ事業主ニ對シ主任勞務擔當者、中央勞務擔當者其ノ他重要事業場ノ勞務管理ニ關スル業務ニ從事スル者ノ職務ノ執行ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

(運用方針)

- 一、事業主ニ對スル指示ハ左ノ場合ニ於テ之ヲ爲スコト
- (一) 勞務擔當者ノ職務ノ執行不當ナリト認メラレ事業主ヨリ相當ノ戒告ヲ爲スヲ必要トスル場合
- (二) 勞務擔當者ノ職務ノ執行ヲ圓滑ナラシムル爲ニ事業主ニ於テ相當ノ措置又ハ配慮ヲ爲スヲ要スル場合
- 二、官ニ於テ講習會ノ開催其ノ他ノ方法ニ依リ常ニ勞務擔當者ヲ教養訓練スルコト
- 三、勞務擔當者トシテ不適任ナル者ニ付テハ之ヲ改メシムル様事業主ヲ指導スルコト

令第二十條

厚生大臣ハ應府縣及鑛山監督局ノ高等官中ヨリ勞務監理官ヲ命ジ厚生大臣ノ命ヲ承ケ厚生大臣ノ指定スル重要事業場ニ付從業者ノ使用、從業、賃金、給料其ノ他勞務管理ニ關スル事項ニ關シ事業主及從業者ノ監督指導ヲ爲サシムルコトヲ得

令第二十一條 厚生大臣ハ國家總動員法第三十一條ノ規定ニ基キ重要事業場ノ勞務管理ノ狀況ニ關シ事業主ヨリ報告ヲ徵シ又ハ當該官吏ヲシテ重要事業場其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢セシムル場合ニ於テハ當該重要事業場ヲ所管スル勞務監理官ヲ除クノ外其ノ身分ヲ示ス證票ヲ携帶セシムベシ

令第二十二條 事業主ハ令第二十一條第一項ノ規定ニ依リ翌年中ノ從業者ノ厚生ニ關スル施設ノ計畫ヲ毎年十一月末日迄ニ、計畫實施ノ結果ヲ翌年一月末日迄ニ厚生大臣ニ報告スベシ
當該重要事業場ニ付令第二條ノ指定アリタル年ニ於テハ前項ノ施設ノ計畫ノ報告ノ期限ハ其ノ指定ノ日ヨリ二月以内トス

令第二十三條 事業主ハ令第二十一條第一項ノ規定ニ依リ毎月ノ從業者ノ殘業、遲刻、早退、缺勤及懲戒ノ狀況調ヲ翌月十五日迄ニ所管勞務監理官ニ提出スベシ
前項ノ調書ハ様式第五號乃至第七號ニ依ルベシ

令第二十四條 事業主左ノ場合ニ於テハ令第二十一條第一項ノ規定ニ依リ遲滯ナク地方長官ニ當該事項ノ概況ヲ報告スベシ
一 重要事業場ニ於テ從業者ノ死傷發生シタルトキ

- 二 重要事業場ニ於テ傳染病發生シタルトキ
 - 三 重要事業場ニ労働紛議發生シ又ハ其ノ發生ノ虞アリト認ムルトキ
 - 四 従業者ヨリ従業條件其ノ他ニ關シ申入ヲ受ケタルトキ
 - 五 國民徵用令ニ依ル被徵用者ニ關シ傷痍、疾病、死亡、逃走其ノ他長期ニ亘リ従業ヲ爲シ得ザル事故發生シタルトキ
 - 六 従業者ニ減給以上ノ懲戒ヲ加ヘントスルトキ
 - 七 重要事業場ニ於テ不時ノ災害アリタルトキ
 - 八 令又ハ本令ニ基ク厚生大臣ノ命令ニ基キ必要ナル措置ヲ爲シタルトキ
- 則第二十五條 令第二十一條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ様式第八號ニ依ル
- 則第二十六條 令及本令ノ規定ニ依リ厚生大臣又ハ地方長官ニ提出スル報告書又ハ許可若ハ認可ノ申請書ハ所管勞務監理官ヲ經由シ各正副四通ヲ提出スベシ
- 令第二十二條 厚生大臣ハ第二條、第四條、第五條第二項、第八條乃至第十條、第十一條第二項、第十三條、第十五條、第十六條第一項及第十九條ノ規定ノ施行ニ關スル重要事項ニシテ工場事業場管理令ニ依リ管理スル工場事業場ニ關スルモノニ付テハ當該工場事業場ヲ管理スル主務大臣ニ協議スベシ
- 令第二十三條 本令ハ國及道府縣ノ事業ニ之ヲ適用セズ
- 令第二十四條 第十條乃至第十四條ノ規定中會社經理統制令第九條ノ社員ニ關スルモノハ同令第七條ノ會社ニ之ヲ適用セズ

- 令第二十五條 工場就業時間制限令並ニ鑛業法第七十五條及工場法施行令第二十七條ノ四ノ規定ハ事業主ガ第四條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル場合其ノ重要事業場ニ之ヲ適用セズ
- 賃金統制令及工場法施行令第二十四條ノ規定ハ事業主ガ第十條第一項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケタル場合其ノ重要事業場ニ之ヲ適用セズ
- 令第二十六條 厚生大臣ハ本令ニ定ムル職權ノ一部ヲ地方長官(東京府ニカリテハ警視總監)又ハ鑛山監督局長ニ委任スルコトヲ得
- 則第二十七條 本令中地方長官トアルハ鑛業又ハ砂鑛業ニ關スルモノニ付テハ鑛山監督局長トス
- 則第二十八條 工場法施行規則第二條、第四條及第二十條中地方長官トアルハ重要事業場ニ付テハ厚生大臣トス
- 鑛夫就業扶助規則第五條、第六條第二項、第七條、第七條ノ二第二項、同條第三項、第十一條及第十一條ノ二第二項中鑛山監督局長トアルハ重要事業場ニ付テハ厚生大臣トス
- 附 則
- 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 工員昇給内規記載例 (昭和十七年四月二十日
厚生省勞務局長通牒)
- 第一條 昇給期日ハ毎年二回トシテ昇給資格ヲ有スルモノニ付六月二十五日及十二月二十五日ニ之ヲ行フモノトス

第二條 昇給調査期日ハ昇給期日ノ前月二十五日トス

第三條 前昇給ニ於ケル昇給調査期日ヨリ當該昇給調査期日迄ニ左ニ掲グル期間ヲ經過シタル者ヲ昇給資格者トス但シ新ニ從業シタル者ニ付テハ當該昇給調査期日迄ニ三ヶ月ヲ經過シタル者ヲ昇給資格者トス

賃 金
日給二圓五十錢未滿 六ヶ月
日給二圓五十錢以上 一ヶ年

第四條 昇給調査期日前六ヶ月ニ付缺勤三十日、一ヶ年ニ付缺勤六十日ヲ超エタル場合ニハ當該期ニ限り昇給セシメザルコトアルベシ但シ左ニ掲グル日數ハ缺勤日數ニ計算セズ

- 一 特ニ休業ヲ命ジタル場合ノ日數
- 二 業務上傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ休業シタル日數
- 三 軍事參會、公務出頭又ハ忌引若ハ法要ノ爲休業シタル日數ニシテ工員就業規則第〇〇條ニ定ムル日數

第五條 遅刻又ハ早退三回ヲ以テ缺勤一日ト看做シ前條ノ缺勤日數ニ算入ス但シ不可抗力ニ因ル遅刻其ノ他已ムヲ得ザル事由ニヨル早退ヲ除ク

第六條 工員第三條ノ期間内ニ就業規則ノ定ムル所ニ依リ左記回數懲戒セラレタル者ハ當該期ニ限り昇給セシメザルコト

責 二回以上

其ノ他ノ懲戒 一回以上

第七條 一回ノ昇給額ハ左ノ通トス

| | | | |
|-----------|-----|-----|-----|
| 賃 金 | 最高 | 標準 | 最低 |
| 日給一圓五十錢未滿 | 〇〇錢 | 〇〇錢 | 〇〇錢 |
| 同 一圓五十錢以上 | 〇〇錢 | 〇〇錢 | 〇〇錢 |
| 同 二圓五十錢未滿 | 〇〇錢 | 〇〇錢 | 〇〇錢 |
| 同 二圓五十錢以上 | 〇〇錢 | 〇〇錢 | 〇〇錢 |

第八條 養成工ノ昇給ハ第一條乃至第三條ノ規定ニ拘ラズ左ノ通トス但シ技術、勤務成績ニ依リ此ノ額ノ三割ノ範圍内ニ於テ増減スルコトアルベシ

| | | | |
|------|------|--------|--------|
| 學 年 | 昇給月日 | 九月二十五日 | 三月二十五日 |
| 第一學年 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 第二學年 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 第三學年 | 〇 | 〇 | 〇 |
| 第四學年 | 〇 | 〇 | 〇 |
| | 錢 | 錢 | 錢 |

第九條 工員召集解除若ハ除隊又ハ徵用解除等ノ場合ニ於テハ前各條ニ拘ラズ他ノ工員ニ比シ昇

管理令(昇給内規)

五編 福利關係

給ノ遅レタルヲ回復セシムルモノトス（入營又ハ應召中ノ者ニ對シテハ第四條ニ拘ラズ昇給期
毎ニ所定ノ昇給ヲナスモノトス）

勞働者年金保險法 (昭和十六年三月十日 法律第六十號)

勞働者年金保險法施行令 (昭和十六年十二月二十七日 勅令第二百五十號)

勞働者年金保險法施行規則 (昭和十六年十二月二十九日 厚生省令第七十號)

第一章 總 則

法第一條 勞働者年金保險ニ於テハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ老齡、廢疾、死亡又ハ脫退ニ關シ保險給付ヲ爲スモノトス

法第二條 勞働者年金保險ハ政府之ヲ管掌ス

法第三條 本法ニ於テ報酬ト稱スルハ事業ニ使用セラルル者ガ勞務ノ對價トシテ事業主ヨリ受ケル賃金又ハ給料及之ニ準ズベキモノヲ謂フ

賃金又ハ給料ニ準ズベキモノノ範圍及評價ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

△令第一條 勞働者年金保險法第三條第一項ノ賃金又ハ給料ニ準ズベキモノノ範圍ハ常時又ハ定期ニ受ケル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ掲ゲルモノヲ除ク

- 一 三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當
- 二 通勤手當
- 三 住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金又ハ給料ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ

年金法(總則)

四 其ノ他厚生大臣ノ指定スルモノ

△令第二條 賃金又ハ給料ニ準ズベキモノノ全部又ハ一部ガ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ健康保險法施行令第二條ノ規定ニ依リ地方長官（東京ニ在リテハ警視總監以下同ジ）ノ定ムル標準價格ニ依リ之ヲ算定ス但シ健康保險ノ被保險者タル被保險者ニ關シテハ同令同條ノ規定ニ依リ算定セラレタル價額ニ依ル

法第四條 報酬ノ額ニ基キ保險料又ハ保險給付ノ額ヲ定ムル場合ニ於テハ標準報酬ニ依リ之ヲ算定ス

標準報酬ニ關スル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

△令第三條 勞働者年金保險法第四條第一項ノ標準報酬ハ被保險者ノ報酬月額ニ基キ左ノ區別ニ依リ之ヲ定ム

| 標準報酬ノ等級 | 標準報酬額 | | 報酬月額額 |
|---------|-------|-----|--------------|
| | 年額 | 月額額 | |
| 第一級 | 百二十圓 | 十圓 | 十五圓未滿 |
| 第二級 | 二百四十圓 | 二十圓 | 十五圓以上二十五圓未滿 |
| 第三級 | 三百六十圓 | 三十圓 | 二十五圓以上三十五圓未滿 |
| 第四級 | 四百八十圓 | 四十圓 | 三十五圓以上四十五圓未滿 |

| | | | |
|------|--------|------|----------------|
| 第五級 | 六百圓 | 五十圓 | 四十五圓以上五十五圓未滿 |
| 第六級 | 七百二十圓 | 六十圓 | 五十五圓以上六十五圓未滿 |
| 第七級 | 八百四十圓 | 七十圓 | 六十五圓以上七十五圓未滿 |
| 第八級 | 九百六十圓 | 八十圓 | 七十五圓以上八十五圓未滿 |
| 第九級 | 千八十圓 | 九十圓 | 八十五圓以上九十五圓未滿 |
| 第十級 | 千二百圓 | 百圓 | 九十五圓以上百五圓未滿 |
| 第十一級 | 千三百二十圓 | 百十圓 | 百五圓以上百十五圓未滿 |
| 第十二級 | 千四百四十圓 | 百二十圓 | 百十五圓以上百二十五圓未滿 |
| 第十三級 | 千五百六十圓 | 百三十圓 | 百二十五圓以上百三十五圓未滿 |
| 第十四級 | 千六百八十圓 | 百四十圓 | 百三十五圓以上百四十五圓未滿 |
| 第十五級 | 千八百圓 | 百五十圓 | 百四十五圓以上 |

△令第四條 標準報酬ハ被保險者ノ資格ヲ取得シタル日ノ現在ニ依リ之ヲ定ム被保險者ノ報酬ガ其ノ増減アリタルニ因リ従前ノ報酬月額ニ基キ定メラレタル標準報酬ニ該當

年金法（總則）

セザルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ報酬ニ増減アリタル月ノ翌月（報酬ニ増減アリタル日ガ月ノ初日ナルトキハ其ノ月）ヨリ其ノ標準報酬ヲ變更ス

労働者年金保険法第二十二條ノ規定ニ依ル被保険者（以下任意繼續被保険者ト稱ス）ノ標準報酬ニ付テハ引續キ従前ノモノニ依ル但シ其ノ者ノ申請ニ依リ標準報酬ヲ減額スルコトヲ得

第二項ノ規定ハ前項但書ノ規定ニ依リ標準報酬ヲ減額スル場合ニ之ヲ準用ス

△令第五條

第三條ニ規定スル被保険者ノ報酬月額ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算定ス

一 年ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ被保険者ノ資格ヲ取得シタル日又ハ報酬ニ増減アリタル日ノ現在ニ於ケル年額ノ十二分ノ一

二 月ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ被保険者ノ資格ヲ取得シタル日又ハ報酬ニ増減アリタル日ノ現在ニ於ケル月額

三 日、時間、稼高又ハ請負ニ依リ報酬ヲ定ムル場合ニ於テハ被保険者ノ資格ヲ取得シタル日又ハ報酬ニ増減アリタル日ノ前一月間ニ現ニ使用セラルル事業ニ於テ同様ノ作業ニ従事シ同様ノ報酬ヲ受ケタル者ガ受ケタル報酬ノ額

四 前三號ノ規定ニ依リ算定シ難キモノニ付テハ被保険者ノ資格ヲ取得シタル日又ハ報酬ニ増減アリタル日ノ前一月間ニ其ノ地方ニ於テ同様ノ作業ニ従事シ同様ノ報酬ヲ受ケタル者ガ受ケタル報酬ノ額

五 前各號ノ二以上ニ該當スル報酬ヲ受ケル場合ニ於テハ其ノ各ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

六 同時ニ二以上ノ業務ニ於テ報酬ヲ受ケル場合ニ於テハ各業務ニ付前各號ノ規定ニ依リ算定シタル額ノ合算額

被保険者ノ報酬月額ガ前項ノ規定ニ依リ算定シ難キトキ又ハ前項ノ規定ニ依リテ算定シタル額ガ著シク不當ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ地方長官ニ於テ適當ノ方法ニ依リ之ヲ算定ス

△令第六條 前三條ノ規定ニ拘ラズ健康保険ノ被保険者タル被保険者ノ標準報酬ハ健康保険法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ等級ニ該當スル標準報酬ヲ以テ其ノ標準報酬トス

○則第二十三條 健康保険ノ被保険者タラザル任意被保険者ヲ使用スル事業主ハ令第四條第二項ノ規定ニ依リ其ノ被保険者ノ標準報酬ノ變更ヲ要スルニ至リタルトキハ遲滞ナク様式第五號ニ依ル届書（正副二通）ヲ地方長官ニ提出スベシ

○則第二十四條 地方長官ハ健康保険ノ被保険者タラザル任意被保険者ヲ使用スル事業主ニ對シ地方長官ノ定ムル日ノ現在ニ於ケル其ノ被保険者ノ報酬月額算定ノ基礎ノ届出ヲ命ズルコトヲ得事業主ハ前項ノ規定ニ依ル命令アリタルトキハ様式第五號ニ依ル届書（正副二通）ヲ前項ニ定ムル日ヨリ十日以内ニ地方長官ニ提出スベシ

○則第二十五條 健康保険組合ノ管掌スル健康保険ノ被保険者タル被保険者ヲ使用スル事業主ハ其ノ被保険者ニ付健康保険組合ヨリ健康保険法施行規則第五條第一項ノ規定ニ依ル標準報酬ノ變更ノ決定ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク様式第五號ニ依ル届書（正副二通）ヲ地方長官ニ提出スベシ

○則第二十六條

地方長官ハ健康保険ノ被保険者タラザル者ヨリ第五條ノ規定ニ依ル申請アリタ

ルトキ又ハ事業主ヨリ第二十三條若ハ第二十四條第二項ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ遅滞
ナク被保險者ノ標準報酬ヲ決定シ之ヲ事業主ニ通知スベシ標準報酬ヲ變更シタルトキ亦同ジ
事業主ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遅滞ナク之ヲ被保險者ニ告知スベシ

○則第二十七條

任意繼續被保險者ハ其ノ標準報酬ノ減額ヲ受ケントスルトキハ左ニ掲グル事項
ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官、住所地ヲ管轄スル地方長官ナキトキハ警視總監ニ提出スベシ
一 氏名、生年月日及住所

二 被保險者臺帳ノ記號及番號

三 現在ノ標準報酬ノ等級

四 希望スル標準報酬ノ等級

任意繼續被保險者ト爲ルト同時ニ標準報酬ノ減額ヲ受ケントスルトキハ其ノ標準報酬ノ減額ノ
申請ハ第十二條ノ申請書ニ前項第三號及第四號ニ掲グル事項ヲ附記シテ之ヲ爲スコトヲ得
第一項又ハ前項ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ地方長官、住所地ヲ管轄スル地方長官ナキト
キハ警視總監ハ其ノ標準報酬ヲ減額シ之ヲ其ノ被保險者ニ通知スベシ

●健康保險ノ被保險者ガ相當期間繼續シテ勞務ニ服スル能ハザルニ因リ現實ニ受クル其ノ報
酬ニ變更アリタル場合ハ常時ニ於ケル就業狀況等ノ變更ニ因リ報酬ニ變更アリタル場合ト異
リ標準報酬ノ變更ハ之ヲ爲サザルヲ適當ト思料セラレ候

健康保險法第六十二條第一項第一號該當者ニシテ同時ニ勞働者年金保險ノ被保險者トナル場
合ニ於テモ同様ノ義ニ有之候處其ノ被保險者ヲ使用スル事業主ヨリ事業經理ノ必要上已ムヲ

得ズシテ報酬月額ヲ適宜引下ゲ變更ノ届出アリタルトキハ右該當期間ニ限り便宜届出ニ基キ

處理スルモ已ムヲ得ザル義ト被認候御了知相成度(昭和十七年三月十三日
保險院社會保險局長通牒)

問 施行規則第四條第二號(勞働者年金保險法施行令第四條第二項)ノ規定ニ依リ標準報酬ノ

變更ヲ爲スベキ場合ハ報酬ノ増加又ハ減少ガ繼續的(増給、減給等ノ如キ)ナル場合ニ限リ

モノトセバ稼高拂ヲ受クル被保險者ノ如キ高低常ナキモノノ標準報酬ハ組合規約ニ依ル定期

以外ニハ之ヲ變更スベカラザル儀ト解スベキモノニ候哉

答 右ハ稼高拂ニシテ高低常ナキ状態ト雖モ漸次報酬ノ増加又ハ減少ヲ來シ標準報酬算定ノ基

礎トナリタル報酬ト著シキ差異アル状態ト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ改定セザルベカラザル

ハ勿論ニ有之(昭和五年四月二日
社會局保險部長通牒)

法第五條 保險料其ノ他本法ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及廢疾手當金ヲ受

クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキ、養老年金、廢疾年金、遺族年金、脫退手當金又ハ第三十三

條、第三十四條、第三十八條、第三十九條、第四十七條若ハ第五十一條ノ規定ニ依ル一時金ヲ

受クル權利ハ五年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

法第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定スル期間ノ計算ニ付テハ、法ニ別段ノ規定ア

ルモノヲ除クノ外民法ノ期間ノ計算ニ關スル規定ヲ準用ス

法第七條 勞働者年金保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セズ

法第八條 行政官廳又ハ保險給付ヲ受クベキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶

籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

法第九條 行政官廳ハ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者ヲ使用スル事業主ヲシテ其ノ使用スル者ノ異動及報酬ニ關シ報告ヲ爲サシメ、文書ヲ提示セシメ其ノ他勞働者年金保險ノ施行ニ必要ナル事務ヲ行ハシムルコトヲ得

○則第七十五條 事業主ハ勞働者年金保險ニ關スル書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ二年間保存スベシ

○則第七十六條 本令ノ規定ニ依リ事業主ノ爲スベキ左ニ掲グル事項ニ付テハ事業主ハ豫メ代理人ヲ選任シ之ヲ處理セシムルコトヲ得

一 第三條、第六條第二項、第九條、第十條、第十六條、第十七條、第十八條、第二十三條、第二十四條第二項及第二十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコト

二 第六條第二項ノ規定ニ依ル養老年金證書又ハ癡疾年金證書ノ提出ヲ爲スコト

三 第七條第二項ノ規定ニ依ル受領證ノ交付ヲ爲スコト

四 第八條第三項ノ規定ニ依ル記番號通知票ノ交付ヲ爲スコト

五 第二十六條第二項ノ規定ニ依ル標準報酬ノ告知ヲ爲スコト

事業主ハ前項ノ規定ニ依リ代理人ヲ選任シタルトキハ地方長官ニ其ノ旨ヲ届出ヅベシ

事業主ガ地方長官ニ對シ健康保險法施行規則第八條ノ二第二項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルトキハ併セテ前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルモノト看做ス

○則第七十七條 本令ノ規定ニ依リ申請書、請求書又ハ届書ニ事業主ノ同意書、市町村長ノ證明書又ハ醫師若ハ齒科醫師ノ診斷書ヲ添附スベキ場合ニ於テ其ノ申請書、請求書又ハ届書ニ相當ノ記載ヲ受ケタルトキハ證明書又ハ診斷書ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

法第十條 行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ被保險者ノ異動及報酬並ニ保險給付ノ決定ニ關シ當該官吏ヲシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ勤務場所ニ就キ關係者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ帳簿書類其ノ他ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

○則第六十九條 法第十條ノ規定ニ依ル質問又ハ検査ヲ爲ス場合ニ於テハ當該官吏ハ様式第六號ニ依ル證票ヲ携帶スベシ

法第十一條 保險料ヲ滯納スル者アルトキハ行政官廳ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スベシ

前項ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ督促手數料及延滞金ヲ徴收ス
第一項ノ規定ニ依ル督促ヲ受ケタル者其ノ指定ノ期限迄ニ保險料其ノ他本法ニ依ル徴收金ヲ納付セザルトキハ行政官廳ハ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分シ又ハ滯納者若ハ其ノ者ノ財産ノ在ル市町村ニ對シ之ガ處分ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ市町村ニ對シ處分ノ請求ヲ爲シタルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ徴收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ交付スベシ

△令第七條 勞働者年金保險法第十一條第一項ノ規定ニ依リ保險料納付ノ督促ヲ爲サントスルトキハ地方長官ハ納付義務者ニ對シ督促狀ヲ發スベシ

督促狀ヲ發シタルトキハ督促手數料トシテ二十錢ヲ徴收ス

○則第七十條 令第七條第一項ノ規定ニ依リ發スル督促狀ハ様式第七號ニ依ル

△令第八條 前條ノ規定ニ依リ督促ヲ爲シタル場合ニ於テハ徴收金額百圓ニ付一日三錢ノ割合ヲ

以テ納期限ノ翌日ヨリ徴収金完納又ハ財産差押ノ日ノ前日迄ノ日數ニ依リ計算シタル延滞金ヲ徴収ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合又ハ滞納ニ付酌量スベキ情狀アリト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 納入ノ告知書一通ノ徴収金額五圓未滿ナルトキ
- 二 納期ヲ繰上ゲ徴収ヲ爲ストキ
- 三 納付義務者ノ住所及居所ガ帝國内ニ在ラザル爲又ハ其ノ住所及居所共ニ不明ナル爲公示送達ノ方法ニ依リ納入ノ告知又ハ督促ヲ爲シタルトキ

督促狀ニ指定シタル期限迄ニ徴収金及督促手數料ヲ完納シタルトキハ延滞金ヲ徴收セズ

○則第七十一條 應府縣(東京府ヲ除ク)ノ官吏ガ滞納處分ノ爲財産ノ差押ヲ爲ス場合ニ於テ示スベキ其ノ命令ヲ受ケタル官吏タルノ證票ハ様式第八號ニ依ル

法第十二條 保險料其ノ他本法ニ依ル徴収金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ徴収金ニ次ギ他ノ公課ニ先ツモノトス

法第十三條 國稅徴収法第四條ノ七及第四條ノ八ノ規定ハ保險料其ノ他本法ニ依ル徴収金ニ關スル書類ノ送達ニ之ヲ準用ス

○則七十二條 法第十三條ノ規定ニ依ル公告ハ道府縣廳(東ニ在リテハ警視廳)又ハ勞働者年金保險ノ事務ヲ分掌スル應府縣出張所ニ之ヲ爲スベシ

法第十四條 政府ノ事業ニ使用セラルル者及使用セラレタル者ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

▲令第九條 政府ノ事業ニ使用セラルル者勅令ニ依リ組織セラレタル共濟組合ノ組合員ナル場合ニ於テハ其ノ者ハ勞働者年金保險ノ被保險者タラザルモノトス

法第十五條 本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ之ニ準ズベキモノトス

第二章 被保險者

法第十六條 健康保險法第十三條ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル勞働者ハ勞働者年金保險ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 常時十人未滿ノ勞働者ヲ使用スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者
- 二 勅令ヲ以テ指定スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者
- 三 女子
- 四 船員保險ノ被保險者
- 五 帝國臣民ニ非ザル者
- 六 前各號ニ掲グル者ノ外勅令ヲ以テ指定スル者

●健康保險法第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ハ健康保險ノ被保險者トス但シ臨時ニ使用セラルル者ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノ一年ノ報酬千二百圓ヲ超ユル職員及職員健康保險法第二十條ノ規定ニ依ル被保險者ハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 工場法第一條ノ規定ニ依リ同法ノ適用ヲ受クル工場

年金法(被保險者)

- 二 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業場又ハ工場
 - 三 左ニ掲グル事業ニシテ常時五人以上ノ労働者ヲ使用スルモノ
 - (イ) 物ノ製造、加工、選別、包装、修理又ハ解体ノ事業
 - (ロ) 鑛物ノ採掘又ハ採取ノ事業
 - (ハ) 電氣ノ傳導又ハ動力ノ發生若ハ傳導ノ事業
 - (ニ) 地方鐵道法又ハ軌道法ノ適用ヲ受クル事業
 - (ホ) (ニ)ニ掲グルモノヲ除クノ外貨物又ハ旅客ノ運送ノ事業ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモ
 - (ヘ) 貨物積卸ノ事業
 - (ト) 前各號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業
- 〔健康保險法施行令第九條ノ二〕 健康保險法第十三條第三號(ホ)ノ規定ニ依リ左ノ事業ヲ指定ス
- 一 自動車其ノ他ノ車ニ依ル運送ノ事業
 - 二 索道ニ依ル運送ノ事業
 - 三 航空機ニ依ル運送ノ事業
 - 四 平水區域ヲ航行スル船舶又ハ船舶法第二十條ノ規定スル船舶ニ依ル運送ノ事業
- 〔健康保險法施行令第九條ノ三〕 健康保險法第十三條(ト)ノ規定ニ依リ燒却、清掃又ハ屠殺ノ事業ヲ指定ス

〔健康保險法施行令第十九條ノ四〕

健康保險法第十四條第一項第四號ノ規定ニ依リ農産物、林産物若ハ水産物ノ栽培、採取、採捕、處理若ハ養殖、園藝、養蠶又ハ養畜ノ事業ヲ指定ス

〔公令第十條〕 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ労働者年金保險法第十六條第六號又ハ第十七條第二項ノ規定ニ依リ被保險者タラザルモノトス但シ第一號(イ)ニ該當スル者所定ノ期間ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ同號(ロ)若ハ(ハ)ニ該當スル者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 臨時ニ使用セラルル者ニシテ左ニ掲グルモノ
 - (イ) 六月以内ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者
 - (ロ) 使用期間ノ定ナク勞務供給契約ニ基キ又ハ試ニ使用セラルル者
 - (ハ) 日々雇入レラルル者
- 二 労働者年金保險法第十六條ノ規定ニ依ル被保險者(以下強制被保險者ト稱ス)又ハ第十七條ノ規定ニ依ル被保險者(以下任意被保險者ト稱ス)ノ資格ヲ取得シタルコトナクシテ五十歳ヲ超エ同法第十六條ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ被保險者タラザラントスル申請ヲ爲スモノ
- 三 前二號ニ掲グルモノヲ除クノ外厚生大臣ノ定ムル者

○附第三條 強制被保險者ノ資格ヲ取得シタル者アルトキハ事業主ハ様式第一號ニ依ル届書(正副二通)ヲ十日以内ニ地方長官ニ提出スベシ但シ當該被保險者ガ同時ニ政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者ノ資格ヲ取得シタルニ因リ事業主ガ地方長官ニ對シ健康保險法施行規則第十條第

年金法(被保險者)

一項但書ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

○則第四條 營テ被保險者タリシコトアル者ハ強制被保險者ノ資格ヲ取得シタルトキハ其ノ資格取得ノ際左ニ掲グル事項ヲ事業主ニ申出ヅベシ

- 一 被保險者臺帳ノ記號及番號
- 二 最後ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後其ノ氏名ニ變更アリタルトキハ變更前ノ氏名及變更ノ年月日
- 三 強制被保險者ノ資格ヲ取得スル直前ニ於テ任意繼續被保險者タリシ者ニ在リテハ其ノ旨

前項ノ規定ニ依ル申出ヲ爲シタル被保險者ニ付テハ事業主ハ前條ノ届書ニ其ノ申出アリタル事項ヲ附記スベシ

○則第二十一條 令第十條第二號ノ規定ニ依リ被保險者タラザラントスル申請ヲ爲サントスル者ハ事業主ノ同意ヲ得テ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スルニ至リタル日ヨリ一月以内ニ地方長官ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ氏名、生年月日及住所
- 二 申請者ヲ使用スル事業主ノ氏名及住所
- 三 申請者ガ現ニ使用セラルル事業所ノ名稱及所在地
- 四 前號ノ事業所ニ使用セラルルニ至リタル年月日
- 五 強制被保險者ト爲ルベキ資格ヲ有スルニ至リタル年月日
- 六 令第四十條第二項ノ規定ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ旨

前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

- 一 申請者ノ生年月日ニ關スル市町村長ノ證明書又ハ戶籍ノ抄本
- 二 事業主ノ同意書

○則第二十二條 令第十條第三號ノ規定ニ依リ季節的業務ニ使用セラルル者ヲ被保險者タラザル者トシテ指定ス但シ其ノ者ガ繼續シテ六月ヲ超エ使用セラルベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

● 施行規則第二十二條ノ規定ニ依ル季節的業務ノ種類ハ大正十五年十月二十三日附保發第一三八號社會局保險部長通牒ニ依リ示サレタル季節的業務ノ種類ニ據ルモノトス

(昭和十七年三月二日
保險院總務局長通牒)

〔大正十五年十月二十三日附社會局保險部長通牒ニ依リ指定サレタ季節的業務ノ種類〕

- 繭ノ乾燥
- 製糖
- 清酒、味淋、葡萄酒ノ醸造
- 製茶
- 製穀
- 製粉
- 澱粉ノ製造
- 清涼飲料水ノ製造
- 製氷

年金法(被保險者)

凍豆腐ノ製造
水産品ノ製造

魚介、果實、蔬菜類ノ罐詰又ハ瓶詰
「トマトソース」ノ製造
硫黄ノ採取及製鍊

● 令第十條第二號ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シ得ル者ハ昭和十七年一月一日ニ於テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ在リテハ同日ニ於テ五十歳ヲ超エタルコトヲ要シ同日後ニ於テ初テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ在リテハ其ノ資格取得ノ日ニ於テ五十歳ヲ超エタルコトヲ要スル義ニシテ被保險者ノ資格取得後ニ於テ五十歳ヲ超エタル者ハ當該申請ヲ爲シ得ザルモノニ有之尙保險給付及費用ノ負擔ニ關スル規定施行ノ日ニ於テ五十歳以上ノ被保險者タルモノハ法第七十二條ノ規定ニ依リ六月以上被保險者ナルトキハ脱退手當金ノ支給ヲ受ケ得ルヲ以テ令第十條第二號ニ依ル被保險者ノ適用除外ヲ受ケザルモ必ズシモ被保險者ノ不利益トナラザルノミナラズ却テ適用除外申請ヲ爲スコトガ其ノ利益ヲ受ケ得ル權利ヲ拋棄スル結果ヲ生ズベキ場合有之令第十條第二號ノ規定ニ依ル申請ノ受理ニ當リテハ法第七十二條ノ規定ノ趣旨ヲ説明ノ上可然指導相成度

追而本法一部施行ト同時ニ被保險者ノ資格ヲ取得シ昭和十七年二月一日現在ニ於テ被保險者ノ資格取得届ヲ提出シタル者ノ被保險者資格取得ノ日ハ昭和十七年一月一日ニ有之爲念

(昭和十七年三月十六日
保險院總務局長通牒)

● 勞働者年金保險法施行令第十條第二號ノ規定ニ依ル適用除外申請書ヲ受理シタル場合ニハ當該申請書ヲ保險院ニ送付スルコトト相成居候處其ノ者ノ被保險者資格取得届ヲ保險院送付前ニ右申請書ヲ受理シタル場合ニ於テハ該申請書ニ依リ地方廳ニ於テ其ノ者ノ被保險者資格ノ得喪ニ關シ適宜處理シ其ノ資格取得届並ニ適用除外申請書ハ當院ニ送付スル必要ナク又既ニ其ノ者ノ被保險者資格取得届ヲ保險院ニ送付シタル後ニ右申請書ヲ受理シタル場合ニ於テハ該申請書ノ送付ニ代ヘ適用除外申請者ノ氏名、生年月日及被保險者臺帳ノ記號番號(記號番號ノ決定ナキ者ニ付テハ其ノ旨)ヲ記載シタル報告書ヲ保險院ニ送付相成度此段及通牒候

(昭和十七年二月二十五日
保險院總務局長通牒)

● 強制被保險者タルベキ者ハ勞働者ニ限定セラレアルヲ以テ所謂職員又ハ準職員ハ被保險者タラザルコトトナルモ實際問題トシテハ勞働者ト然ラザル者トノ範圍ヲ適確ニ定ムルコト極メテ困難ナル場合アルベシカカル場合ニ於テハ個々ノ場合ニ付法ノ趣旨ニ鑑ミナルベク被保險者ト爲ルベキ者ノ利益ヲ考慮シタル上各種ノ資料ト四圍ノ事情トヲ參酌シテ決定スルノ外ナキモノトス尙左ニ掲グル勞働者ハ被保險者タルベキモノトス

- (一) 六月以上二年以内ノ短期雇傭契約ノ半島人勞働者
 - (二) 六月以上二年以内ノ期間ヲ附シテ徵用セラレタル勞働者
 - (三) 被保險者ノ資格取得後三年未滿ニシテ職員トナル見込アル勞働者尙本來職員タルベキ者ニシテ事務見習中勞働者ノ取扱ヲ受クル者ヲ含マズ(昭和十七年三月二日
保險院總務局長通牒)
- 問 勞働者年金保險法適用事業ノ男子従業員ニシテ事業本來ノ業務ニ直接關係ナキ給仕、小使、

年金法(被保險者)

門衛、寄宿舎賄夫又ハ工場内病院ノ看護婦衛生雜夫等ハ原則トシテ強制被保險者タラザルモノト承知致居候得共今般管内鐘淵紡績株式會社新町工場ニ於テハ可成多數ノ被保險者ヲシテ本法ニ均霑セシムベキ本社ノ方針ニ基クモノトシテ工場本來ノ業務ニ直接關係ナキ給仕、小使、寄宿舎賄夫、門衛、病院、衛生雜夫等ニ對スル資格取得届出有之候處右ノ内任意被保險者タリ得ル者ニ付テハ當該被保險者トシテ取扱ヒ得ベキモ其ノ他ノ者ニ對シテハ本保險ノ被保險者タリ得ザルモノト思料セラレ候得共或ハ又事業主ニ於テ斯ル意向アル場合ニ於テハ強制被保險者トシテ取扱ヒ支障ナキモノナリヤ疑義相生シ候條至急何分ノ御意見承知致度

答 二月二十七日附健資第一、三三二號ヲ以テ照會ニ係ル標記ノ件ニ關シテハ勞働者年金保險法適用事業ノ男子従業員ニシテ事業本來ノ業務ニ直接關係ナキ給仕、小使、門衛、寄宿舎賄夫等ハ事業主ノ希望如何ニ不拘原則トシテ強制被保險者タリ得ザルハ勿論任意被保險者ニモ爲リ爲ザルモノナルモ之等ノ者ト雖モ一方ニ於テ事業本來ノ作業若ハ之ニ直接關係アル作業ニ從事スル場合又ハ當該事業ニ於テ勞働者トシテノ取扱ヲ受ケ居ル場合ニ於テハ被保險者ト爲スモ差支ナキモノニ有之(昭和十七年三月十八日 保險院總務局長通牒)

問 勞働者年金保險被保險者ノ資格ニ關シ左記ノ通疑義有之候條何分ノ御回報相煩度此段及稟伺候也

記

一、昭和十六年九月八日附社發第一、三一五號ヲ以テ保險院社會保險局長通牒ニ依リ健康保險被保險者タル者ガ國民徵用令ニ基キ國ノ行フ總動員業務ニ從事スル場合ニ於テハ健康保險法

第六十二條第一項第一號ノ規定ヲ適用シ來リタル處勞働者年金保險法施行ニ伴ヒ右該當被保險者ニ就キ勞働者年金保險被保險者ノ資格ヲ存續セシムル場合ニ於テハ官業共濟組合員タルヲ以テ年金保險制度ノ資格ガ重複スル事トナルヲ以テ之ガ被保險者ノ資格ヲ如何ニスベキヤ

二、電氣ノ傳導、供給事業及交通運輸事業ノ如キハ事業所ノ地域廣大ニシテ且勞働者ヲ常時十人未満使用スル事業所ガ多數所在シ勞働者年金保險法實施ニ當リ各個々ノ事業所毎ニ之ガ適用ノ適格ヲ決定スルハ勿論ノ義ニ有之モ長期間資格ヲ存續スル要アル本制度ニ於テ同一ノ事業主ノ下ニ事業所間ノ轉勤等行ハルル毎ニ被保險者ノ資格期間存續スルモノ又ハ中斷スルモノ等生ズルトキハ被保險者ノ利害關係ニ重大ナル影響ヲ及ボスノミナラズ事務煩瑣ナルニ付本事業ノ如ク事業所ノ範圍廣大ニシテ且劇然タラザル事業ニ在リテハ平素被保險者ノ雇傭、進退、報酬ノ支拂扶助其ノ他ノ事務ヲ掌ル事務所ヲ以テ適用ノ事業所ト看做シテ可然哉。

三、電氣ノ傳導ノ事業トシテ送電線其ノ他所謂外線工事ニシテ屋内引込線ノ工事以外ノ業務ニ從事スルモノハ健康保險ノ被保險者トシテ取扱ヒ來リタル處配電統制令ニ依リ新ニ設立セラレタル配電會社ノ如ク電氣ノ傳導ト供給ノ事業トヲ行フ場合ニ在リテハ從前偶々組合管掌ナリシ爲ト其ノ組合ノ設立アル事業ノ從屬事業ナリシ爲ニ健康保險被保險者トシテ大半資格ヲ取得セシメ居レリ。

然ルニ勞働者年金保險法施行ニ伴ヒ右ノ如ク各組合ハ健康保險被保險者ノ範圍ヲ區々ニセシムルヲ以テ勞働者年金保險ノ被保險者資格取得届ニ於テ劇然タラザルモノアルニ付右會社ノ如キ場合ニ於テハ電氣ノ傳導ト供給ノ業務ニ從事スル者判然ト區分スルハ至難ニ付屋内引込線工

事ニ従事スル労働者ヲモ労働者年金保險ノ被保險者トシ電氣メーター測定、集金、修繕等ノ業務ニ従事スル者ハ労働者年金保險被保險者タラザルモノト解シテ可然哉。

答 一、被保險者ノ資格得喪ノ取扱ニ關シテハ昭和十七年三月二日附總年第五六號通牒ニ依リ健康保險ノ被保險者ノ資格得喪ニ關スル取扱ニ準ジ處理スベキモノナルトコロ被保險者ガ國民徵用令ニ依リ徵用セラレ國ノ行フ總動員業務ニ従事シ官業共濟組合ノ組合員ト爲リタル場合ニ於テモ右通牒ニ依リ取扱フベキモノトス (註 一七頁參照)

二、發電所、變電所又ハ蓄電所等ニシテ常時十人未滿ノ労働者ヲ使用スルモノニ使用セラルル労働者ハ強制被保險者タラザルモノトス尙電氣ノ傳導ノ事業及交通運輸ノ事業等ニアリテハ其ノ事業ヲ一體トシテ其ノ適否ヲ決定スベキモノトス

三、配電統制令ニ依リ新ニ設立セラレタル配電會社ニシテ電氣ノ傳導ト供給ト事業トヲ同時ニ行フ場合ニ於テ傳導ノ事業ト供給ノ事業トヲ劃然ト區別シ得ザルモノニアリテハ廣ク電氣ノ傳導ノ事業ト解シ其處ニ使用セラルル労働者ハ強制被保險者トシテ取扱フベキモノトス (昭和十七年七月二日 保險院總務局長通牒)

問 勞務ヲ金錢ニ見積リ之ヲ出資ノ目的トシ十六名(一名無限責任社員十五名有限責任社員)ヨリ成ル合資會社ノ各社員ガ該會社經營工場ニ職工トシテ工場本來ノ作業ニ従事シ別ニ報酬ノ給與ヲ受ケザル場合(但シ毎決算期ニハ利益配當ヲ受ク)健康保險ノ被保險者ニ包含セラレベキモノナルヤ否ヤニ關シ昭和二年十二月十日福井健康保險署長宛御回答ニ依レバ、法人ノ代表社員ガ工場ノ作業ニ直接關係アリト認メラルル場合ハ被保險者ニ包含セラレ資格ヲ認

定シ支障無之様思料致候モ本件ハ勞務ノ對價トシテ報酬ヲ受ケザルモノニ付キ聊カ疑義相生條條何分ノ御指示相仰度及照會候也

答 代表社員ヲ除キ被保險者タルベキモノトス (昭和七年三月三日 社會局保險部長通牒)

法第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル労働者ハ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下同シ)ノ認可ヲ受ケ労働者年金保險ノ被保險者トナルコトヲ得

- 一 前條第一號、第二號又ハ第三號ノ規定ニ該當スル者
- 二 健康保險法第十四條第一項第二號ノ事業ニ使用セラルル者
- 三 前二號ニ掲グルモノノ外勅令ヲ以テ指定スル事業ニ使用セラルル者
- 四 前條ノ工場、事業場又ハ事業ニ附屬スル事業及前三號ノ事業ニ附屬スル事業ニ使用セラルル者

前條第四號乃至第六號ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一項ノ認可ヲ申請スルニハ事業主ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

△令第十一條 労働者年金保險法第十七條第三號ノ規定ニ依ル事業ハ健康保險法第十四條第一項第四號ノ規定ニ依リ指定スル事業トス

●健康保險法第十四條第一項第二號ノ事業左ノ通指定ス (昭和十年四月一日 內務省告示第一七八號)

- 一、電信、電話、瓦斯又ハ水道ニ關スル工作物ノ建設、保存、修理又ハ破壊ノ工事
- 二、道路、河川、港灣、運河、鐵道及軌道ニ關スル土木工事
- 三、砂防工事

年金法(被保險者)

● 附屬事業トハ本來ノ事業ノ遂行ニ關係アル附帶的の事業ヲ指稱スルモノナルヲ以テ假令同一事業主ノ經營ニ屬スル事業ト雖モ獨立ノ事業ト認メ得ベキモノヲ含マズ(昭和十三年九月十三日社會局保險部決定)

○ 則第五條 任意被保險者ノ資格取得ノ申請ヲ爲サントスル者ハ様式第二號ニ依ル申請書(正副二通)ヲ地方長官ニ提出スベシ

嘗テ被保險者タリシコトアル者ハ前項ノ規定ニ依ル申請ヲ爲サントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ前項ノ申請書ニ附記スベシ

- 一 被保險者臺帳ノ記號及番號
- 二 最後ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後其ノ氏名ニ變更アリタルトキハ變更前ノ氏名及變更ノ年月日
- 三 任意繼續被保險者タリシ者ニ在リテハ其ノ旨

○ 則第八條 地方長官ハ初テ被保險者ノ資格ヲ取得シタル者ニ關シ保險院長官ヨリ其ノ被保險者臺帳ノ記號及番號ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ其ノ被保險者ヲ使用スル事業主ニ通知スルト共ニ被保險者臺帳ノ記號及番號ヲ記載シタル通知票(以下記號通知票ト稱ス)ヲ被保險者ニ交付スベシ

地方長官ハ記號通知票ヲ被保險者ニ交付セントスルトキハ之ヲ其ノ被保險者ヲ使用スル事業主ニ送付スベシ
事業主ハ前項ノ規定ニ依リ記號通知票ノ送付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ被保險者ニ交付スベシ

記號通知票ヲ滅失シタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ヅベシ

● 勞働者年金保險ニ關スル届書、申請書又ハ記號通知票ノ記載方ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ今般事務簡捷上ノ見地ヨリ之ガ記載方ニ付テハ左記ノ通取扱フモ差支ヘ無キモノト被認候條爾今右ニ依リ御取扱相成様致度(昭和十七年七月七日保險院總務局長通牒)

記

- 一 勞働者年金保險ニ關スル届書又ハ申請書ニ於テ氏名ニ振假名ヲ附スル場合ニ於テハ其ノ氏名ノ讀ミ方困難ナルモノノミトスルコト
- 二 記號通知票ノ交付ノ場合ニ於テハ氏名ノ振假名ハ之ヲ附セザルコト

○ 則第一條 勞働者年金保險ノ事務ヲ管掌スル地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ)

ハ本令中別段ノ定アル場合ヲ除クノ外勞働者年金保險法(以下法ト稱ス)第十六條ノ規定ニ依ル被保險者(以下強制被保險者ト稱ス)又ハ法第十七條ノ規定ニ依ル被保險者(以下任意被保險者ト稱ス)ニ付テハ其ノ被保險者ノ使用セラルル工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所(以下事業所ト總稱ス)ノ所在地ヲ管轄スル地方長官、法第二十二條ノ規定ニ依ル被保險者(以下任意繼續被保險者ト稱ス)ニ付テハ其ノ被保險者ノ住所地ヲ管轄スル地方長官、住所地ヲ管轄スル地方長官ナキトキハ警視總監トス
前項ノ規定ニ拘ラズ被保險者ガ健康保險組合ノ管掌スル健康保險ノ被保險者ナル場合ニ於テハ勞働者年金保險ノ事務ヲ管掌スル地方長官ハ健康保險組合ノ事務所ニシテ其ノ者ノ健康保險ノ被保險者ノ資格ニ關スル事務ヲ處理スル事務所ノ所在地ヲ管掌スル地方長官トス

年金法(被保險者)

○則第二條 被保險者ガ同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ其ノ者ノ保險ノ事務ヲ管掌スル地方長官ガ二以上アルトキハ被保險者ハ其ノ者ノ保險ノ事務ヲ管掌スベキ地方長官ヲ定メ其ノ旨ヲ其ノ地方長官ニ届出ツベシ

地方長官ハ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ關係アル地方長官ニ之ヲ通知スベシ
被保險者政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者ナル場合ニ於テ地方長官ニ對シ健康保險法施行規則第二條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルトキハ併セテ第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタルモノト看做ス

○則第十四條 被保險者ハ同時ニ二以上ノ業務ニ使用セラルルニ至リタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ十日以内ニ地方長官ニ提出スベシ但シ當該二以上ノ業務ニ使用セラルルコトニ付被保險者ガ地方長官ニ對シ健康保險法施行規則第十二條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 被保險者ノ氏名及生年月日
- 二 被保險者臺帳ノ記號及番號
- 三 各業務ニ付被保險者ヲ使用スル事業主ノ氏名及住所
- 四 各業務ニ付被保險者ガ現ニ使用セラルル各事業所ノ名稱及所在地

○則第十五條 強制被保險者又ハ任意被保險者ハ其ノ氏名ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク變更後ノ氏名及變更ノ年月日ヲ事業主ニ申出ツベシ

○則第十六條 事業主ハ前條ノ規定ニ依ル申出ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク左ニ掲グル事項ヲ記載

シタル届書ヲ地方長官ニ提出スベシ但シ當該被保險者ノ氏名ノ變更ニ付事業主ガ地方長官ニ對シ健康保險法施行規則第二十條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 事業主ノ氏名及住所
- 二 事業所ノ名稱及所在地
- 三 被保險者ノ氏名及生年月日
- 四 被保險者臺帳ノ記號及番號
- 五 變更前ノ氏名及變更ノ年月日

○則第十七條 事業主ハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ使用セラルル被保險者ニシテ常時坑内作業ニ従事スルモノ(以下坑内夫タル被保險者ト稱ス)ガ其ノ他ノ被保險者ト爲ルニ至リタルトキ又ハ其ノ他ノ被保險者ガ坑内夫タル被保險者ト爲ルニ至リタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ五日以内ニ地方長官ニ提出スベシ

- 一 事業主ノ氏名及住所
 - 二 事業所ノ名稱及所在地
 - 三 被保險者ノ氏名及生年月日
 - 四 被保險者臺帳ノ記號及番號
 - 五 坑内夫タル被保險者又ハ其ノ他ノ被保險者ト爲ルニ至リタル年月日
- 坑内夫タル被保險者ガ徵集、召集若ハ徵用セラレタル場合ニ於テ其ノ者ニ付使用關係ガ存續スルトキハ事業主ヨリ施行規則第十七條ノ規定ニ依ル届出ナキ限り坑内夫タル被保險者ト

年金法(被保險者)

シテ其ノ資格ヲ存続セシムベキモノトス(昭和十七年三月二日 保險院總務局長通牒)

○則第十八條 事業主ハ事業ノ種類、事業主ノ氏名若ハ住所又ハ事業所ノ名稱若ハ所在地ニ變更アリタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ五日以内ニ地方長官ニ提出スベシ但シ當該事項ノ變更ニ付事業主ガ地方長官ニ對シ健康保險法施行規則第二十條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 事業主ノ氏名及住所
- 二 事業所ノ名稱及所在地
- 三 變更前ノ事項及變更後ノ事項並ニ變更ノ年月日

○則第十九條 事業主ニ變更アリタルトキハ事業主及事業主タリシ者ハ連署ヲ以テ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ五日以内ニ地方長官ニ提出スベシ但シ當該事業主ノ變更ニ付事業主及事業主タリシ者ガ地方長官ニ對シ健康保險法施行規則第十八條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 事業ノ種類及新舊名稱
 - 二 事業所ノ所在地
 - 三 變更ノ年月日及事由
 - 四 事業主及事業主タリシ者ノ氏名及住所
- 事業ノ一部ニ付事業主ノ變更アリタル場合ニ於テハ前項ノ届書ニ其ノ變更アリタル事業ニ使用セラルル被保險者ノ氏名並ニ被保險者臺帳ノ記號及番號ヲ附記スベシ

● 徵用若ハ所謂企業合同等ニ因リ事業主ノ變更アリタル場合ノ取扱ニ關スル件

(昭和十七年三月二日 保險院總務局長通牒)

- 一、徵用若ハ所謂企業合同等ニ因リ被保險者ノ使用セラルル事業主ノ變更アリタル場合ニ於テモ同一ノ事業主ニ引續キ使用セラルル者ト看做シ取扱フベキモノトス
- 二、徵用若ハ所謂企業合同等ニ依リ資格ノ得喪アリタル被保險者ノ資格得喪ニ關スル届書ヲ提出セシムル場合ニ於テハ其ノ旨ヲ届書ノ備考欄ニ記載セシムルモノトス

● 健康保險組合ノ設立又ハ分合解散等ノ場合ニ於ケル労働者年金保險ノ事務引繼ニ關スル件

(昭和十七年四月九日 保險院總務局長通牒)

健康保險組合(以下組合ト稱ス)ノ設立、合併、分割、解散、事業ノ編入若ハ削除又ハ組合ノ事務所ノ設置、廢止若ハ所在地ノ變更アリタル爲労働者年金保險ノ被保險者ニ關シ管轄地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下同ジ)ニ變更アリタル場合ニ於ケル事務引繼ハ左記ニ依リ取扱ハレ度

記

- 一 組合ノ設立アリタル場合ニ於テハ其ノ組合ノ設立アリタル事業ノ工場、事業場又ハ工場若ハ事業場ナキ事業ニ在リテハ事務所(以下事業所ト總稱ス)ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ハ組合ノ事務所ニシテ健康保險ノ被保險者ノ資格ニ關スル事務ヲ處理スル事務所(以下組合事務所ト稱ス)ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ遲滞ナク事務ヲ引繼ゲコト
- 二 組合ノ合併アリタル場合ニ於テハ合併セラレタル組合ノ組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地

年金法(被保險者)

方長官ハ合併後ノ組合ノ組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ遲滞ナク事務ヲ引繼グコト

三 組合ノ分割アリタル場合ニ於テハ分割前ノ組合ノ組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ハ分割後ノ組合ノ組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ遲滞ナク事務ヲ引繼グコト

四 組合ガ解散シタル場合ニ於テハ其ノ組合ノ組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ハ其ノ組合ノ設立アリタル事業ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ遲滞ナク事務ヲ引繼グコト

五 組合ノ設立アル事業ニ他ノ事業ガ編入セラレタル場合ニ於テハ其ノ編入セラレタル部分ノ事業所ニ關シ其ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ハ其ノ事業ノ編入セラレタル組合ノ組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ遲滞ナク事務ヲ引繼グコト

六 組合ノ設立アル事業ヲ削除シタル場合ニ於テハ其ノ削除セラレタル部分ノ事業所ニ關スル組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ハ削除セラレタル部分ノ事業所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ遲滞ナク事務ヲ引繼グコト

七 組合事務所ノ設置アリタル場合ニ於テハ組合ノ分割又ハ組合ノ設立アル事業ニ他ノ事業ガ編入セラレタル場合ニ準ジ遲滞ナク事務ヲ引繼グコト

八 組合事務所ノ廢止アリタル場合ニ於テハ其ノ廢止セラレタル組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ハ其ノ廢止セラレタル組合事務所ノ執行セル事務ヲ繼承シタル組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ遲滞ナク事務ヲ引繼グコト

九 組合事務所ノ所在地ノ變更アリタル場合ニ於テハ其ノ變更前ノ組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ハ變更後ノ組合事務所ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ニ對シ遲滞ナク事務ヲ引繼グコト

十 組合ノ設立、合併、分割、解散又ハ組合ノ設立アル事業ニ他ノ事業ノ編入若ハ削除又ハ組合ノ事務所ノ設置、廢止若ハ所在地ノ變更アリタル場合ニ於テ事務引繼ヲ爲スベキ地方長官ハ遲滞ナク左ノ事項ヲ保險院長官ニ報告スルコト

イ 事務引繼ヲ要スベキ事業所ノ名稱及所在地
ロ 事務引繼ヲ要スルニ至リタル事由及引繼事由ノ發生シタル年月日
ハ 當該健康保險組合ノ名稱及組合事務所ノ所在地
ニ 事務引繼ヲ受クベキ地方長官名

十一 事務引繼ヲ完了シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ保險院長官ニ報告スルコト

● 適用事業所ガ休止又ハ廢止ト爲リタル爲被保險者ノ全部ガ解雇セラレタルニ因リ事業主ガ被保險者資格喪失届ヲ提出スル場合ニ於テハ届書中「資格喪失原因」欄ニ「事業休止」又ハ「事業廢止」ト記載スルコトト相成居候處事業主ハ本届書作成ニ當リ其ノ記載ヲ洩シ又ハ單ニ「解雇」トノミ記載スルヤノ懸念モ有之斯クテハ當該事業所ノ存廢不判明ニシテ

年金法(被保險者)

事業所臺帳整理上支障モ有之ニ付テハ事業主ヲシテ之ガ記載上過誤ナキ様指導スルト共ニ爾今適用事業所ガ休廢止ト爲リタル場合又ハ休止事業所ガ再ビ事業ヲ開始シタルトキハ其ノ旨遲滞ナク御報告相煩度此段及通牒候也(昭和十七年六月十六日 保險院年金保險課長通牒)

法第十八條 第十六條ノ工場、事業場又ハ事業ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ際同條ノ規定ニ依ル被保險者トシテ其ノ工場、事業場又ハ事業ニ使用セラルル者ニ付テハ前條ノ認可アリタルモノト看做ス

一 第十六條ニ規定スル労働者ヲ常時十人未滿使用スル工場、事業場又ハ事業ト爲ルニ至リタルトキ

二 第十六條第二號ノ規定ニ依リ指定スル工場、事業場又ハ事業ト爲ルニ至リタルトキ

三 前條第一項第二號、第三號又ハ第四號ノ事業ト爲ルニ至リタルトキ

○則第九條 法第十六條ノ工場、事業場又ハ事業ガ法第十八條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ事業主ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ五日以内ニ地方長官ニ提出スベシ但シ事業主ガ地方長官ニ對シ健康保險法施行規則第十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一 事業主ノ氏名及住所(事業主ガ法人ナルトキハ名稱及主タル事務所ノ所在地以下同ジ)

二 事業所ノ名稱及所在地

三 該當スルニ至リタル年月日及事由

法第十九條 第十六條ノ規定ニ依ル被保險者ハ其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日又ハ同條但

書ノ規定ニ該當セザルニ至リタル日、第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ同條ノ認可アリタル日ヨリ其ノ資格ヲ取得ス

法第二十條 第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ死亡シタル日、其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日又ハ第十六條第四號乃至第六號若ハ第十七條第二項ノ規定ニ該當スルニ至リタル日ノ翌日(其ノ事實アリタル日ニ更ニ前條ノ規定ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ日)ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

○則第十條 強制被保險者又ハ任意被保險者ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ事業主ハ様式第三號ニ依ル届書(正副二通)ヲ五日以内ニ地方長官ニ提出スベシ但シ左ニ掲グル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

一 當該被保險者ガ同時ニ政府ノ管掌スル健康保險ノ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルニ因リ事業主ガ地方長官ニ對シ健康保險法施行規則第十條第二項但書ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スベキ場合

二 任意被保險者ガ法第二十一條ノ認可ヲ受ケ其ノ資格ヲ喪失シタル場合
●被保險者ノ資格得喪ノ取扱ニ關スル件(昭和十七年三月二日 保險院總務局長通牒)
被保險者ノ資格得喪ニ關スル取扱ハ健康保險ノ被保險者ノ資格得喪ニ關スル取扱ニ準ジ處理スベキモノトス

●被保險者ノ資格得喪ニ關シ從來「現實ニ業務ニ使用セラルル状態ニ置カレタル日」ヲ以テ資格取得ノ日トシ又「現實ニ業務ニ使用セラレザル状態ニ置カレタル日」ヲ以テ資格喪失ノ日トシテ取扱居候處右ニ關シ伺出ノ次第モ有之ニ付テハ爾今健康保險法第十七條(労働者年

年金法(被保險者)

金保險法第十九條)ノ「其ノ業務ニ使用セラルルニ至リタル日」トアルハ事業主ト被保險者トノ間ニ法律上又ハ事實上ノ使用關係ノ發生シタル日又同法第十八條(勞働者年金保險法第二十條)ノ「其ノ業務ニ使用セラレザルニ至リタル日」トアルハ事業主ト被保險者トノ間ニ法律上モ事實上モ使用關係ノ存在セザルニ至リタル日ト解シ取扱相成度從ツテ被保險者ガ療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハザルコトナリ百八十日(六月)ヲ超ユルモ尙相當ノ期間内ニ治癒ノ見込ミ無キ場合又ハ長期間法第六十二條第一項各號ノ一(陸海軍ニ徵集其ノ他)ニ該當シタルガ如キ場合ニ於テ被保險者ノ資格ヲ喪失スルヤ否ヤモ一ニ上述ノ標準ニ依リ之ヲ判定スベキ義ニ有之候條今後右ノ趣旨ニ依リ御取扱相成度此段及通牒候也(昭和三年七月三日 社會局保險部長通牒)

●被保險者ノ資格取得ニ關シテハ昭和三年七月三日保護第四八〇號被保險者ノ資格得喪ニ關スル件(前掲通牒)ヲ以テ通牒致置候處此等通牒ノ趣旨ニ依リ使用關係發生スベキ場合ト雖モ工場法施行規則第八條又ハ鑛夫勞役(就業)扶助規則第十四條ノ規定ニ依ル就業禁止ニ該當スル者ニ付テハ該當セザルニ至ル迄ハ健康保險ニ於テハ未ダ業務ニ使用セラルルニ至ラザル者從ツテ被保險者ノ資格ヲ取得セザル者ト觀ルヲ妥當ト被認候條事業主ニ對シ右ノ如キ場合ニハ資格取得ニ關スル手續ヲ爲サシメザル様可然御取計相成度但シ事業主並被保險者ノ双方ニ於テ右禁止該當ノ事實アルニ拘ラズ善意且無過失ニテ就業シ被保險者ノ資格取得届ヲ提出シタル後相當期間經過シタル上其ノ事實アルコト分明トナリタル場合ノ如キハ當初ヨリ被保險者資格アルモノトシテ御取扱相成可然尙又現ニ被保險者タル者ニシテ禁止ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ故ヲ以テ資格喪失セシムベキモノニ非ザルハ勿論ニ有之(昭和五年六月四日 社會局長官通牒)

問 甲保險組合工場ノ被保險者ガ家事上ノ故ヲ以テ歸郷シタルニ依リ歸場スルモノト信ジ甲保險組合工場ニテハ其ノ儘資格喪失ノ手續ヲナサザリシモ其ノ後何等ノ手續モ爲サズシテ七月二十五日政府管掌ノ乙工場ニテ資格取得ノ旨届出タルニヨリ甲保險組合ヨリ臺帳寫ノ送付ヲ受ケタル處甲保險組合工場ニテハ被保險者ヨリ解雇申出ガ八月三十一日ナルヲ以テ法律上モ事實上モ九月一日ヲ以テ資格喪失スルモノトナシ右ノ通り臺帳記入アリ資格重復スルヲ以テ七月二十五日附甲工場喪失ノコトニ訂正方甲保險組合ニ照會シタルニ訂正シ難キ旨回答アリ依ツテ此ノ場合資格得喪ノ解釋ハ如何ニスベキモノナルヤ

答 甲保險組合ニ於テハ七月二十五日ヨリ被保險者ノ資格ヲ喪失セルモノトシテ處理スルヲ實際上妥當ト被認候條可然措置相成度(昭和五年十一月四日 社會局保險部長通牒)

問 被保險者ノ休職ニ關シテハ昭和六年二月四日附社會局保險部長通牒ニ依レバ休職中給料ヲ全然支給セラレザル場合ニシテ名義ハ休職ト雖モ實質ハ使用關係ノ消滅ト見ルヲ至當トスル場合ニ於テハ被保險者ノ資格ヲ喪失セシムル方適當トセラレ本縣ニ於テモ從來右趣旨ニ基キ取扱ヒ來リタル處今回ノ支那事變ニ依リ召集セラレタル爲休職ト爲リタル被保險者ニシテ給料ハ全然支給セラレザルモ歸郷ノ上ハ復職ヲ條件トセル者ニ對シテハ其ノ儘資格ヲ存續セシムルヲ時局柄適當ト被認候モ聊カ疑義有之候條何分ノ御指示相仰度及稟候候也

答 後段見解ノ通りニ有之(昭和十二年八月十八日 社會局保險部長通牒)

法第二十一條 第十七條ノ規定ニ依ル被保險者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ其ノ資格ヲ喪失スルコトヲ得

年金法(被保險者)

前項ノ認可アリタルトキハ被保險者ハ認可アリタル日ノ翌日ヨリ其ノ資格ヲ喪失ス

○則第十一條 任意被保險者ノ資格ヲ喪失セントスル者ハ事業主ニ其ノ旨ヲ申出デタル上様式第四號ニ依ル申請書(正副二通)ヲ地方長官ニ提出スベシ

法第二十二條 被保險者タリシ期間十四年以上二十年未滿ナル者ガ被保險者タラザルニ至リタル場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得但シ其ノ者ガ日本ノ國籍ヲ失ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依ル被保險者ニ對シテハ同項ノ規定ニ依ル被保險者ト爲リタル日以後ニ新ニ發シタル疾病又ハ負傷ニ因ル癱疾ニ關シテハ保險給付ヲ爲サズ

△令第十二條 被保險者タリシ期間十四年以上二十年未滿ナル者ハ被保險者タラザルニ至リタル場合ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタル日ヨリ三月以内ニ任意繼續被保險者タラントスル申請ヲ爲ストキハ繼續シテ被保險者ト爲ルコトヲ得

前項ニ規定スル期限ヲ經過シタル申請ト雖モ地方長官ニ於テ正當ノ事由アリト認ムルトキハ之ヲ受理スルコトヲ得

第一項ノ申請ヲ爲シタル者ガ初テ納付スベキ保險料ニ付第十三條第一號ニ掲グル事實アリタルトキハ繼續シテ其ノ被保險者ト爲ラザリシモノト看做ス

○則第十二條 任意繼續被保險者タラントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官、住所地ヲ管轄スル地方長官ナキトキハ警視總監ニ提出スベシ

一 氏名、生年月日及住所

二 被保險者臺帳ノ記號及番號

三 被保險者資格喪失ノ年月日

四 被保險者資格喪失ノ際使用セラレタル事業所ノ名稱及所在地

五 勞働者年金保險法施行令(以下令ト稱ス)第十二條第一項ノ期間經過後申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ事由

○則第二十條 任意繼續被保險者ハ其ノ氏名又ハ住所ニ變更アリタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ十日以内ニ地方長官、住所地ヲ管轄スル地方長官ナキトキハ警視總監ニ提出スベシ

一 氏名、生年月日及住所

二 被保險者臺帳ノ記號及番號

三 變更前ノ氏名又ハ住所

四 變更ノ年月日

法第二十三條 前條ノ規定ニ依ル被保險者ハ第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間ト前條ノ規定ニ依ル被保險者タリシ期間トヲ合算シテ二十年ニ達シタルトキ其ノ他勅令ヲ以テ定ムル事由ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ資格ヲ喪失ス

第二十條ノ規定ハ前條ノ規定ニ依ル被保險者死亡シタル場合及日本ノ國籍ヲ失ヒタル場合ニ之ヲ準用ス

△令第十三條 勞働者年金保險法第二十三條第一項ニ規定スル事由ハ左ノ如シ

年金法(被保險者)

- 一 保険料ヲ滞納シ労働者年金保険法第十一條第一項ノ規定ニ依ル指定ノ期限迄ニ其ノ保険料ヲ納付セザルトキ
 - 二 強制被保険者又ハ任意被保険者ト爲リタルトキ
 - 三 任意繼續被保険者ノ資格ヲ喪失セントスル申請ヲ爲シタルトキ
- 則第十三條 任意繼續被保険者ノ資格ヲ喪失セントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官、住所地ヲ管轄スル地方長官ナキトキハ警視總監ニ提出スベシ
- 一 氏名、生年月日及住所
 - 二 被保険者臺帳ノ記號及番號
 - 三 被保険者資格喪失ノ申請ヲ爲ス事由

第三章 保險給付及福祉施設

第一節 總 則

法第二十四條 被保険者タリシ期間ノ計算ハ被保険者ノ資格ヲ取得シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ資格ヲ喪失シタル月ノ前月ヲ以テ之ヲ止ム但シ十六日以後ニ於テ被保険者ノ資格ヲ取得シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ計算シ十六日以後ニ於テ被保険者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保険者タリシ期間ニ加算ス

前項ノ規定ニ拘ラズ被保険者ノ資格ヲ取得シタル月ニ於テ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ其ノ月ハ半月トシテ之ヲ被保険者タリシ期間ニ加算ス

被保険者ノ資格ヲ喪失シタル後更ニ其ノ資格ヲ取得シタル者ニ對シテ保險給付ヲ爲ス場合ニ於テハ前後ノ被保険者タリシ期間ハ之ヲ合算ス但シ左ニ掲グル期間ハ之ヲ合算セズ

- 一 脱退手當金ノ支給ヲ受ケタルトキハ其ノ計算ノ基礎ト爲リタル期間
- 二 命令ヲ以テ定ムル場合ヲ除クノ外同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ被保険者トシテ引續キ使用セラレタル實期間六月未満ナルトキハ其ノ期間前項但書ノ規定ハ第五十一條ノ規定ニ依リ差額ノ支給ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

○則第二十八條 左ニ掲グル場合ニ於テハ同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ被保険者トシテ引續キ使用セラレタル實期間六月未満ナルトキト雖モ其ノ期間ニ於ケル被保険者タリシ期間ハ之ヲ被保険者タリシ期間ニ合算ス

- 一 被保険者ガ死亡シタル場合
- 二 被保険者ガ癱瘓ト爲ルニ至リタル場合
- 三 被保険者ガ事業ノ都合ニ依リ解雇セラレタル場合
- 四 被保険者ガ疾病、負傷又ハ老衰ノ爲引續キ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハザルニ因リ退職シタル場合
- 五 被保険者ガ陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルニ因リ退職シタル場合
- 六 被保険者ガ徵用セラレタルニ因リ退職シタル場合
- 七 被保険者ガ就業規則又ハ之ニ準ズベキモノニ依リ定ムル停年ニ達シタルニ因リ退職シタル場合

年金法(給付)

八 被保險者ガ事業主ノ同意ヲ得テ退職シタル場合

九 女子タル被保險者ガ婚姻ノ爲退職シタル場合

法第二十五條 鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ノ事業場ニ使用セララル被保險者ニシテ常時坑内作業ニ従事スルモノ（以下坑内夫タル被保險者ト稱ス）ノ坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ付被保險者タリシ期間ヲ計算スル場合ニ於テハ其ノ實期間ニ付前條ノ規定ニ依リ計算シタル期間ニ三分ノ四ヲ乘ジテ之ヲ計算ス但シ左ニ掲グル期間ニ關シテハ前條ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス

一 前條ノ規定ニ依リ計算シタル期間三年未滿ナル者ノ坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間

二 坑内夫タル被保險者トシテ使用セラレタル實期間ニ付前條ノ規定ニ依リ計算シタル期間ガ十五年ヲ超ユル場合ニ於テ十五年ヲ超ユル部分ノ實期間

法第二十六條 遺族年金又ハ第三十三條、第三十四條、第三十八條、第三十九條若ハ第四十七條ノ規定ニ依ル一時金ヲ受クベキ遺族ノ範圍及順位ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

法第二十七條 養老年金、廢疾年金及遺族年金ノ支給ハ之ヲ支給スベキ事由ノ生ジタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ヲ可以テ終ル

〇則第三十條 内地ニ住所地ヲ有スル被保險者、被保險者タリシ者又ハ其ノ他ノ者ヨリ保險院長官ニ提出スル保險給付ニ關スル請求書又ハ届書ハ住所地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由シテ之ヲ提出スベシ

法第二十八條 政府ハ事故ガ第三者ノ行爲ニ因リテ生ジタル場合ニ於テ保險給付ヲ爲シタルトキハ其ノ給付ノ價額ノ限度ニ於テ保險給付ヲ受クベキ者ガ第三者ニ對シテ有スル損害賠償請求ノ權利ヲ取得ス

法第二十九條 保險給付トシテ支給ヲ受クル金銭ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セズ但シ養老年金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

法第三十條 保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ
第二節 養老年金

法第三十一條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル後五十五歳ヲ超エタルトキ又ハ五十五歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス

坑内夫タル被保險者トシテ第二十四條ノ規定ニ依ル計算ニ依リ十五年以上使用セラレタル者ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ其ノ者ガ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル後五十歳ヲ超エタルトキ又ハ五十歳ヲ超エ其ノ資格ヲ喪失シタルトキヨリ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄養老年金ヲ支給ス繼續シタル十五年間ニ於テ坑内夫タル被保險者トシテ同條ノ規定ニ依ル計算ニ依リ十二年以上使用セラレタル者ニ付亦同ジ

〇則第三十一條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ養老年金證書ヲ交付ス
養老年金證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 氏名、生年月日及住所
 - 二 被保險者臺帳ノ記號及番號
 - 三 最後ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル年月日
 - 四 最後ニ被保險者トシテ使用セラレタル事業所ノ名稱及所在地
 - 五 同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ在リテハ當該事業主ノ氏名又ハ當該事業所ノ名稱
 - 六 法第三十一條第二項ノ規定ニ該當スル者ニ在リテハ其ノ旨
 - 七 第二十九條第二項ノ規定ニ依リ養老年金ノ受給ヲ選擇スル者ニ在リテハ其ノ旨
- 前項ノ請求書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 生年月日ニ關スル市町村長ノ證明書又ハ戸籍ノ抄本
 - 二 印鑑票
 - 三 廢疾年金證書ノ交付ヲ受ケタル者ニシテ前項ノ請求書ニ同項第七號ニ掲グル事項ヲ記載シタルモノニ在リテハ其ノ證書(廢疾年金證書ヲ添付スルコト能ハザルトキハ其ノ事由書) 保險院長官ハ前項第三號ノ規定ニ依リ廢疾年金證書又ハ事由書ノ提出ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ受領證ヲ提出者ニ送付スベシ
- 則第三十二條 養老年金證書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載ス
- 一 養老年金證書ノ記號及番號
 - 二 養老年金受給者ノ氏名、生年月日及男女別

- 三 養老年金ノ額
 - 四 養老年金ノ支給開始ノ年月
- 則第三十四條 養老年金ハ毎年二月、五月、八月及十一月ノ四期ニ於テ各其ノ前月分迄ヲ支給ス但シ前支給期月ニ支給スベカリシ養老年金又ハ養老年金受給者ガ死亡シタル場合ニ於テ其ノ期ノ養老年金ハ支給期月ニ非ザル時期ニ於テモ之ヲ支給ス
- 則第三十五條 養老年金受給者ハ養老年金ノ支給ヲ受ケントスルトキハ別ニ指定スル官署ニ就キ養老年金證書(第六條ノ規定ニ依リ養老年金證書ヲ提出シタル者ニ在リテハ養老年金證書ノ受領證)ヲ提出シテ其ノ支給ヲ受クベシ
- 前項ノ場合ニ於テ使用スベキ印章ハ第三十一條第二項ノ請求書ニ添付シタル印鑑票ニ捺捺シタル印章(第三十八條ノ規定ニ依リ印章ヲ變更シタルトキハ變更後ノ印章)タルコトヲ要ス
- 則第三十六條 養老年金受給者ハ其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル屆書ヲ十日以内ニ保險院長官ニ提出スベシ
- 一 氏名及住所
 - 二 養老年金證書ノ記號及番號
 - 三 變更前ノ氏名及變更ノ年月日
- 前項ノ屆書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 養老年金證書
 - 二 氏名ノ變更ニ關スル市町村長ノ證明書又ハ戸籍ノ抄本

年金法(養老年金)

保險院長官ハ第一項ノ届書ノ提出ヲ受ケタルトキハ其ノ届書ニ添附シアル養老年金證書ヲ更訂シ之ヲ養老年金受給者ニ送付スベシ

○則第三十七條 養老年金受給者ハ其ノ住所ヲ變更シタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ遅滞ナク保險院長官ニ提出スベシ

- 一 氏名及住所
- 二 養老年金證書ノ記號及番號
- 三 變更前ノ住所及變更ノ年月日

○則第三十八條 養老年金受給者ハ第三十一條第二項ノ請求書ニ添附シタル印鑑票ニ押捺シタル印章ヲ變更セントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ニ新印鑑票ヲ添へ之ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 氏名及住所
- 二 養老年金證書ノ記號及番號

○則第三十九條 養老年金受給者ハ毎年三月中ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ニ届出ノ日前一月以内ノ間ニ於テ作製セラレタル其ノ者ノ生存ニ關スル市町村長ノ證明書又ハ戸籍ノ抄本ヲ添へ之ヲ保險院長官ニ提出スベシ但シ其ノ年ニ於テ養老年金受給者ト爲リタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 氏名及住所
- 二 養老年金證書ノ記號及番號

前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サザル者ニ對シテハ其ノ届出アル迄法第五十五條第二項ノ規定ニ依リ養老年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトアルベシ

○則第四十條 養老年金受給者ハ養老年金證書ヲ亡失シタル時又ハ養老年金證書ガ毀損汚斑シテ不判明ト爲リタル時ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル再交付ノ請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 氏名及住所
 - 二 養老年金證書ノ記號及番號
 - 三 亡失シタルトキハ其ノ事實
- 養老年金證書ガ毀損汚斑シテ不判明ト爲リタル場合ノ再交付ノ請求ナルトキハ前項ノ請求書ニハ其ノ養老年金證書ヲ添附スベシ

○則第四十一條 養老年金證書ノ再交付アリタルトキハ從前ノ養老年金證書ハ其ノ效力ヲ失フ

○則第四十二條 養老年金受給者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ハ遅滞ナク左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 届出者ノ氏名及住所
- 二 養老年金受給者ノ氏名、生年月日及死亡ノ年月日
- 三 養老年金證書ノ記號及番號（不詳ナルトキハ其ノ旨）

○則第四十三條 養老年金受給者ガ死亡シタル場合ニ於テ其ノ者ガ支給ヲ受クル權利ヲ有スル年金ニシテ支給ヲ受ケザリシモノノ支給ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 請求者ノ氏名及住所
 - 二 養老年金受給者ノ氏名、生年月日及死亡ノ年月日
 - 三 養老年金證書ノ記號及番號（不詳ナルトキハ其ノ旨）
 - 四 養老年金受給者ト請求者トノ續柄
- 前項ノ請求書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
- 一 養老年金證書（之ヲ添付スルコト能ハザルトキハ其ノ事由書）
 - 二 養老年金受給者ノ死亡ニ因ル相續關係ヲ明瞭ニシ得ル戶籍謄本又ハ除カレタル戶籍ノ謄本
- 勞働者年金保險法第三十一條ノ規定ニ依リ被保險者タリシ者ノ支給ヲ受クル養老年金ハ之ヲ乙種ノ事業所得又ハ所得稅第三十條第一項第九號ノ所得トシテ當該養老年金ニ付負擔シタル保險料ハ養老年金ノ所得計算上之ヲ必要ノ經費ニ算入ス（昭和十七年六月六日 保險院總務局長通牒）
- 法第三十二條** 養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
- 同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラルル養老年金ノ額ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ毎十年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
- 前二項ノ規定ニ拘ラズ養老年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ五十ヲ超

ユルコトヲ得ズ

法第三十三條 養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル養老年金ノ總額ガ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

法第三十四條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者（第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ヲ含ム以下同ジ）ガ養老年金ノ支給ヲ受クルコトナクシテ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テハ其ノ者ガ支給ヲ受クルコトヲ得ベカリシ養老年金ノ五年分ニ相當スル金額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

前項ノ規定ハ第三十九條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受クル場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

○**則第四十四條** 被保險者又ハ被保險者タリシ者ハ令第十九條但書ノ規定ニ依リ法第三十三條又ハ法第三十四條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受クベキ者ヲ豫告ニ依リ指定セントスルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル豫告書ヲ保險院長官ニ提出スベシ其ノ指定ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

- 一 豫告者ノ氏名、生年月日及住所
 - 二 被保險者臺帳ノ記號及番號（豫告者ガ養老年金受給者ナルトキハ養老年金證書ノ記號番號）
 - 三 指定セラルル者ノ氏名、生年月日及住所並ニ豫告者トノ續柄又ハ關係
- 前項ノ豫告書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ
- 一 指定セラルル者ト豫告者トノ續柄ヲ證スベキ書類

年金法（養老年金）

二 豫告書ニ押捺シタル印章ニ付テノ市町村長ノ印鑑證明書

○則第四十五條 前條ノ指定ヲ取消サントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル豫告取消書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

一 豫告者ノ氏名、生年月日及住所

二 被保險者臺帳ノ記號及番號(豫告者ガ養老年金受給者ナルトキハ養老年金證書ノ記號番號)

三 指定セラレタル者ノ氏名

前項ノ届書ニハ之ヲ押捺シタル印章ニ付テノ市町村長ノ印鑑證明書ヲ添附スベシ

○則第四十六條 法第三十三條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ

記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

一 請求者ノ氏名、生年月日及住所

二 養老年金受給者ノ氏名、生年月日及死亡ノ年月日

三 養老年金證書ノ記號及番號(不詳ナルトキハ其ノ旨)

四 養老年金受給者ト請求者トノ續柄又ハ關係及請求者ガ令第十九條但書ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ナルトキハ其ノ旨

五 請求者ガ令第十九條各號ニ掲グル者ナルトキハ他ニ同條但書ノ規定ニ依ル遺言ニ依リ指定セラレタル者ナシト認ムル旨、同條第三號ニ掲グル者ナルトキハ自己ノ外ニ之ニ該當スル者

ナシト認ムル旨

前項ノ請求書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添附スベシ

一 養老年金受給者ノ死亡當時其ノ家ニ在ル者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル戸籍ノ謄本又ハ除カレタル戸籍ノ謄本

二 養老年金受給者ノ死亡ニ關シ市町村長ニ提出シタル死亡診斷書、死體檢案書若ハ檢視調査ニ記載シタル事項ノ市町村長ノ證明書又ハ之ニ代ハルベキ書類

三 請求者ガ届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル配偶者ナルトキハ其ノ事實ヲ認メ得ベキ書類

四 請求者ガ令第十九條第三號ノ規定ニ該當スル者ナルトキハ其ノ事實ヲ認メ得ベキ書類

五 請求者ガ令第十九條但書ノ規定ニ依ル遺言ニ依リ指定セラレタル者ナル時ハ其遺言書ノ寫

○則第四十七條 法第三十四條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

一 請求者ノ氏名、生年月日及住所

二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名、生年月日及死亡ノ年月日

三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ被保險者臺帳ノ記號及番號(不詳ナルトキハ其ノ旨)

四 被保險者又ハ被保險者タリシ者ト請求者トノ續柄又ハ關係及請求者ガ令第十九條但書ノ規定ニ依リ指定セラレタル者ナルトキハ其ノ旨

五 請求者ガ令第十九條各號ニ掲グル者ナルトキハ他ニ同條但書ノ規定ニ依ル遺言ニ依リ指定セラレタル者ナシト認ムル旨、同條第三號ニ掲グル者ナルトキハ自己ノ外ニ之ニ該當スル者

ナシト認ムル旨

年金法(養老年金)

前條第二項ノ規定ハ前項ノ請求書ニ之ヲ準用ス

法第三十五條 養老年金ノ支給ヲ受クル者ガ被保險者ト爲リタルトキハ其ノ月ヨリ養老年金ノ支給ヲ停止ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ支給ヲ停止セラレタル被保險者ガ其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テハ前後ノ被保險者タリシ期間ヲ合算シテ養老年金ノ額ヲ改定ス

前項ノ規定ニ依リ養老年金ノ額ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ額ガ従前ノ養老年金ノ額ヨリ少キトキハ従前ノ養老年金ノ額ヲ以テ改定養老年金ノ額トス

〇則第三十三條 法第三十五條第一項ノ規定ニ依リ養老年金ノ支給ヲ停止セラレタル者ハ被保險者ノ資格ヲ喪失シタルトキハ保險院長官ニ對シ養老年金證書ノ返還ヲ請求スベシ

前項ノ場合ニ於テ使用スベキ印章ハ第三十一條第二項ノ請求書ニ添附シタル印鑑票ニ押捺シタル印章(第三十八條ノ規定ニ依リ印章ヲ變更シタルトキハ變更後ノ印章)タルコトヲ要ス

保險院長官ハ第一項ノ規定ニ依リ請求ヲ受ケタルトキハ養老年金證書ヲ更訂シ之ヲ年金受給者ニ送付スベシ

第三節 養老年金及廢疾手當金

法第三十六條 被保險者ノ資格喪失前ニ發シタル疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ガ勅令ノ定ムル期間内ニ治癒シタル場合又ハ治癒セザルモ其ノ期間ヲ經過シタル場合ニ於テ勅令ノ定ムル程度ノ廢疾ノ状態ニ在ル者ニハ其ノ程度ニ應ジ其ノ者ノ死亡ニ至ル迄廢疾年金ヲ支給シ又ハ一時金トシテ廢疾手當金ヲ支給ス

廢疾年金又ハ廢疾手當金ノ支給ヲ受クルニハ廢疾ト爲リタル日前五年間ニ被保險者タリシ期間三年以上ナル者タルコトヲ要ス

△令第二十條 勞働者年金保險法第三十六條ノ規定ニ依ル期間ハ廢疾ノ原因ト爲リタル疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付醫師又ハ齒科醫師ノ診療ヲ受ケタル日(健康保險ノ被保險者タル被保險者ニ在リテハ健康保險法ニ依ル療養ノ給付ヲ受ケタル日)ヨリ起算シ一年トス

△令第二十一條 勞働者年金保險法第三十六條ノ規定ニ依リ廢疾年金ヲ支給スベキ程度ノ廢疾ノ状態ハ別表第一ニ該當スルコトヲ要シ廢疾手當金ヲ支給スベキ程度ノ状態ハ別表第二ニ該當スルコトヲ要ス

〇則第五十八條 廢疾年金又ハ廢疾手當金ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ令第二十條ニ規定スル期間經過ノ日(其ノ期間内ニ廢疾ノ原因タル疾病又ハ負傷ガ治癒シタルトキハ其ノ治癒シタル日)ヨリ十日以内ニ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 氏名、生年月日及住所
- 二 被保險者臺帳ノ記號及番號
- 三 被保險者ニ在リテハ現ニ使用セララル事業所ノ名稱及所在地
- 四 被保險者タリシ者ニ在リテハ最後ニ被保險者ノ資格ヲ喪失シタル年月日並ニ最後ニ被保險者トシテ使用セラレタル事業所ノ名稱及所在地
- 五 廢疾ノ原因タル疾病又ハ負傷ノ傷病名及發病又ハ負傷ノ年月日並ニ治癒シタリヤ否ヤ及治癒シタルトキハ其ノ年月日

年金法(廢疾年金)

前項ノ請求書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ

- 一 癱疾ノ状態ノ程度及疾病又ハ負傷ノ經過ニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ診斷書
- 二 印鑑票

○則第四十九條 前條第一項ノ請求書ノ提出アリタルトキハ保險院長官ハ其ノ給付ニ關スル決定ヲ爲シ之ヲ請求者ニ通知スベシ

前項ノ場合ニ於テ癱疾年金ヲ受クル權利ヲ有スルモノト決定シタルトキハ保險院長官ハ請求者ニ癱疾年金證書ヲ交付ス

○則第五十條 癱疾年金證書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載ス

- 一 癱疾年金證書ノ記號及番號
- 二 癱疾年金受給者ノ氏名、生年月日及男女別
- 三 癱疾年金ノ額
- 四 癱疾年金ノ支給開始ノ年月

○則第五十一條 癱疾年金受給者ハ毎年三月中ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ保險院長官ニ提出スベシ但シ其ノ年ニ於テ癱疾年金受給者ト爲リタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 氏名及住所

- 二 癱疾年金證書ノ記號及番號

前項ノ届書ニハ届出ノ日前一月以内ノ間ニ於テ作製セラレタル其ノ者ノ生存ニ關スル市町村長ノ證明書又ハ戶籍ノ抄本ヲ添付スベシ但シ保險院長官ノ指定シタル者ニ在リテハ其ノ者ノ生存

ニ關スル市町村長ノ證明書又ハ戶籍ノ抄本ニ代ヘ届出ノ日前一月以内ノ間ニ於テ作製セラレタル癱疾ノ現狀ニ關スル醫師又ハ齒科醫師ノ證明書ヲ添付スベシ

前項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サザル者ニ對シテハ其ノ届出アル迄法第五十五條第二項ノ規定ニ依リ癱疾年金ノ支給ヲ一時差止ムルコトアルベシ

○則第五十二條 癱疾年金受給者ハ其ノ癱疾ガ癱疾年金ヲ受クル程度ノ状態ニ該當セザルニ至リタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ十日以内ニ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 氏名及住所

- 二 癱疾年金證書ノ記號及番號

三 癱疾ガ癱疾年金ヲ受クル程度ノ状態ニ該當セザルニ至リタル年月日(年月日ガ不詳ナルトキハ其ノ推定ノ年月日)

前項ノ届書ニハ癱疾年金證書ヲ添付スベシ但シ之ヲ添付スルコト能ハザルトキハ其ノ事由書ヲ添付スベシ

保險院長官ハ前項ノ規定ニ依リ癱疾年金證書又ハ事由書ノ提出ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク受領證ヲ届出者ニ送付スベシ

○則第五十三條 癱疾ガ癱疾年金ヲ受クル程度ノ状態ニ該當セザルニ至リタル場合及第二十九條第二項ノ規定ニ依リ養老年金ノ受給ヲ選擇シタル場合ニ於テノ其ノ期ノ癱疾年金ハ支給期月ニ非ザル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

前項ノ場合ニ於テノ其ノ期ノ癱疾年金ノ支給ヲ受ケントスル者ハ別ニ指定スル官署ニ就キ第三

十一條第四項又ハ前條第三項ノ受領證ヲ提示シテ其ノ支給ヲ受クベシ

○則第五十四條 第三十三條乃至第三十八條及第四十條乃至第四十三條ノ規定ハ癡疾年金ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

法第三十七條 癡疾年金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ二十五ニ相當スル金額トシ被保險者タリシ期間二十年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス
同一ノ事業主ノ工場、事業場若ハ事業又ハ同一ノ工場、事業場若ハ事業ニ於テ引續キ被保險者タリシ期間十年以上ナル者ニ關シテハ其ノ者ニ支給セラルル癡疾年金ノ額ハ前項ノ金額ニ其ノ期間ノ毎十年ニ對シ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬年額ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

第三十二條第三項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

癡疾手當金ノ額ハ被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七月分ニ相當スル金額トス

法第三十八條 被保險者タリシ期間二十年未滿ナル者ニシテ癡疾年金ノ支給ヲ受クルモノガ死亡シタル場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癡疾年金ノ總額ガ被保險者ノ資格喪失ノ際支給ヲ受ケタルコトヲ得ベカリシ脱退手當金及被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ七月分ノ合算額(被保險者タリシ全期間ノ平均報酬月額ノ十三月分ヲ超ユルトキハ十三月分ニ止ム)ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス
前項ノ規定ハ第三十一條第二項後段ノ規定ニ該當スル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ之ヲ適用セ

ズ

法第三十九條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ニシテ癡疾年金ノ支給ヲ受クルモノガ死亡シタル際其ノ者ノ死亡ニ關シ遺族年金ノ支給ヲ受クベキ者ナキ場合ニ於テ既ニ支給ヲ受ケタル癡疾年金ノ總額ガ癡疾年金ノ五年分ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ差額ヲ一時金トシテ其ノ遺族ニ支給ス

○則第五十五條 第四十四條乃至第四十六條ノ規定ハ法第三十八條又ハ法第三十九條ノ規定ニ依ル一時金ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

法第四十條 養老年金及癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一ヲ支給ス

○則第二十九條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スルニ至リタルトキハ其ノ癡疾年金ハ之ヲ支給セズ養老年金ヲ受クル權利ヲ有スルニ至リタル者ガ同時ニ癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スルニ至リタルトキ亦同ジ
癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ養老年金ヲ受クル權利ヲ有スルニ至リタルトキハ其ノ權利ヲ有スル者ノ選擇ニ依リ一ノ年金ヲ支給ス

法第四十一條 癡疾年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ癡疾年金ノ支給ヲ受クル程度ノ癡疾ノ狀態ニ該當セザルニ至リタルトキハ爾後癡疾年金ヲ支給セズ

法第四十二條 養老年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ癡疾手當金ヲ支給セズ

法第四十三條 第三十五條ノ規定ハ癡疾年金ノ支給ニ關シ之ヲ準用ス

第四節 遺族年金

法第四十四條 被保險者タリシ期間二十年以上ナル者ガ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ對シ十年間遺族年金ヲ支給ス

△令第十四條 遺族年金ヲ受クベキ者ノ範圍ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ配偶者（届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル者ヲ含ム以下同ジ）並ニ子、父、母、孫、祖父及祖母ニシテ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時ヨリ引續キ之ト同一戸籍内ニ在リ且被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時之ニ依リ生計ヲ維持シタルモノトス

被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時ヨリ出生ノ時迄引續キ之ト同一戸籍内ニ在リ且被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時之ニ依リ生計ヲ維持シタル者ト看做ス

△令第十五條 遺族年金ヲ受クベキ者ノ順位ハ前條第一項ニ掲グル順位ニ依ル

- 前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル
- 一 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ家督相續人（之ニ準ズベキ者ヲ含ム以下同ジ）又ハ戸主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス
 - 二 男ハ之ヲ女ヨリ先ニス
 - 三 男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニス
 - 四 嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス
 - 五 前三號ニ掲グル事項ニ付相同ジキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二項ノ規定ニ依ル同順位ノ孫ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

- 一 前項ノ規定ニ依リ先順位者タル者ノ子ハ之ヲ後順位者タル者ノ子ヨリ先ニス
 - 二 前號ノ規定ニ依ル同順位者ノ間ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス
- 第一項ノ規定ニ拘ラズ父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニシ祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス
- 先順位者タルベキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生ズルニ至リタルトキハ前四項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限り之ヲ適用ス

△令第十六條 男子タル配偶者ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時六十歳以上ナルトキ又ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時ヨリ引續キ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキトキニ限り之ニ遺族年金ヲ支給ス

被保險者若ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時十五歳以上ノ子若ハ孫又ハ被保險者若ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時六十歳未滿ノ父、母、祖父若ハ祖母ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時ヨリ引續キ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキトキニ限り之ニ遺族年金ヲ支給ス

△令第十七條 遺族年金ヲ受クル權利ヲ有スル者引續キ一年以上所在不明ナルトキハ後順位者ノ申請ニ依リ第十五條ノ規定ニ拘ラズ當該所在不明ナル者ノ順位ヲ繰下グルコトヲ得

○則第五十六條 遺族年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニハ遺族年金證書ヲ交付ス

遺族年金證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル請求書ヲ保險院長官ニ提出スベシ但シ第五十七條第一項ノ請求書ヲ提出スベキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 請求者ノ氏名、生年月日及住所
- 二 被保険者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名、生年月日及死亡ノ年月日
- 三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ被保險者臺帳ノ記號及番號(被保險者又ハ被保險者タリシ者ガ養老年金又ハ癡疾年金受給者ナリシトキハ養老年金證書又ハ癡疾年金證書ノ記號及番號)(何レモ不詳ナルトキハ其ノ旨)
- 四 被保險者又ハ被保險者タリシ者ト請求者トノ續柄又ハ關係
前項ノ請求書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
 - 一 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時其ノ家ニ在ル者ノ身分關係ヲ明瞭ニシ得ル戶籍ノ謄本又ハ除カレタル戶籍ノ謄本
 - 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡ニ關シ市町村長ニ提出シタル死亡診斷書、死體檢案書若ハ檢視調書ニ記載シアル事項ノ市町村長ノ證明書又ハ之ニ代ハルベキ書類
 - 三 請求者ガ届出ヲ爲サザルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ在ル配偶者ナルトキハ其ノ事實ヲ認メ得ベキ書類
 - 四 請求者ガ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時六十歳未満ノ男子タル配偶者ナルトキハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時ヨリ引續キ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキコトヲ認メ得ベキ書類
 - 五 請求者ガ配偶者ニ非ザルトキハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時其ノ者ニ依リ生計ヲ維持シタルコトヲ認メ得ベキ書類

六 請求者ガ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時十五歳以上ノ直系卑屬又ハ六十歳未満ノ直系尊屬ナルトキハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時ヨリ引續キ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキコトヲ認メ得ベキ書類

七 印鑑票

- 則第五十八條 遺族年金證書ニハ左ニ掲グル事項ヲ記載ス
- 一 遺族年金證書ノ記號及番號
 - 二 遺族年金受給者ノ氏名、生年月日及男女別
 - 三 遺族年金ノ額
 - 四 遺族年金ノ支給開始ノ年月及支給期間

○則第五十九條 遺族年金受給者ハ毎年三月中ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ保險院長官ニ提出スベシ但シ其ノ年ニ於テ遺族年金受給者ト爲リタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

- 一 氏名及住所
- 二 遺族年金證書ノ記號及番號
- 前項ノ届書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
 - 一 届出者ノ生存ニ關スル市町村長ノ證明書又ハ戶籍ノ抄本ニシテ届出ノ日前一月以内ノ間ニ於テ作製セラレタルモノ
 - 二 届出者ガ令第十六條第一項後段又ハ第二項ノ規定ニ該當スル者ナルトキハ現ニ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナキコトヲ認メ得ベキ書類

年金法(遺族年金)

第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ爲サザル者ニ對シテハ其ノ届出アル迄法第五十五條第二項ノ規定ニ依リ遺族年金ノ支給ヲ一持差止ムルコトアルベシ

○則第六十條 令第十七條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲サントスル者ハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル申請書ヲ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 申請者ノ氏名、生年月日及住所
- 二 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名及生年月日
- 三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ト申請者トノ續柄
- 四 遺族年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニシテ所在不明ナルモノノ氏名
- 五 遺族年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ニシテ所在不明ナルモノノ遺族年金證書ノ記號及番號
(不詳ナルトキハ其ノ旨)
- 六 遺族年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ所在不明ト爲リタル年月日及其ノ事由
前項ノ申請書ニハ左ニ掲グル書類ヲ添付スベシ
- 一 遺族年金ヲ受クル權利ヲ有スル者ガ引續キ一年以上所在不明ナルコトヲ證スルニ足ル書類
- 二 申請當時ニ於ケル申請者ノ戶籍ノ謄本
- 三 被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時其ノ者ニ依リ生計ヲ維持シタルコトヲ認メ得ベキ書類
- 四 申請者ガ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時十五歳以上ノ直系卑屬又ハ六十歳未満ノ直系尊屬ナルトキハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ死亡當時ヨリ引續キ不具廢疾ニシテ

生活資料ヲ得ルノ途ナキコトヲ認メ得ベキ書類

○則第六十一條 遺族年金受給者ハ令第二十二條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル届書ヲ十日以内ニ保險院長官ニ提出スベシ

- 一 氏名及住所
 - 二 遺族年金證書ノ記號及番號
 - 三 令第二十二條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル年月日及其ノ事由
前項ノ届書ニハ遺族年金證書ヲ添付スベシ但シ之ヲ添付スルコト能ハザルトキハ其ノ事由書ヲ添付スベシ
- 保險院長官ハ前項ノ規定ニ依リ遺族年金證書又ハ事由書ノ提出ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク受領證ヲ届出者ニ送付スベシ

○則第六十二條 遺族年金受給者ガ令第二十二條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テノ其ノ期ノ遺族年金ハ支給期月ニ非ザル時期ニ於テモ之ヲ支給ス

遺族年金受給者ガ令第二十二條各號ノ一ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テノ其ノ期ノ遺族年金ノ支給ヲ受ケントスル者ハ別ニ指定スル官署ニ就キ前條第三項ノ受領證ヲ提示シテ其ノ支給ヲ受クベシ

法第四十五條 遺族年金ノ額ハ左ノ區別ニ依ル金額トス

- 一 養老年金又ハ廢疾年金ノ支給ヲ受クル者ガ死亡シタル場合ニ於テハ其ノ者ニ支給セラルル養老年金又ハ廢疾年金ノ額ノ二分ノ一ニ相當スル金額